

「地域と学校の新たな協働体制の構築のための実証研究」
(学校を核とした地域力強化プラン)

学校と地域の新たな協働体制の構築のための実証研究
～コミュニティ・スクールの機能充実による教職員への効果検証等～

実施報告書

令和5年3月

三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社

<目 次>

I.	実証研究の概要	1
1-1.	実証研究の趣旨	1
1-2.	実証研究の内容	2
II.	教職員への効果等分析	3
1	実施概要	3
1-1.	実施方針	3
1-2.	分析に使用する指標	3
1-3.	調査対象	6
1-4.	分析方法	7
2	分析結果	8
2-1.	上位下位分析	8
2-2.	相関分析	10
2-3.	分析結果のまとめ	29
2-4.	分析結果に関するヒアリング調査.....	37
2-5.	基礎的調査の再分析（参考）.....	39
III.	CS ポートフォリオ簡易版の作成	42
1	実施概要	42
1-1.	実施方針	42
1-2.	簡易版の指標選択に関する考え方.....	43
1-3.	有識者委員会からの指摘	45
2	CS ポートフォリオ簡易版	48
2-1.	CS ポートフォリオ簡易版の指標構成	48
2-2.	結果集計・還元用ファイル.....	54
IV.	CS の運営に関するチェックシートの作成	56
1	実施方針	56
2	CS の運営に関するチェックシート	57
V.	手引きの作成・更新	58
1	実施概要	58

2	手引きの更新内容	61
VI.	委員会の設置・運営	64
1-1.	有識者委員の人選	64
1-2.	各回の議題	64
VII.	実証研究のまとめ	65
1-1.	実証研究より得られた成果	65
1-2.	今後に向けて	71

I. 実証研究の概要

1-1. 実証研究の趣旨

子どもたちを取り巻く課題が複雑化、多様化している中、学校・家庭・地域が連携・協働し、社会全体で子どもたちの学びや成長を支え、多様な課題を共に解決するとともに、新学習指導要領の「社会に開かれた教育課程」の理念を踏まえ、子どもたちに未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に備えることが求められている。

このため、文部科学省では、コミュニティ・スクール（以下「CS」という。）及び地域学校協働活動を一体的に推進しているが、令和4年度時点ではCSの設置率は公立学校の約43%、地域学校協働本部の整備率は公立学校の約58%にとどまっている。また、CSと地域学校協働活動は、学校や地域をとりまく様々な課題を解決するためのプラットフォームとしての機能・役割を担うことも期待されることから、各地域において、より実効性のある連携・協働体制となることや、協議や活動の中で不断の改善を図る仕組みなど、機能の更なる充実を図る必要がある。加えて、エビデンスに基づく政策形成が求められる中で、こうした地域と学校の連携・協働の効果及び現状について、より総合的な調査研究及びケーススタディを行うことで、施策効果を一層高めることが必要である。

本実証研究では、自治体におけるCSの導入促進・機能充実のための参考データとすることを目的に、CSの教職員への効果等検証に取り組んだほか、CSポートフォリオ簡易版の作成を行った。

1-2. 実証研究の内容

本実証研究では、大きく次の3つの事業に取り組んだ。

(1) 教職員への効果等検証

CS 導入校に対してのアンケート調査及びヒアリング調査により、CS の機能充実による教職員への効果等を検証した。

アンケート調査による効果検証については、令和2～3年度に実施したCS ポートフォリオ調査¹のうち教職員調査の結果を用いて、より詳細に再分析を行った。またその際、教職員への効果がよく出ていると思われる学校に対してヒアリング調査を行い、成果獲得に至るまでの要因や取組状況について詳細な情報を把握した。

(2) CS ポートフォリオ簡易版の作成

令和2～3年度委託事業において開発したCS ポートフォリオは、CS の運営や地域との協働の在り方を見直すために有効なツールである一方で、その作成のためには5主体にアンケート調査を実施しなければならず、活用のハードルが高いものでもあった。そこで、本年度はこれを簡略化したバージョンも作成し、既存のツールも含め全体の再構築に取り組んだ。加えて、CS ポートフォリオを普及・展開していくための説明資料となる手引きの刷新にも取り組んだ。

(3) 委員会の設置・運営

教職員への効果検証等やCS ポートフォリオ簡易版の作成にあたり、その方針や内容について議論するため、過年度の有識者委員を中心とした委員会を設置し、議論を行った。

¹ 令和2～3年度「学校と地域の新たな協働体制の構築のための実証研究」委託事業において、CS の現状及び効果を客観的に把握するためのツールである「CS ポートフォリオ」を開発した。このCS ポートフォリオを作成するために実施するアンケート調査のことを、「CS ポートフォリオ調査」と呼んでいる。

II. 教職員への効果等分析

1 実施概要

1-1. 実施方針

これまでに行われてきた全国的なCSの効果検証は、子どもや地域への効果を測るものを中心であり（令和2年度「コミュニティ・スクールの運営・意識・取組等に関する基礎的調査」等）、教職員への効果は十分に検証されてきていない。

しかしながら、CSは学校経営をよりよくしていくための「ガバナンス」の仕組みであることを考えると、教職員への効果（教育内容の質向上や業務効率化など）は重要な論点であり、今後CSを導入しようとする学校にとっても参考となる情報と考えられる。令和3年度実証研究において2市で実施したCSポートフォリオを用いた学校研修においても、教職員への効果に関しては現場の教職員・管理職等から強い関心及び気づきが寄せられた。

過年度実証研究にて開発したCSポートフォリオには、教職員への効果を把握する指標が含まれている。しかしながら、CSポートフォリオは個別の学校における現状把握・振り返りを支援することを主目的としたツールであったため、過年度のCSポートフォリオ調査では、教職員への効果分析は学校単位での分析を行うにとどまっていた。

一方で、令和2年度～令和3年度に実施したCSポートフォリオ調査の教職員票を合わせるサンプルサイズは約1,000であり、対象とした学校・地域の多様性も担保されている。

そこで本事業においては、令和2年度～令和3年度に実施したCSポートフォリオ調査の教職員票を再分析することで、より詳細で全国的な傾向として、教職員への効果を見出すことに取り組んだ。加えて、学校単位の結果も概観し、教職員への効果が出ていると思われる学校に対してヒアリング調査を行い、成果獲得に至る要因や詳細な状況を把握した。

1-2. 分析に使用する指標

分析に使用する指標は、CSポートフォリオに含まれる指標のうち、①協議会の運営（学校運営協議会委員に尋ねたアンケート結果）、②教職員の意識／③教職員の活動／④教職員への効果（教職員自身に尋ねたアンケート結果）とする。

これらを紐づけて分析し、相関関係（小分類同士、小分類と指標、指標同士など）を見ることで、協議会運営の状態や、教職員の意識・活動の状態が、教職員への効果にどのような影響を与えているかを分析した。

具体的な指標一覧は次ページ以降の表の通りである。なお、すべての指標に関して、アンケートでは4件法（4：そう思う、3：どちらかといえばそう思う、2：どちらかというと思わない、1：そう思わない 等）を用いて回答を得ている。

図表 II-1 ①協議会の運営

小分類	細分類 (参考)	指標
自律性	法定 3 権限の有無	学校運営の基本方針の承認にあたり、協議会委員による議論を行う
		学校運営に関して率直な意見を述べる機会がある
		教職員の任用について提案や意見を述べる機会がある
	法定 3 権限の適切な運用	教職員は、協議会からの意見を重視し、それをふまえた学校運営を行っている 教職員だけでなく、協議会やその構成メンバーに、よりよい学校づくりをすすめる自覚がある
対等性	関係主体の対等性	地域住民側からの意見や提案が持ち込まれることがある 子どもの意見を反映させる機会や仕組みがある
		議論は、特定の人意見に左右されることはない 協議会内は、忌憚なく意見を出し合える雰囲気がある
	議論の対等性	
持続性	協議会の目的・目標の共有	学校運営協議会の役割や運営について、委員全員で確認し合えている 学校、家庭、地域全体で地域で育てたい子ども像が共有されている
	持続的な議論体制	校長等、教職員の異動に関わらず、継続して議論ができる体制がある 学校運営協議会の運営方針・方法について、振り返り・見直しを行う機会がある
熟議度	企画段階からの協議	協議会で議論すべき課題の選定、議論の企画段階から関わることがある
	見直しが許容される協議	学校側の提案事項を承認するだけでなく、より良い学校運営のために建設的に議論することがある 当初の議案が、議論によって変更・改善されることがある
	内省・評価の実施・反映	協議会で決定して、実施した取組に対して、振り返りや内省を行う時間がある 学校評価などの各種の評価結果を活かした改善について、議論が行われている
実行性	学校長の主導的役割	学校長の主導で、協議会の内容が有意義になったと感じることがある 協議された事項の実行にあたり、学校長は期待される役割を果たしている
	実行を見据えた役割分担	議論の結果、各主体（学校・保護者・地域の大人等）が実行すべきことが明確になっている 協議会で議論した活動に自ら参加したり、活動の一部を担ったりすることがある
	教職員との協力・連携	協議された事項の実行にあたり、教職員は期待される役割を果たしている
共有性	多様な主体の巻き込み	地域住民や保護者は、誰が協議会委員になっているか知っている
	情報の共有	学校教育目標や学校運営の基本方針が確認しやすい形で共有されており、内容は理解している 学校の問題や悩みは、協議会委員の中で共有されている
		協議会からの情報発信

図表 II-2 ②教職員の意識

小分類	細分類 (参考)	指標
「地域とともにある学校」という認識	「地域とともにある学校」という認識	保護者や地域住民が学校運営に関わることは、必要なことだ
		地域の人が関わると、学校運営が混乱してしまう
		より良い学校づくりのためには、地域の人にも学校の様子や取組を知ってもらう必要がある
協議会の意義の理解	協議会への関心	協議会での協議・決定内容の情報については、定期的に確認している
		協議会での協議・決定事項に関心がある
		学校での活動について、協議会委員に相談したいと思うことがある
	協議会への効力感	協議会で決定されたことやその活動は、学校にとって意味のあることだ
協議会での協議によって、何か役割が与えられたら果たしたい		

図表 II-3 ③教職員の活動

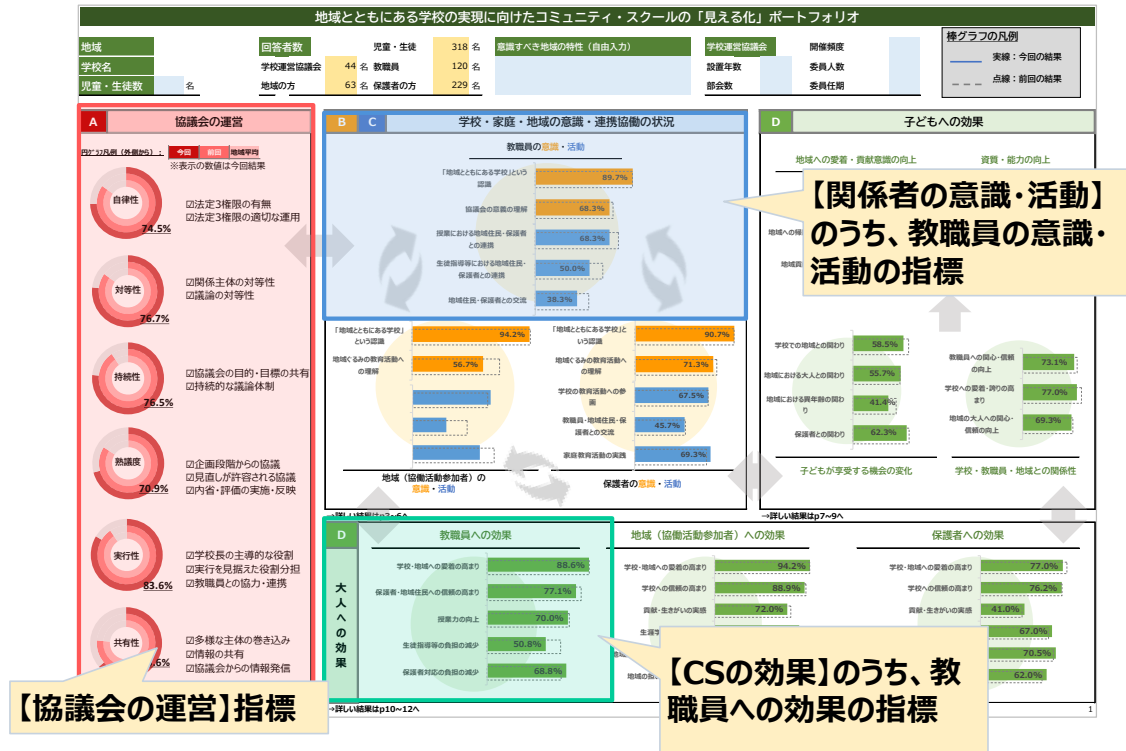
小分類	細分類 (参考)	指標
授業における地域住民・保護者との連携	授業における地域との連携	地域との協働だからできる授業がある
		授業で、保護者や地域住民に授業支援やゲストティーチャーをお願いする
		授業づくりに、保護者や地域住民が参画・支援することがある
		教室内の授業で、地域の題材や地域の課題を扱う
生徒指導・生活指導における地域住民・保護者との連携	生徒指導・生活指導における地域との連携	子どもの生徒指導・生活指導において、必要があれば地域住民と協力してフォローする
		地域住民から得られた情報で、早期に子どもの悩みに向き合えたことがある
地域住民・保護者との交流	地域の大人との交流	保護者や地域住民とは、気軽に会話できる
		学校での活動について、保護者や地域住民に相談する

図表 II-4 教職員への効果

小分類	細分類 (参考)	指標
学校・地域への愛着の高まり	学校・職業への愛着	教師という仕事にやりがいを感じる
	地域への愛着	学校のある地域に愛着を感じる
		今の学校を離れても、転勤先でも地域と協働したい
保護者・地域住民への信頼の高まり	保護者・地域住民への信頼の高まり	保護者や地域の方は、学校の課題や問題点を理解してくれている
		保護者や地域の方は、学校にとって有意義な意見・提案をしてくれる
授業力の向上	教職員の資質・能力の向上	授業に活用できる地域資源や地域課題を理解している
	授業の質向上の実感	授業のねらいに応じて、効果的に地域資源等を活用した授業を行うことができる
		授業は、学校外にもサポートしてくれる人がいる
地域の人と協力することで、授業の内容の向上につながったことがある		
生徒指導・生活指導の負担の減少	生徒指導・生活指導の負担の減少	地域の人とのふれあいや地域での活動によって、勉強が好きになった子どもがいる
		子どもの生徒指導・生活指導について、学校外にも手伝ってくれる人がいる
		地域の方が子どもの話を聞いてくれたり、アドバイスをしてくれたりすることが、生活指導の負担軽減につながっている
保護者対応の負担の減少	保護者対応の負担の減少	地域の人と協力することで、子どもの問題行動の解決につながっている
		保護者や地域住民の学校への批判・苦情は少ない
		保護者や地域住民対応の負担は大きくない

CS ポートフォリオの総括表でみると、下図の色枠で囲んでいる部分の指標に該当する。

図表 II-5 使用する指標（CSポートフォリオ総括表より）



1-3. 調査対象

調査対象は、令和3年度及び令和2年度に実施したCSポートフォリオ調査の対象校とし、校数及びサンプル数は以下の表の通りである。

図表 II-6 対象サンプル

年度	都道府県数	市町村数	学校数	協議会委員サンプル	教職員サンプル
R2	19	20	48校 ・小学校 30校 ・中学校 17校 ・義務教育学校 1校	320	652
R3	2	2	18校 ・小学校 10校 ・中学校 7校 ・小中学校 1校	132	273
合計	21	22	66校 ・小学校 40校 ・中学校 24校 ・義務教育学校 1校 ・小中学校 1校	452	925

注釈）それぞれの年度の回答データにおいて、教職員サンプルが0の学校は分析対象から除外している。

1-4. 分析方法

以下の3つの方法により分析を行った。

(1) 上位下位分析

協議会運営の状態と教職員の意識・活動・効果との関係性を分析するため、「A：協議会の運営」の上位／下位と、「B：教職員の意識」「C：教職員の活動」「D：教職員への効果」の上位／下位との関係性をクロス集計によって分析した。

本分析では、「A：協議会の運営」を一つの統合指標と見なし、57校の平均値を境に上位校／下位校に振り分けた。同様に「B：教職員の意識」「C：教職員の活動」「D：教職員への効果」についても上位校／下位校に振り分けており、それぞれの上位／下位情報を一つのデータセットとして分析を行っている。

(2) 相関分析

① 学校レベルデータ分析

協議会運営の状態と教職員の意識・活動・効果との関係性を分析するため、「A：協議会の運営」の学校平均値（協議会委員の回答の単純平均を学校レベルデータとしたもの）と「B：教職員の意識」「C：教職員の活動」「D：教職員への効果」の学校平均値（教職員の回答の単純平均を学校レベルデータとしたもの）の相関分析を行った。

本分析におけるデータセットは、「A：協議会の運営」の学校平均値（協議会委員による1～4の回答の単純平均値）と、「B：教職員の意識」「C：教職員の活動」「D：教職員への効果」の学校平均値（教職員による1～4の回答の単純平均値）を紐づけて一つのデータセット（＝学校レベルデータセット）にしている。

② 個人レベルデータ分析

教職員の意識・活動と教職員の成果実感との関係性を分析するため、「B：教職員の意識」「C：教職員の活動」「D：教職員への効果」の各個人回答（個人レベルデータ）の相関分析を行った。

本分析におけるデータセットは、教職員による「B：教職員の意識」「C：教職員の活動」「D：教職員への効果」の回答値をそのまま用いている（＝個人レベルデータセット）。

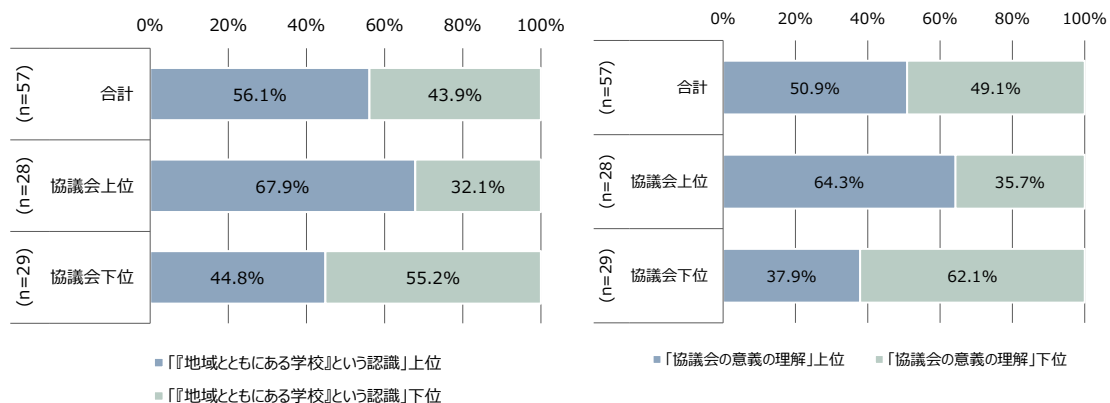
2 分析結果

2-1. 上位下位分析

① 協議会の運営×教職員の意識

図表 II-7 は、「協議会の運営」の上位／下位と「教職員の意識（小分類ごと）」の上位／下位との関係性をクロス集計によって分析したものである。グラフをみると、「協議会の運営」の上位校（協議会上位）ほど、教職員の意識の「『地域とともにある学校』という認識」「協議会の意義の理解」いずれも、上位となっている割合が高い。

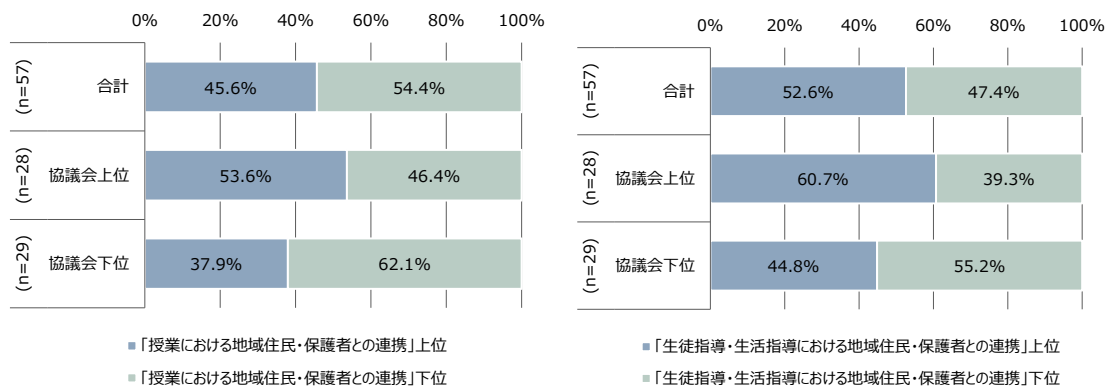
図表 II-7 協議会の運営×教職員の意識（上位下位分析）

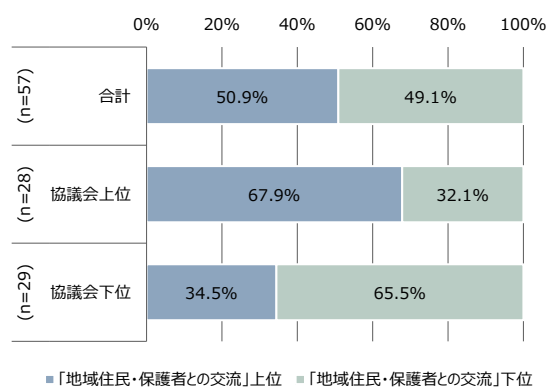


② 協議会の運営×教職員の活動

図表 II-8 は、「協議会の運営」の上位／下位と「教職員の活動（小分類ごと）」の上位／下位との関係性をクロス集計によって分析したものである。グラフをみると、「協議会の運営」の上位校（協議会上位）ほど、教職員の活動の「授業における地域住民・保護者との連携」「生徒指導・生活指導における地域住民・保護者との連携」「地域住民・保護者との交流」いずれも、上位となっている割合が高い。

図表 II-8 協議会の運営×教職員の活動（上位下位分析）

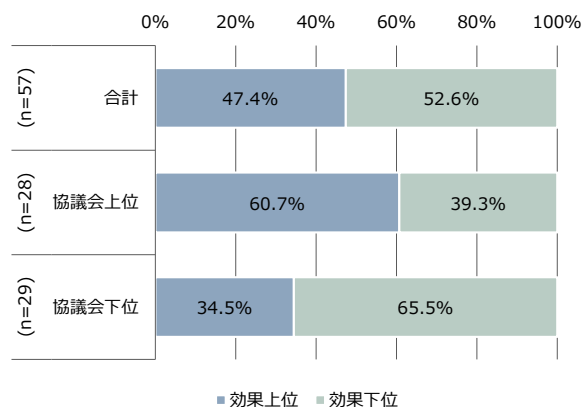




③ 協議会の運営×教職員への効果

図表 II-9 は、「協議会の運営」の上位／下位と「教職員への効果（全ての指標を1つの統合指標とした）」の上位／下位との関係性をクロス集計によって分析したものである。グラフをみると、「協議会の運営」の上位校（協議会上位）ほど、教職員への効果でも上位となっている割合が高い。

図表 II-9 協議会の運営×教職員への効果（上位下位分析）



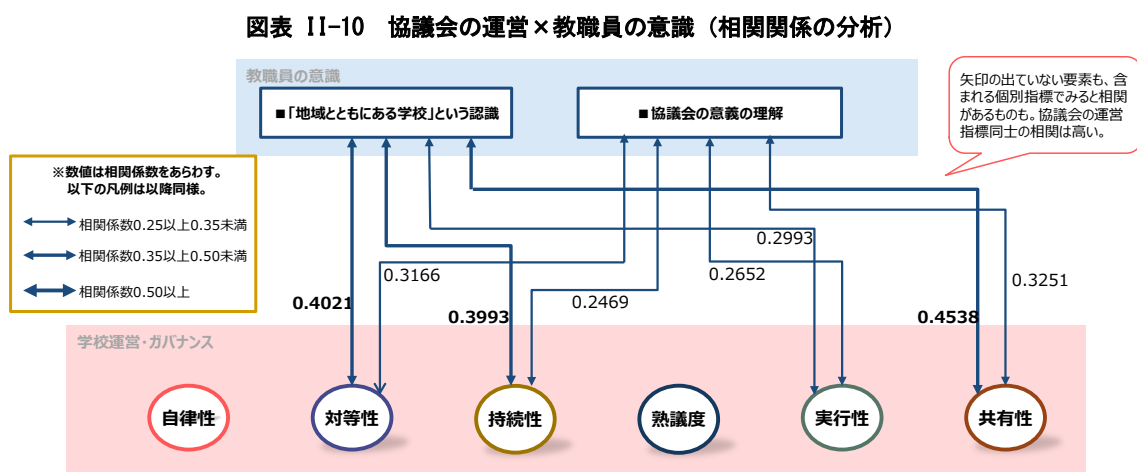
2-2. 相関分析

(1) 学校レベルデータ分析

① 協議会の運営×教職員の意識

図表 II-10 は、「協議会の運営」の6小分類と、「教職員の意識」の2小分類との相関関係の分析を行い、相関係数を図示したものである。特に「対等性」「持続性」「実行性」「共有性」において、「教職員の意識」と相対的に大きな相関が確認できた。

これらの要素が充実している協議会を有する学校ほど、教職員の意識が高いという関係性が示唆された。



以降で、「協議会の運営」と「教職員の意識」に含まれる指標単位での相関分析結果を示す。基本的な表の読み取り方は図表 II-12 の通りである。また、表は赤と青のグラデーションで着色されているが、正の相関が青色、負の相関が赤色で示されている。相関係数のヒートマップ凡例は図表 II-11 に示している。なお、読み取り方及びヒートマップ凡例は、以降のすべての表において同様である。

図表 II-11 ヒートマップ凡例

ヒートマップ凡例			
0.75~1.00	-1.00~-0.75		
0.50~0.75	-0.75~-0.50		
0.25~0.50	-0.50~-0.25		
0.00~0.25	-0.25~0.00		

図表 II-12 相関分析結果の表の読み取り方

	意識：「地域とともにある学校」という認識	保護者や地域住民が学校運営に関わることは、必要なことだ	地域の人に関わると、学校運営が混乱してしまう（反転項目修正）	より良い学校づくりのためには、地域の人にも学校の様子や取組を知ってもらう必要がある	意識：協議会の意義の理解	協議会での協議・決定内容の情報については、定期的に確認している	協議会での協議・決定事項に関心がある	学校での活動について、協議委員会に相談したいと思うことがある	協議会で決定されたことやその活動は、学校にとって意味のあることだ	協議会での協議によって、何か役割が与えられたら果たしたい	
自律性					53	0.0826	0.1541	0.0166	0.0764	0.1059	-0.0056
学校運営の基本方針の承認にあたり、協議委員会による議論を行う					36	0.0374	0.0822				-0.0295
学校運営に関して率直な意見を述べる機会がある	0.2330	0.2312	0.2663	0.0673	0.1778	0.2815	0.1518	0.1263	0.1997	0.0060	
教職員の任用について提案や意見を述べる機会がある	-0.0242	0.0432	-0.0661	-0.0477	-0.1382	-0.1154	-0.1819	-0.0420	-0.1324	-0.1593	
教職員は、協議会からの意見を重視し、それをふまえた学校運営を行っている	0.2556	0.2289	0.2954	0.1070	0.2044	0.2703	0.1085	0.1478	0.2352	0.1309	
協議会やその構成メンバーにも、よりよい学校づくりをすすめる自覚がある				1484	0.2039	0.2554	0.1492	0.0760	0.2631	0.1714	

表例・表頭の太字は小分類を、太字でないものは個別指標を表している。

例) 意識の「『地域とともにある学校』という認識」という小分類には、その右の3つの指標が含まれている。

表例の小分類及び指標について、表頭の小分類あるいは指標と、3つ以上で相関係数が0.25以上だった場合、黄色の枠囲みで強調している。

ヒートマップ凡例に基づき、セルを着色している。

図表 II-13 は、協議会の運営の「自律性」に含まれる指標と、教職員の意識に含まれる指標との相関係数を見たものである。

表をみると、「教職員が協議会の意見を重視した学校運営を行っている」において相対的に教職員の意識指標と正の相関がみられた。法定三権限の指標でいうと、「学校運営に関して率直な意見を述べる機会がある」が相対的にみると相関があるものの、大きな相関係数にはなっていない。

図表 II-13 自律性×教職員の意識

	意識：「地域とともにある学校」という認識	保護者や地域住民が学校運営に関わることは、必要なことだ	地域の人に関わると、学校運営が混乱してしまう（反転項目修正）	より良い学校づくりのためには、地域の人にも学校の様子や取組を知ってもらう必要がある	意識：協議会の意義の理解	協議会での協議・決定内容の情報については、定期的に確認している	協議会での協議・決定事項に関心がある	学校での活動について、協議委員会に相談したいと思うことがある	協議会で決定されたことやその活動は、学校にとって意味のあることだ	協議会での協議によって、何か役割が与えられたら果たしたい
自律性	0.1647	0.1865	0.1502	0.0753	0.0826	0.1541	0.0166	0.0764	0.1059	-0.0056
学校運営の基本方針の承認にあたり、協議委員会による議論を行う	0.0652	0.0839	0.0182	0.0836	0.0374	0.0822	0.0218	0.0524	0.0205	-0.0295
学校運営に関して率直な意見を述べる機会がある	0.2330	0.2312	0.2663	0.0673	0.1778	0.2815	0.1518	0.1263	0.1997	0.0060
教職員の任用について提案や意見を述べる機会がある	-0.0242	0.0432	-0.0661	-0.0477	-0.1382	-0.1154	-0.1819	-0.0420	-0.1324	-0.1593
教職員は、協議会からの意見を重視し、それをふまえた学校運営を行っている	0.2556	0.2289	0.2954	0.1070	0.2044	0.2703	0.1085	0.1478	0.2352	0.1309
協議会やその構成メンバーにも、よりよい学校づくりをすすめる自覚がある	0.2011	0.1751	0.1989	0.1484	0.2039	0.2554	0.1492	0.0760	0.2631	0.1714

法定三権限

図表 II-14 は、協議会の運営の「対等性」に含まれる指標と、教職員の意識に含まれる指標との相関係数を見たものである。

表をみると、「対等性」という小分類として、教職員の意識の2つの小分類と正の相関があることが分かる。個別の指標でみると、特に「地域住民側からの意見や提案が持ち込まれることがある」において相対的に相関係数が大きい。学校から出された議題を承認・確認するだけでなく、地域住民側からも問題提起するような主体的な関わりがあることと、教職員の意識との正の関係性が示唆された。

図表 II-14 対等性×教職員の意識

	意識：「地域とともにある学校」という認識	保護者や地域住民が学校運営に関わることは、必要なことだ	地域の人に関わると、学校運営が混乱してしまう（反転項目修正）	より良い学校づくりのためには、地域の人にも学校の様子や取組を知ってもらう必要がある	意識：協議会の意義の理解	協議会での協議・決定内容の情報については、定期的に確認している	協議会での協議・決定事項に関心がある	学校での活動について、協議会委員に相談したいと思うことがある	協議会で決定されたことやその活動は、学校にとって意味のあることだ	協議会での協議によって、何が役割が与えられたら果たしたい
対等性	0.4021	0.3598	0.4138	0.2547	0.3166	0.3753	0.2348	0.1603	0.3449	0.2945
地域住民側からの意見や提案が持ち込まれることがある	0.4064	0.4551	0.3312	0.2607	0.3313	0.3846	0.2126	0.2156	0.3635	0.2876
子どもの意見を反映させる機会や仕組みがある	0.2095	0.1722	0.1653	0.2412	0.2048	0.2010	0.1196	0.1656	0.1558	0.2581
議論は、特定の人意見に左右されることはない	0.2269	0.1550	0.2785	0.1432	0.1632	0.1543	0.1835	0.0555	0.2300	0.1216
協議会内は、忌憚なく意見を出し合える雰囲気がある	0.2522	0.1864	0.3779	0.0219	0.1515	0.2797	0.1286	-0.0287	0.1935	0.1109

図表 II-15 は、協議会の運営の「持続性」に含まれる指標と、教職員の意識に含まれる指標との相関係数を見たものである。

表をみると、「持続性」という小分類として、教職員の意識の「『地域とともにある学校』という認識」と正の相関があることが分かる。個別の指標でみると、「『地域とともにある学校』という認識」に含まれる指標を中心に、「教職員の意識」の小分類・指標と正の相関を示す（特に「校長等、教職員の異動に関わらず、継続して議論ができる体制がある」において相対的に相関係数が大きい）。

学校側の異動に関わらず議論が継続できる体制構築を行うことと、教職員の意識との正の関係性が示唆された。

図表 II-15 持続性×教職員の意識

	意識：「地域とともにある学校」という認識	保護者や地域住民が学校運営に関わることは、必要なことだ	地域の人に関わると、学校運営が混乱してしまう（反転項目修正）	より良い学校づくりのためには、地域の人にも学校の様子や取組を知ってもらう必要がある	意識：協議会の意義の理解	協議会での協議・決定内容の情報については、定期的に確認している	協議会での協議・決定事項に関心がある	学校での活動について、協議会委員に相談したいと思うことがある	協議会で決定されたことやその活動は、学校にとって意味のあることだ	協議会での協議によって、何か役割が与えられたら果たしたい
持続性	0.3993	0.3488	0.4001	0.2841	0.2469	0.3533	0.1862	0.1031	0.2522	0.1960
学校運営協議会の役割や運営について、委員全員で確認し合えている	0.2809	0.2143	0.3310	0.1654	0.1500	0.2620	0.1541	-0.0271	0.1446	0.1429
学校、家庭、地域全体で育てたい子ども像が共有されている	0.3358	0.2781	0.3326	0.2694	0.1992	0.3262	0.1023	0.0690	0.2168	0.1629
校長等、教職員の異動に関わらず、継続して議論ができる体制がある	0.3956	0.3896	0.3514	0.2883	0.2870	0.3361	0.2194	0.1991	0.3040	0.2041
学校運営協議会の運営方針・方法について、振り返り・見直しを行う機会がある	0.3260	0.2772	0.3366	0.2273	0.1828	0.2655	0.1416	0.0810	0.1701	0.1460

図表 II-16 は、協議会の運営の「熟議度」に含まれる指標と、教職員の意識に含まれる指標との相関係数を見たものである。

熟議度と教職員の意識とは、特筆すべき関係性はみられなかった。ただし、個別指標で見ると、「協議会で決定して、実施した取組に対して、振り返りや内省を行う時間がある」において相対的に相関関係がみられた。

図表 II-16 熟議度×教職員の意識

	意識：「地域とともにある学校」という認識	保護者や地域住民が学校運営に関わることは、必要なことだ	地域の人に関わると、学校運営が混乱してしまう（反転項目修正）	より良い学校づくりのためには、地域の人にも学校の様子や取組を知ってもらう必要がある	意識：協議会の意義の理解	協議会での協議・決定内容の情報については、定期的に確認している	協議会での協議・決定事項に関心がある	学校での活動について、協議会委員に相談したいと思うことがある	協議会で決定されたことやその活動は、学校にとって意味のあることだ	協議会での協議によって、何か役割が与えられたら果たしたい
熟議度	0.1940	0.2178	0.1377	0.1579	0.2080	0.2690	0.1800	0.1462	0.1560	0.1529
協議会で議論すべき課題の選定、議論の企画段階から関わることがある	0.1523	0.2269	0.0422	0.1471	0.1436	0.0771	0.1269	0.1977	0.1180	0.1013
学校側の提案事項を承認するだけでなく、より良い学校運営のために建設的に議論することがある	0.2047	0.1567	0.2323	0.1349	0.1998	0.2961	0.2131	0.0557	0.1953	0.1260
当初の議案が、議論によって変更・改善されることがある	0.0149	0.0017	-0.0060	0.0634	0.1163	0.2231	0.1272	0.0659	0.0186	0.0541
協議会で決定して、実施した取組に対して、振り返りや内省を行う時間がある	0.2741	0.2916	0.2000	0.2392	0.2846	0.3209	0.2443	0.2188	0.2380	0.2215
学校評価などの各種の評価結果を活かした改善について、議論が行われている	0.1105	0.1533	0.0883	0.0273	0.0688	0.1487	0.0013	0.0119	0.0458	0.0898

図表 II-17 は、協議会の運営の「実行性」に含まれる指標と、教職員の意識に含まれる指標との相関係数を見たものである。

表をみると、「実行性」という小分類として、教職員の意識の2つの小分類と正の相関があることが分かる。個別の指標でみると、「議論の結果、各主体（学校・保護者・地域の大人等）が実行すべきこと・役割分担が明確になっている」「協議された事項の実行にあたり、教職員は期待される役割を果たしている」において相対的に相関係数が大きい。協議会で議論されたことを実行に移すための主体間の役割分担を行っていることと、教職員の意識との正の関係性が示唆された。

図表 II-17 実行性×教職員の意識

	意識：「地域とともにある学校」という認識	保護者や地域住民が学校運営に関わることは、必要なことだ	地域の人が関わると、学校運営が混乱してしまう（反転項目修正）	より良い学校づくりのためには、地域の人にも学校の様子や取組を知ってもらう必要がある	意識：協議会の意義の理解	協議会での協議・決定内容の情報は、定期的に確認している	協議会での協議・決定事項に関心がある	学校での活動について、協議会委員に相談したいと思うことがある	協議会で決定されたことやその活動は、学校にとって意味のあることだ	協議会での協議によって、何か役割が与えられたら果たしたい
実行性	0.2993	0.3069	0.2626	0.2048	0.2652	0.3225	0.2091	0.1662	0.2212	0.2462
学校長の主導で、協議会の内容が有意義になったと感じることがある	0.1341	0.1398	0.1048	0.1098	0.1458	0.1132	0.1155	0.0878	0.0845	0.2525
協議された事項の実行にあたり、学校長は期待される役割を果たしている	0.2425	0.1880	0.3029	0.1090	0.1743	0.2121	0.1069	0.0633	0.1888	0.2113
議論の結果、各主体（学校・保護者・地域の大人等）が実行すべきこと・役割分担が明確になっている	0.3438	0.3323	0.3075	0.2571	0.2225	0.3057	0.1857	0.1731	0.1977	0.0983
協議会で議論した活動に自ら参加したり、活動の一部を担ったりすることがある	0.0122	0.0682	-0.0349	-0.0022	0.1401	0.2222	0.1094	0.1052	0.1084	0.0533
協議された事項の実行にあたり、教職員は期待される役割を果たしている	0.3575	0.3768	0.2937	0.2617	0.2640	0.2945	0.2246	0.1509	0.2209	0.2788

図表 II-18 は、協議会の運営の「共有性」に含まれる指標と、教職員の意識に含まれる指標との相関係数を見たものである。

表をみると、「共有性」という小分類として、教職員の意識の2つの小分類と正の相関があることが分かる。個別の指標でみると、「地域住民や保護者は、誰が協議会委員になっているか知っている」「学校教育目標や学校運営の基本方針が確認しやすい形で共有されており、内容は理解している」「協議会での協議内容について、十分な情報発信が行われている」において相対的に相関係数が大きい。協議会委員についての情報発信や、協議会の協議内容についての情報発信と、教職員の意識との正の関係性が示唆された。

図表 II-18 共有性×教職員の意識

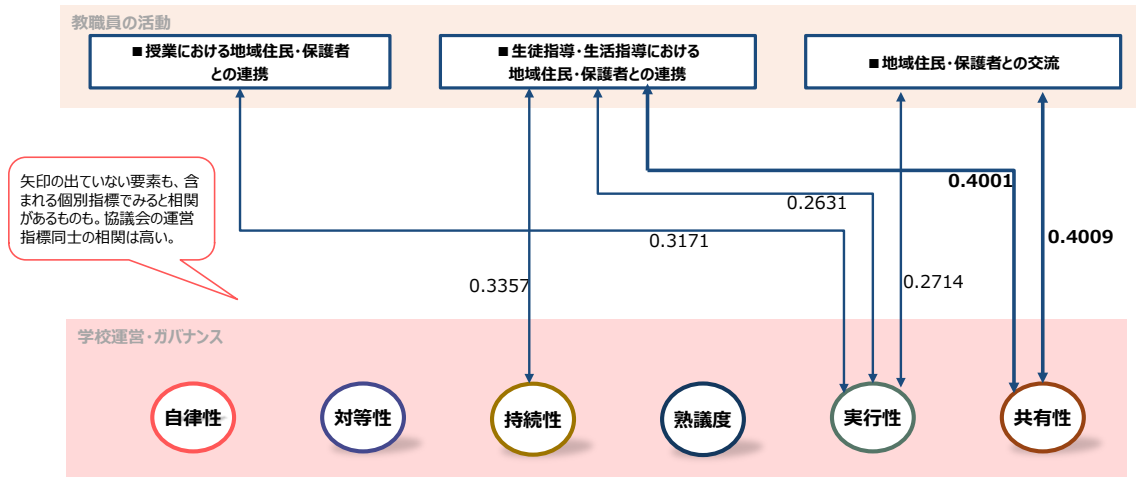
	意識：「地域とともにある学校」という認識	保護者や地域住民が学校運営に関わることは、必要なことだ	地域の人が関わり、学校運営が混乱してしまう（反転項目修正）	より良い学校づくりのためには、地域の人にも学校の様子や取組を知ってもらふ必要がある	意識：協議会の意義の理解	協議会での協議・決定内容の情報については、定期的に確認している	協議会での協議・決定事項に関心がある	学校での活動について、協議会委員に相談したいと思うことがある	協議会で決定されたことやその活動は、学校にとって意味のあることだ	協議会での協議によって、何か役割が与えられたら果たしたい
共有性	0.4538	0.4141	0.4152	0.3619	0.3251	0.3375	0.2610	0.2387	0.3061	0.2898
地域住民や保護者は、誰が協議会委員になっているか知っている	0.4703	0.4085	0.4303	0.4072	0.3994	0.4283	0.3308	0.2915	0.3719	0.3350
学校教育目標や学校運営の基本方針が確認しやすい形で共有されており、内容は理解している	0.3895	0.3430	0.3955	0.2641	0.2682	0.3019	0.2333	0.1685	0.2797	0.2029
学校の問題や悩みは、協議会委員の中で共有されている	0.2169	0.2600	0.1702	0.1233	0.0676	0.0561	0.0644	0.0684	0.0699	0.0374
協議会での協議内容について、十分な情報発信が行われている	0.3871	0.3233	0.3532	0.3571	0.3002	0.2913	0.2041	0.2252	0.2601	0.3456

② 協議会の運営×教職員の活動

図表 II-19は、「協議会の運営」の6小分類と、「教職員の活動」の3小分類との相関関係の分析を行い、相関係数を図示したものである。特に「持続性」「実行性」「共有性」において、「教職員の意識」と相対的に大きな相関が確認できた。

これらの要素が充実している協議会を有する学校ほど、教職員の意識が高いという関係性が示唆された。

図表 II-19 協議会の運営×教職員の活動（相関関係の分析）



図表 II-20 は、協議会の運営の「自律性」に含まれる指標と、教職員の活動に含まれる指標との相関係数を見たものである。

自律性と教職員の活動とは、特筆すべき関係性はみられなかった。

図表 II-20 自律性×教職員の活動

	活動：授業における地域住民・保護者との連携	地域との協働 だからできる授業がある	授業で、保護者や地域住民に授業支援やゲストティーチャーをお願いする	授業づくりに、保護者や地域住民が参画・支援することがある	教室内の授業で、地域の題材や地域の課題を扱う	活動：生徒指導・生活指導における地域住民・保護者との連携	子どもの生徒指導・生活指導において、必要があれば地域住民と協力してフォローする	地域住民から得られた情報で、早期に子どもの悩みに向き合えたことがある	活動：地域住民・保護者との交流	保護者や地域住民とは、気軽に会話できる	学校での活動について、保護者や地域住民に相談する
自律性	0.0081	-0.1069	0.0109	0.0089	0.0890	0.1530	0.1122	0.1618	0.1827	0.1061	0.2097
学校運営の基本方針の承認にあたり、協議会委員による議論を行う	-0.0484	-0.1651	-0.0682	-0.0376	0.0667	0.0788	0.0621	0.0786	0.0828	-0.0231	0.1539
学校運営に関して率直な意見を述べる機会がある	0.1510	0.0336	0.1390	0.1164	0.2456	0.1897	0.1811	0.1551	0.2102	0.1836	0.1905
教職員の任用について提案や意見を述べる機会がある	-0.1825	-0.2003	-0.1858	-0.1548	-0.1384	0.0055	-0.0905	0.1082	0.0468	0.0347	0.0475
教職員は、協議会からの意見を重視し、それをふまえた学校運営を行っている	0.1366	-0.0027	0.1002	0.1631	0.2117	0.2421	0.2212	0.2086	0.2132	0.0843	0.2773
協議会やその構成メンバーにも、よりよい学校づくりをすすめる自覚がある	0.1647	0.0942	0.2654	0.0977	0.1254	0.1259	0.1884	0.0292	0.1903	0.1759	0.1645

図表 II-21 は、協議会の運営の「対等性」に含まれる指標と、教職員の活動に含まれる指標との相関係数を見たものである。

対等性と教職員の活動とは、全体としては弱い正の相関を示すものの、特筆すべき関係性はみられなかった。

図表 II-21 対等性×教職員の活動

	活動：授業における地域住民・保護者との連携	地域との協働 だからできる授業がある	授業で、保護者や地域住民に授業支援やゲストティーチャーをお願いする	授業づくりに、保護者や地域住民が参画・支援することがある	教室内の授業で、地域の題材や地域の課題を扱う	活動：生徒指導・生活指導における地域住民・保護者との連携	子どもの生徒指導・生活指導において、必要があれば地域住民と協力してフォローする	地域住民から得られた情報で、早期に子どもの悩みに向き合えたことがある	活動：地域住民・保護者との交流	保護者や地域住民とは、気軽に会話できる	学校での活動について、保護者や地域住民に相談する
対等性	0.1601	0.1220	0.1803	0.1452	0.1319	0.2263	0.2709	0.1257	0.2166	0.2328	0.1604
地域住民側からの意見や提案が持ち込まれることがある	0.0722	0.0780	0.0864	0.0826	0.0167	0.2321	0.2433	0.1662	0.2651	0.2824	0.1983
子どもの意見を反映させる機会や仕組みがある	0.1734	0.1782	0.1201	0.1893	0.1583	0.0334	0.0998	-0.0462	0.0843	0.0879	0.0647
議論は、特定の人の意見に左右されることはない	0.0989	0.0495	0.1098	0.0552	0.1419	0.1152	0.1312	0.0714	0.0686	0.0593	0.0627
協議会内は、忌憚なく意見を出し合える雰囲気がある	0.0840	0.0057	0.1836	0.0507	0.0396	0.2553	0.2781	0.1716	0.1712	0.2045	0.1098

図表 II-22 は、協議会の運営の「持続性」に含まれる指標と、教職員の活動に含まれる指標との相関係数を見たものである。

持続性と教職員の活動とは、「持続性」という小分類として、教職員の活動の「生徒指導・生活指導における地域住民・保護者との連携」と正の相関があることが分かる。個別の指標でみると、「学校運営協議会の役割や運営について、委員全員で確認し合えている」において、「生徒指導・生活指導における地域住民・保護者との連携」に含まれる指標と相対的に相関係数が大きい。

協議会の役割の確認を行うことと、教職員の活動の活発さの正の関係性が示唆された。

図表 II-22 持続性×教職員の活動

	活動：授業における地域住民・保護者との連携	地域との協働 だからできる授業がある	授業で、保護者や地域住民に授業支援やゲストティーチャーをお願いする	授業づくりに、保護者や地域住民が参画・支援することがある	教室内の授業で、地域の題材や地域の課題を扱う	活動：生徒指導・生活指導における地域住民・保護者との連携	子どもの生徒指導・生活指導において、必要があれば地域住民と協力してフォローする	地域住民から得られた情報で、早期に子どもの悩みに向き合えたことがある	活動：地域住民・保護者との交流	保護者や地域住民とは、気軽に会話できる	学校での活動について、保護者や地域住民に相談する
持続性	0.1873	0.1141	0.2446	0.1569	0.1519	0.3357	0.3252	0.2694	0.2420	0.2513	0.1864
学校運営協議会の役割や運営について、委員全員で確認し合えている	0.1674	0.0560	0.2276	0.1577	0.1408	0.3753	0.3644	0.3002	0.2743	0.3328	0.1716
学校、家庭、地域全体で育てたい子ども像が共有されている	0.1470	0.0886	0.1645	0.1760	0.0918	0.2720	0.2991	0.1797	0.1435	0.1519	0.1083
校長等、教職員の異動に関わらず、継続して議論ができる体制がある	0.1541	0.1675	0.2242	0.0753	0.1029	0.2172	0.1777	0.2097	0.2210	0.2234	0.1752
学校運営協議会の運営方針・方法について、振り返り・見直しを行う機会がある	0.1661	0.0601	0.2081	0.1353	0.1804	0.2886	0.2830	0.2279	0.1801	0.1479	0.1710

図表 II-23 は、協議会の運営の「熟議度」に含まれる指標と、教職員の活動に含まれる指標との相関係数を見たものである。

熟議度と教職員の活動とは、特筆すべき関係性はみられなかった。ただし、個別指標でみると、「協議会で決定して、実施した取組に対して、振り返りや内省を行う時間がある」において相対的に相関関係がみられた。

図表 II-23 熟識度×教職員の活動

	活動：授業における地域住民・保護者との連携	地域との協働だからできる授業がある	授業で、保護者や地域住民に授業支援やゲストティーチャーをお願いする	授業づくりに、保護者や地域住民が参画・支援することがある	教室内の授業で、地域の題材や地域の課題を扱う	活動：生徒指導・生活指導における地域住民・保護者との連携	子どもの生徒指導・生活指導において、必要があれば地域住民と協力してフォローする	地域住民から得られた情報で、早期に子どもの悩みに向き合えたことがある	活動：地域住民・保護者との交流	保護者や地域住民とは、気軽に会話できる	学校での活動について、保護者や地域住民に相談する
熟識度	0.2045	0.0967	0.2722	0.1846	0.1661	0.1364	0.1409	0.0999	0.2134	0.2760	0.1195
協議会で議論すべき課題の選定、議論の企画段階から関わる	0.1195	0.0920	0.1947	0.0559	0.0875	-0.0951	-0.1097	-0.0573	0.1313	0.1794	0.0655
学校側の提案事項を承認するだけでなく、より良い学校運営のために建設的に議論することがある	0.1958	0.0770	0.2839	0.1771	0.1436	0.1648	0.1636	0.1281	0.1726	0.2215	0.0981
当初の議案が、議論によって変更・改善されることがある	0.1172	-0.0017	0.1425	0.1752	0.0758	0.0776	0.0414	0.0989	0.0723	0.1101	0.0267
協議会で決定して、実施した取組に対して、振り返りや内省を行う時間がある	0.2835	0.1785	0.3379	0.2360	0.2644	0.2294	0.2629	0.1400	0.3095	0.3580	0.2081
学校評価などの各種の評価結果を活かした改善について、議論が行われている	0.0849	0.0275	0.1062	0.0844	0.0776	0.1757	0.2115	0.0964	0.1414	0.1981	0.0666

図表 II-24 は、協議会の運営の「実行性」に含まれる指標と、教職員の活動に含まれる指標との相関係数を見たものである。

実行性と教職員の活動とは、「実行性」という小分類として、教職員の活動の3つの小分類と正の相関があることが分かる。個別の指標で見ると、「協議された事項の実行にあたり、学校長は期待される役割を果たしている」「協議会で議論した活動に自ら参加したり、活動の一部を担ったりすることがある」「協議された事項の実行にあたり、教職員は期待される役割を果たしている」において相対的に相関係数が大きい。

協議会で議論されたことを実行に移す際に各主体のそれぞれが活動を担うことと、教職員の活動の活発さの正の関係性が示唆された。

図表 II-24 実行性×教職員の活動

	活動：授業における地域住民・保護者との連携	地域との協働だからできる授業がある	授業で、保護者や地域住民に授業支援やゲストティーチャーをお願いする	授業づくりに、保護者や地域住民が参画・支援することがある	教室内の授業で、地域の題材や地域の課題を扱う	活動：生徒指導・生活指導における地域住民・保護者との連携	子どもの生徒指導・生活指導において、必要があれば地域住民と協力してフォローする	地域住民から得られた情報で、早期に子どもの悩みに向き合えたことがある	活動：地域住民・保護者との交流	保護者や地域住民とは、気軽に会話できる	学校での活動について、保護者や地域住民に相談する
実行性	0.3171	0.2414	0.3219	0.3059	0.2813	0.2631	0.3150	0.1461	0.2714	0.3103	0.1856
学校長の主導で、協議会の内容が有意義になったと感じることがある	0.0829	0.1255	0.0386	0.1066	0.0484	0.2429	0.2885	0.1374	0.1598	0.2166	0.0812
協議された事項の実行にあたり、学校長は期待される役割を果たしている	0.2646	0.2132	0.2552	0.2416	0.2566	0.2981	0.3490	0.1741	0.3808	0.4044	0.2858
議論の結果、各主体（学校・保護者・地域の大人等）が実行すべきこと・役割分担が明確になっている	0.1430	0.0219	0.1664	0.1330	0.1742	0.2828	0.2318	0.2726	0.2344	0.1894	0.2251
協議会で議論した活動に自ら参加したり、活動の一部を担ったりすることがある	0.2999	0.1938	0.3719	0.3211	0.1784	-0.0229	0.0445	-0.0904	-0.0736	0.0080	-0.1264
協議された事項の実行にあたり、教職員は期待される役割を果たしている	0.3637	0.3358	0.3305	0.2985	0.3818	0.1466	0.2273	0.0254	0.3237	0.3404	0.2458

図表 II-25 は、協議会の運営の「共有性」に含まれる指標と、教職員の活動に含まれる指標との相関係数を見たものである。

共有性と教職員の活動とは、「共有性」という小分類として、教職員の活動の「生徒指導・生活指導における地域住民・保護者との連携」「地域住民・保護者との交流」と正の相関があることが分かる。個別の指標で見ると、「地域住民や保護者は、誰が協議会委員になっているか知っている」「学校教育目標や学校運営の基本方針が確認しやすい形で共有されており、内容は理解している」「協議会の協議内容について、十分な情報発信が行われている」において相対的に相関係数が大きい。

協議会委員についての情報発信や、協議会の協議内容についての情報発信と、教職員の活動の活発さの正の関係性が示唆された。

図表 II-25 共有性×教職員の活動

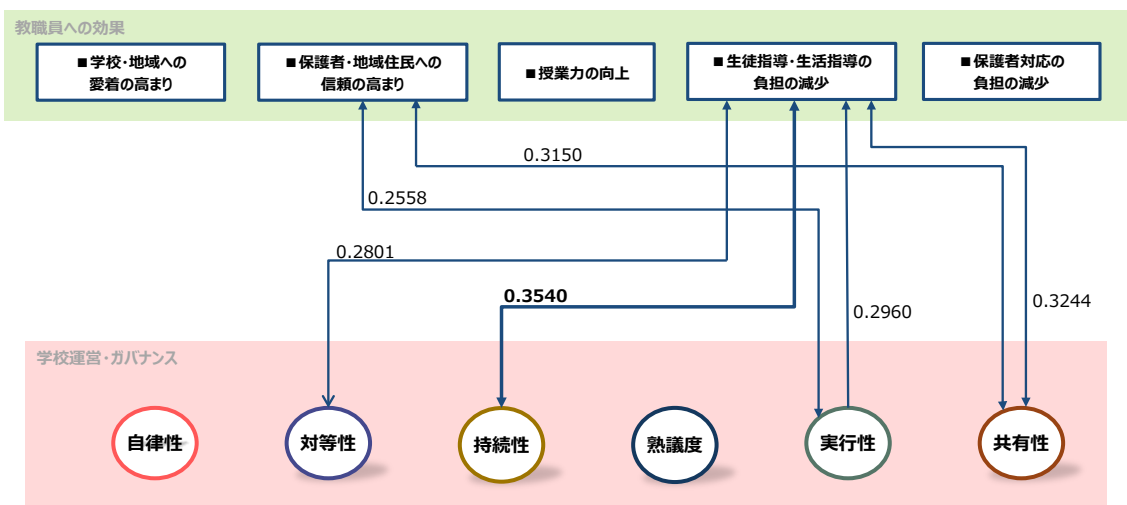
	活動：授業における地域住民・保護者との連携	地域との協働 だからできる授業がある	授業で、保護者や地域住民に授業支援やゲストティーチャーをお願いする	授業づくりに、保護者や地域住民が参画・支援することがある	教室内の授業で、地域の題材や地域の課題を扱う	活動：生徒指導・生活指導における地域住民・保護者との連携	子どもの生徒指導・生活指導において、必要があれば地域住民と協力してフォローする	地域住民から得られた情報で、早期に子どもの悩みに向き合えたことがある	活動：地域住民・保護者との交流	保護者や地域住民とは、気軽に会話できる	学校での活動について、保護者や地域住民に相談する
共有性	0.2382	0.0972	0.2433	0.2046	0.3025	0.4001	0.3655	0.3450	0.4009	0.3507	0.3629
地域住民や保護者は、誰が協議会委員になっているか知っている	0.3589	0.2041	0.3400	0.3177	0.4319	0.4178	0.4010	0.3392	0.5464	0.4458	0.5212
学校教育目標や学校運営の基本方針が確認しやすい形で共有されており、内容は理解している	0.2779	0.0970	0.2986	0.2308	0.3574	0.3963	0.3759	0.3266	0.3649	0.3023	0.3443
学校の問題や悩みは、協議会委員の中で共有されている	-0.1739	-0.2420	-0.1433	-0.1623	-0.1153	0.1381	0.0917	0.1563	-0.0040	-0.0080	0.0001
協議会での協議内容について、十分な情報発信が行われている	0.3083	0.2461	0.3003	0.2729	0.3071	0.3517	0.3224	0.3020	0.3684	0.3798	0.2860

③ 協議会の運営×教職員への効果

図表 II-26 は、「協議会の運営」の6小分類と、「教職員への効果」の5小分類との相関関係の分析を行い、相関係数を図示したものである。特に「対等性」「持続性」「実行性」「共有性」において、「教職員への効果」と相対的に大きな相関が確認できた。

これらの要素が充実している協議会を有する学校ほど、教職員の成果実感も高いという関係性が示唆された。

図表 II-26 協議会の運営×教職員への効果（相関関係の分析）



図表 II-27 は、協議会の運営の「自律性」に含まれる指標と、教職員への効果に含まれる指標との相関係数を見たものである。

自律性と教職員への効果とは、特筆すべき関係性はみられなかった。ただし、個別指標で見ると、「協議会やその構成メンバーにも、よりよい学校づくりをすすめる自覚がある」において相対的に相関関係がみられた。

図表 II-27 自律性×教職員への効果

	効果：学校・地域への愛着の高まり	効果：保護者・地域住民への信頼の高まり	効果：授業力の向上	効果：生徒指導・生活指導の負担の減少	効果：保護者対応の負担の減少															
自律性	0.0187	-0.0424	0.1016	-0.0237	0.2174	0.2538	0.1579	-0.0081	-0.0133	0.0409	-0.0546	-0.0516	0.0555	0.2021	0.1107	0.2228	0.2299	0.0456	0.0608	0.0205
学校運営の基本方針の承認にあたり、協議会委員による議論を行う	-0.0362	-0.0948	0.0262	-0.0338	0.1369	0.1695	0.0898	-0.0918	-0.0810	-0.0281	-0.1903	-0.0750	-0.0144	0.0672	-0.0334	0.0653	0.1511	0.0329	0.0278	0.0338
学校運営に関して率直な意見を述べる機会がある	-0.0298	-0.0774	0.1448	-0.1549	0.1802	0.1477	0.1924	0.1918	0.1809	0.2640	0.1649	0.1635	0.0592	0.1728	0.1670	0.2160	0.1057	0.1384	0.2268	0.0125
教職員の任用について提案や意見を述べる機会がある	-0.0086	-0.0222	-0.0170	0.0157	0.0419	0.1277	-0.0469	-0.2176	-0.1819	-0.2095	-0.2131	-0.2783	-0.0454	0.0666	-0.0009	0.0973	0.0914	-0.1208	-0.1453	-0.0729
教職員は、協議会からの意見を重視し、それをふまえた学校運営を行っている	0.0829	0.0551	0.1212	0.0283	0.2695	0.2688	0.2407	0.1611	0.1531	0.2188	0.1175	0.0932	0.1296	0.1938	0.1358	0.2129	0.1927	0.0972	0.1257	0.0483
協議会やその構成メンバーにも、よりよい学校づくりをすすめる自覚がある	0.0745	-0.0291	0.1901	0.0085	0.2522	0.2348	0.2417	0.1483	0.0571	0.1414	0.1248	0.1601	0.1542	0.3174	0.2347	0.2892	0.3540	0.1704	0.1809	0.1314

図表 II-28 は、協議会の運営の「対等性」に含まれる指標と、教職員への効果に含まれる指標との相関係数を見たものである。

対等性と教職員への効果とは、全体として特筆すべき関係性はみられないが、「対等性」という小分類として教職員への効果の「生徒指導・生活指導の負担の減少」と正の相関があることが分かる。

図表 II-28 対等性×教職員への効果

	効果：学校・地域への関心の高まり	教師という仕事にやりがいを感じる	学校のある地域に愛着を感じる	今の学校を離れても、転勤先でも地域と距離を感じない	効果：保護者・地域住民への信頼の高まり	保護者や地域の人は、学校の課題や問題点を理解してくれている	保護者や地域の人は、学校にとって有意義な意見・提案をしてくれる	効果：授業力の向上	授業に活用できる地域資源や地域課題を理解している	授業のねらいに即して、効果的に地域資源等を活用した授業を行うことができる	授業は、学校外にも携わっている人がいる	地域の人の協力することによって、授業の向上につながったことがある	地域の人のふれあいや活動によって、勉強が好きな子どもがいる	効果：生徒指導・生活指導の負担の減少	子どもの生徒指導について、学校外にも手伝ってもらっている人がいる	地域の人や子どもが話を聞いてくれたり、アドバイスをしてくれたりすることによって、生活指導の負担軽減につながっている	地域の人と協力することによって、子どもの問題行動の解決につながっている	効果：保護者対応の負担の減少	保護者や地域住民の学校への批判・苦情は少ない	保護者や地域住民の対応の負担は大きくない
対等性	0.1669	0.0326	0.3035	0.0618	0.2324	0.1960	0.2428	0.1110	0.2240	0.2300	0.1022	0.0560	-0.1229	0.2801	0.2239	0.2597	0.2927	0.1521	0.1597	0.1194
地域住民側からの意見や提案が持ち込まれることがある	0.0747	-0.0025	0.1500	0.0274	0.3045	0.2495	0.3254	0.0080	0.0455	0.0127	0.0570	-0.0522	-0.0224	0.2655	0.2593	0.2454	0.2331	0.0856	0.0823	0.0761
子どもの意見を反映させる機会や仕組みがある	0.1697	0.0593	0.2500	0.1010	0.0485	0.0357	0.0558	0.1160	0.3185	0.2409	0.1227	0.0695	-0.2393	0.0227	-0.0439	0.0279	0.0773	0.0034	0.0207	-0.0176
議論は、特定の人の意見に左右されることはない	0.1629	0.0753	0.2268	0.0951	0.1880	0.2011	0.1546	0.0749	0.1194	0.2069	0.0215	0.0444	-0.0619	0.1860	0.0895	0.1841	0.2412	0.2026	0.1867	0.1896
協議会内は、忌憚なく意見を出し合える雰囲気がある	0.0426	-0.0474	0.2028	-0.0658	0.0986	0.0558	0.1299	0.1057	0.1064	0.1716	0.0674	0.0984	0.0153	0.3213	0.3383	0.2787	0.2739	0.1525	0.1732	0.1042

図表 II-29 は、協議会の運営の「持続性」に含まれる指標と、教職員への効果に含まれる指標との相関係数を見たものである。

持続性と教職員への効果とは、「持続性」という小分類として教職員への効果の「生徒指導・生活指導の負担の減少」と正の相関があることが分かる。個別指標で見ると、「学校運営協議会の役割や運営について、委員全員で確認し合えている」「校長等、教職員の異動に関わらず、継続して議論ができる体制がある」において、相対的に相関係数が高い。

図表 II-29 持続性×教職員への効果

	効果：学校・地域への関心の高まり	教師という仕事にやりがいを感じる	学校のある地域に愛着を感じる	今の学校を離れても、転勤先でも地域と距離を感じない	効果：保護者・地域住民への信頼の高まり	保護者や地域の人は、学校の課題や問題点を理解してくれている	保護者や地域の人は、学校にとって有意義な意見・提案をしてくれる	効果：授業力の向上	授業に活用できる地域資源や地域課題を理解している	授業のねらいに即して、効果的に地域資源等を活用した授業を行うことができる	授業は、学校外にも携わっている人がいる	地域の人の協力することによって、授業の向上につながったことがある	地域の人のふれあいや活動によって、勉強が好きな子どもがいる	効果：生徒指導・生活指導の負担の減少	子どもの生徒指導について、学校外にも手伝ってもらっている人がいる	地域の人や子どもが話を聞いてくれたり、アドバイスをしてくれたりすることによって、生活指導の負担軽減につながっている	地域の人と協力することによって、子どもの問題行動の解決につながっている	効果：保護者対応の負担の減少	保護者や地域住民の学校への批判・苦情は少ない	保護者や地域住民の対応の負担は大きくない
持続性	0.0611	-0.0803	0.2059	0.0033	0.1911	0.1590	0.2017	0.1772	0.2317	0.1906	0.2192	0.0978	0.0385	0.3540	0.3343	0.3234	0.3247	0.0859	0.1038	0.0513
学校運営協議会の役割や運営について、委員全員で確認し合えている	0.0720	-0.0971	0.1967	0.0530	0.1579	0.1265	0.1715	0.1747	0.2297	0.2202	0.1622	0.1074	0.0517	0.4079	0.4189	0.3408	0.3690	0.0639	0.0318	0.0918
学校、家庭、地域全体で育てた子ども像が共有されている	0.0472	-0.0231	0.1078	0.0223	0.1524	0.1190	0.1685	0.1151	0.1955	0.0952	0.1862	0.0674	-0.0417	0.2617	0.2464	0.2493	0.2320	-0.0282	-0.0319	-0.0195
校長等、教職員の異動に関わらず、継続して議論ができる体制がある	0.0134	-0.1100	0.1840	-0.0638	0.1818	0.1500	0.1933	0.1314	0.1373	0.0826	0.1986	0.0622	0.0953	0.2870	0.2355	0.2733	0.2879	0.1621	0.1782	0.1176
学校運営協議会の運営方針・方法について、振り返り・見直しを行う機会がある	0.0811	-0.0353	0.2042	0.0150	0.1509	0.1388	0.1464	0.1807	0.2329	0.2580	0.1913	0.0980	0.0127	0.2507	0.2473	0.2359	0.2141	0.0724	0.1467	-0.0265

図表 II-30 は、協議会の運営の「熟議度」に含まれる指標と、教職員への効果に含まれる指標との相関係数を見たものである。

熟議度と教職員への効果とは、個別指標で見ると正の相関を示すものもあるが、特筆すべき関係性はみられなかった。

図表 II-30 熟議度×教職員への効果

	効果：学校・地域への信頼の高まり	教師の仕事にやりがいを感じる	学校のある地域に愛着を感じる	今の学校を離れても、転勤先でも地域と距離したい	効果：保護者・地域住民への信頼の高まり	保護者や地域の人は、学校の課題や問題を理解している	保護者や地域の人は、学校にとって有意義な意見・提案をしてくれる	効果：授業力の向上	授業に活用できる地域資源や地域課題を理解している	授業のねらいに応じて、効果的に地域資源等を活用した授業を行うことができる	授業は、学校外にもサポートしてくれる人がいる	地域の人が協力することによって、授業の内容の向上につながったことがある	地域の人がふれあいや地域での活動によって、勉強が好きな子どもがいる	効果：生徒指導・生活指導の負担の減少	子どもの生徒指導・生活指導について、学校外に手伝える人がいる	地域の人が子どもを聞いてくれたり、アドバイスをしてくれたりすることで、子どもの問題行動の解決につながっている	効果：保護者対応の負担の減少	保護者や地域住民の学校への信頼・苦情は少ない	保護者や地域住民の対応の負担は大きくない	
熟議度	-0.0400	-0.1111	0.1063	-0.1115	0.1106	0.1209	0.0884	0.0899	0.1905	0.1249	0.1261	0.0144	-0.0546	0.2469	0.1820	0.2807	0.2286	-0.0571	-0.0172	-0.0951
協議会で議論すべき課題の選定、議論の企画段階から関わることがある	0.0080	-0.0674	0.1415	-0.0692	0.1367	0.1595	0.0993	0.0597	0.1314	0.0356	0.0975	-0.0182	0.0282	0.1204	0.0451	0.1444	0.1471	0.0157	0.0490	-0.0261
学校側の提案事項を承認するだけでなく、より良い学校運営のために建設的に議論することがある	0.0020	-0.1164	0.1524	-0.0534	0.1703	0.1508	0.1709	0.1183	0.1512	0.1605	0.0608	0.0968	0.0553	0.3212	0.2407	0.3018	0.3477	0.0714	0.0876	0.0410
当初の提案が、議論によって変更・改善されることがある	-0.1131	-0.0756	-0.0675	-0.1385	0.0078	0.0184	-0.0035	-0.0061	0.0922	0.0339	0.0219	-0.0741	-0.0883	0.1374	0.1029	0.1561	0.1259	-0.2694	-0.2708	-0.2256
協議会で決定して、実施した取組に対して、振り返りや内省を行う時間がある	0.0312	-0.0633	0.1602	-0.0361	0.1197	0.1404	0.0862	0.2044	0.2825	0.2624	0.2379	0.1303	-0.0197	0.2164	0.1816	0.2714	0.1578	0.0496	0.1079	-0.0270
学校評価などの各種の評価結果を活かした改善について、議論が行われている	-0.0782	-0.1094	0.0292	-0.1255	0.0023	0.0019	0.0024	-0.0168	0.0816	0.0102	0.0638	-0.0587	-0.1710	0.1813	0.1544	0.2258	0.1313	-0.0737	-0.0303	-0.1134

図表 II-31 は、協議会の運営の「実行性」に含まれる指標と、教職員への効果に含まれる指標との相関係数を見たものである。

実行性と教職員への効果とは、「実行性」という小分類として教職員への効果の「保護者・地域住民への信頼の高まり」「生徒指導・生活指導の負担の減少」と正の相関があることが分かる。個別指標で見ると、「学校長の主導で、協議会の内容が有意義になったと感じることがある」「協議された事項の実行にあたり、学校長は期待される役割を果たしている」「協議された事項の実行にあたり、教職員は期待される役割を果たしている」において、相対的に相関係数が大きい。

図表 II-31 実行性×教職員への効果

	効果：学校・地域への要請の高まり	教師という仕事にやりがいを感じる	学校のある地域に愛着を感じる	今の学校を離れても、転勤先でも地域と協働したい	効果：保護者・地域住民への信頼の高まり	保護者や地域の人は、学校の課題や問題点を理解している	保護者や地域の人は、学校にとって有意義な意見・提案をしてくれる	効果：授業力の向上	授業に活用できる地域資源や地域課題を理解している	授業のねらいに応じて、効果的に地域資源等を活用した授業を行うことができる	授業は、学校外にも広がる人がいる	地域の人が協力する活動によって、授業の向上につながったことがある	地域の人が協力する活動によって、勉強が好きな子どもが増えている	効果：生徒指導・生活指導の負担の減少	子どもの生徒指導・生活指導について、学校外にも手伝わっている人がいる	地域の人が協力することによって、子どもの問題行動の解決につながっている	効果：保護者対応の負担の減少	保護者や地域住民の学校への批判・苦情は少ない	保護者や地域住民の対応の負担は大きくない	
実行性	0.1534	0.0526	0.2569	0.0604	0.2558	0.2063	0.2765	0.2316	0.2789	0.2583	0.2252	0.1673	0.0870	0.2960	0.2601	0.2531	0.3049	0.1158	0.1769	0.0256
学校長の主導で、協議会の内容が有意義になったと感じることがある	0.3315	0.2688	0.3701	0.1896	0.2823	0.2546	0.2788	0.0436	0.1110	0.0810	-0.0107	0.0074	0.0179	0.3152	0.2390	0.2721	0.3589	0.1998	0.2146	0.1510
協議された事項の実行に当たり、学校長は期待される役割を果たしている	0.2286	0.0434	0.3623	0.1407	0.3015	0.2408	0.3282	0.2726	0.3542	0.3264	0.2523	0.1979	0.0678	0.3922	0.3573	0.3633	0.3680	0.1650	0.2246	0.0688
議論の結果、各主体（学校・保護者・地域の大人等）が実行すべきこと・役割分担が明確になっている	-0.0355	-0.1290	0.0632	-0.0413	0.1553	0.1182	0.1749	0.0839	0.1129	0.1578	0.0326	0.0134	0.0645	0.1677	0.1736	0.1078	0.1778	0.1046	0.1402	0.0462
協議会で議論した活動に自ら参加したり、活動の一部を担当することがある	-0.1543	-0.0690	-0.1720	-0.1358	-0.0925	-0.0889	-0.0860	0.1500	0.0880	0.0655	0.2258	0.1875	0.0648	0.0157	0.0148	0.0190	0.0103	-0.2303	-0.1875	-0.2446
協議された事項の実行に当たり、教職員は期待される役割を果たしている	0.2134	0.0759	0.3509	0.0883	0.3036	0.2402	0.3329	0.3206	0.3882	0.3430	0.3509	0.2214	0.1010	0.1920	0.1706	0.1711	0.1901	0.2092	0.2811	0.0916

図表 II-32 は、協議会の運営の「共有性」に含まれる指標と、教職員への効果に含まれる指標との相関係数を見たものである。

共有性と教職員への効果とは、「共有性」という小分類として教職員への効果の「保護者・地域住民への信頼の高まり」「生徒指導・生活指導の負担の減少」と正の相関があることが分かる。個別指標で見ると、「地域住民や保護者は、誰が協議会委員になっているか知っている」「学校教育目標や学校運営の基本方針が確認しやすい形で共有されており、内容は理解している」「協議会での協議内容について、十分な情報発信が行われている」において、相対的に相関係数が高い。

図表 II-32 共有性×教職員への効果

	効果：学校・地域への要請の高まり	教師という仕事にやりがいを感じる	学校のある地域に愛着を感じる	今の学校を離れても、転勤先でも地域と協働したい	効果：保護者・地域住民への信頼の高まり	保護者や地域の人は、学校の課題や問題点を理解している	保護者や地域の人は、学校にとって有意義な意見・提案をしてくれる	効果：授業力の向上	授業に活用できる地域資源や地域課題を理解している	授業のねらいに応じて、効果的に地域資源等を活用した授業を行うことができる	授業は、学校外にも広がる人がいる	地域の人が協力する活動によって、授業の向上につながったことがある	地域の人が協力する活動によって、勉強が好きな子どもが増えている	効果：生徒指導・生活指導の負担の減少	子どもの生徒指導・生活指導について、学校外にも手伝わっている人がいる	地域の人が協力することによって、子どもの問題行動の解決につながっている	効果：保護者対応の負担の減少	保護者や地域住民の学校への批判・苦情は少ない	保護者や地域住民の対応の負担は大きくない	
共有性	0.1526	-0.0023	0.2431	0.1190	0.3150	0.2847	0.3104	0.2238	0.2344	0.2803	0.1628	0.1389	0.1751	0.3244	0.3202	0.2850	0.2939	0.1879	0.1696	0.1800
地域住民や保護者は、誰が協議会委員になっているか知っている	0.2342	0.0990	0.2913	0.1802	0.4205	0.3585	0.4355	0.4038	0.3740	0.4339	0.3286	0.2962	0.3441	0.3332	0.3691	0.2892	0.2665	0.3252	0.3016	0.3020
学校教育目標や学校運営の基本方針が確認しやすい形で共有されており、内容は理解している	0.1096	-0.0349	0.2077	0.0796	0.3196	0.3109	0.2932	0.2695	0.2794	0.3283	0.2081	0.2191	0.1472	0.3179	0.3427	0.3088	0.2352	0.1680	0.1830	0.1240
学校の問題や悩みは、協議会委員の中で共有されている	-0.0967	-0.1532	0.0157	-0.1191	0.0678	0.0576	0.0704	-0.2276	-0.2237	-0.1769	-0.2658	-0.2206	-0.0968	0.0938	0.0274	0.0944	0.1373	-0.0198	-0.0558	0.0257
協議会での協議内容について、十分な情報発信が行われている	0.2300	0.0574	0.2645	0.2327	0.2008	0.1947	0.1848	0.2680	0.3280	0.3183	0.2472	0.1527	0.1398	0.3135	0.3056	0.2443	0.3142	0.1086	0.1033	0.0978

(2) 個人レベルデータ分析

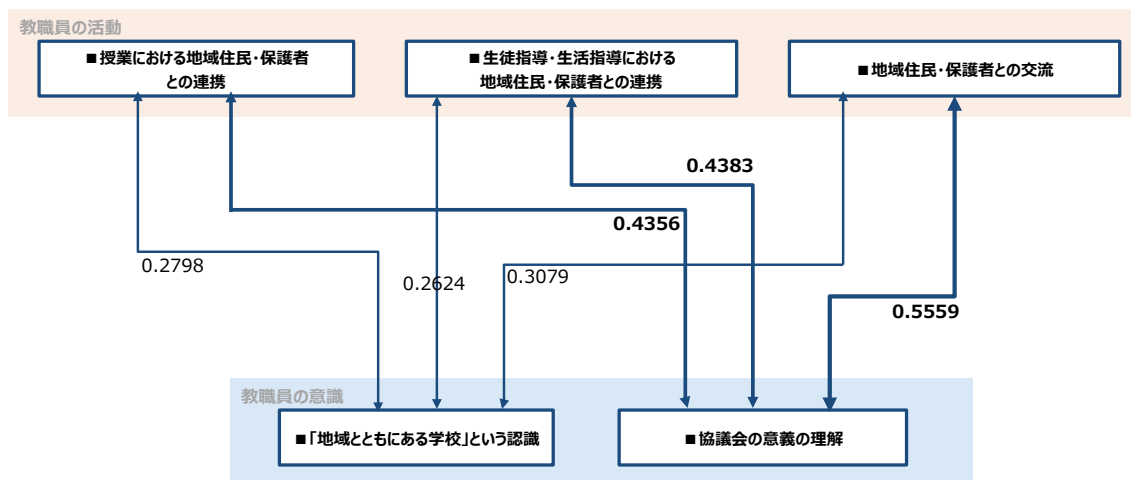
① 教職員の意識×教職員の活動

図表 II-33 は、「教職員の意識」の2小分類と、「教職員の活動」の3小分類との相関関係の分析を行い、相関係数を図示したものである。

特に意識「協議会の意義の理解」において、活動と相対的に大きな相関が確認できた。

教職員の協議会への理解が高い学校ほど、教職員の活動が活発であるという関係性が示唆された。

図表 II-33 教職員の意識×教職員の活動（相関関係の分析）



図表 II-34 は、教職員の意識に含まれる指標と、教職員の活動に含まれる指標との相関係数を見たものである。

教職員の意識と教職員の活動とは、全体として正の相関を示すことが分かる。特に、「協議会の意義の理解」は、小分類としても、これに含まれるすべての個別指標においても、活動の3つの小分類および多くの指標と正の相関を示しており、相関係数も相対的に大きい。特に、活動の「地域住民・保護者との交流」との間で相関係数が大きい。

教職員が協議会の意義を理解し、協議会に対する関心を持つことが、教職員の活動の活発さに影響する可能性が示唆された。

図表 II-34 教職員の意識×教職員の活動

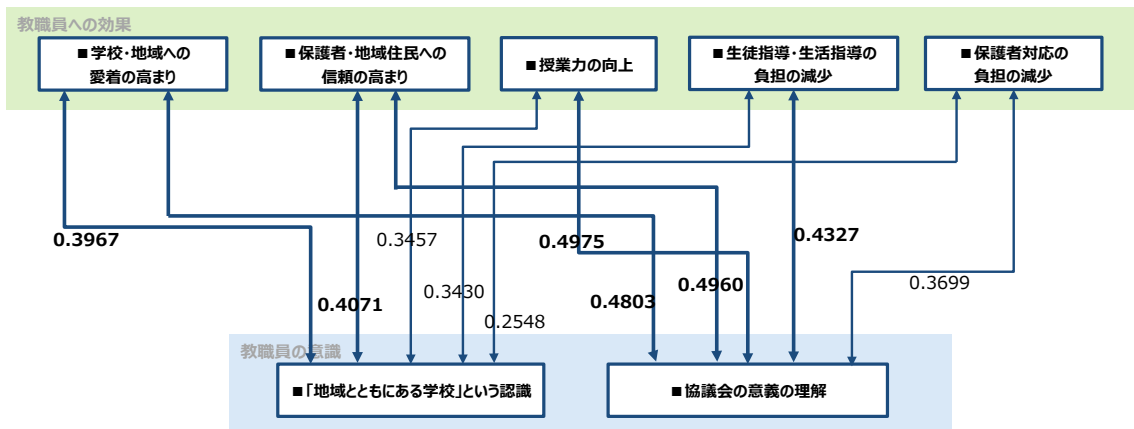
	活動：授業における地域住民・保護者との連携	地域との協働 だからできる授業がある	授業で、保護者や地域住民に授業支援やゲストティーチャーをお願いする	授業づくりに、保護者や地域住民が参画・支援することがある	教室内の授業で、地域の題材や地域の課題を扱う	活動：生徒指導・生活指導における地域住民・保護者との連携	子どもの生徒指導・生活指導において、必要があれば地域住民と協力してフォローする	地域住民から得られた情報で、早期に子どもの悩みに向き合えたことがある	活動：地域住民・保護者との交流	保護者や地域住民とは、気軽に会話できる	学校での活動について、保護者や地域住民に相談する
意識：「地域とともにある学校」という認識	0.2798	0.3145	0.1810	0.2118	0.2215	0.2624	0.2236	0.2384	0.3079	0.2871	0.2419
保護者や地域住民が学校運営に関わることは、必要なことだ	0.2525	0.3171	0.1519	0.1898	0.1860	0.2281	0.1964	0.2052	0.2690	0.2447	0.2168
地域の人に関わると、学校運営が混乱してしまう（反転項目修正）	0.2217	0.1881	0.1741	0.1855	0.1734	0.2262	0.1906	0.2077	0.2476	0.2199	0.2040
より良い学校づくりのためには、地域の人にも学校の様子や取組を知ってもらう必要がある	0.1696	0.2382	0.0793	0.1044	0.1546	0.1433	0.1227	0.1296	0.1922	0.2028	0.1304
意識：協議会の意義の理解	0.4356	0.3929	0.3516	0.3792	0.2939	0.4383	0.3545	0.4174	0.5559	0.4417	0.5034
協議会での協議・決定内容の情報については、定期的に確認している	0.3420	0.2785	0.2787	0.3196	0.2285	0.3355	0.2670	0.3238	0.4413	0.3404	0.4085
協議会での協議・決定事項に関心がある	0.3190	0.2908	0.2529	0.2785	0.2171	0.3258	0.2740	0.2997	0.4124	0.3361	0.3660
学校での活動について、協議会委員に相談したいと思うことがある	0.3660	0.3133	0.3141	0.3235	0.2353	0.3580	0.2756	0.3550	0.4908	0.3408	0.4872
協議会で決定されたことやその活動は、学校にとって意味のあることだ	0.3368	0.3123	0.2813	0.2817	0.2225	0.3311	0.2644	0.3187	0.3705	0.3368	0.2987
協議会での協議によって、何か役割が与えられたら果したい	0.3343	0.3424	0.2435	0.2706	0.2431	0.3581	0.3032	0.3273	0.4357	0.3723	0.3718

② 教職員の意識×教職員への効果

図表 II-35 は、「教職員の意識」の2小分類と、「教職員への効果」の5小分類との相関関係分析を行い、相関係数を図示したものである。

特に意識「協議会の意義の理解」において、効果と相対的に大きな相関が確認できた。教職員の協議会への理解が高い学校ほど、教職員への効果の発現が大きいという関係性が示唆された。

図表 II-35 教職員の意識×教職員への効果（相関分析）



図表 II-36 は、教職員の意識に含まれる指標と、教職員への効果に含まれる指標との相関係数を見たものである。

教職員の意識と教職員への効果とは、全体として正の相関を示すことが分かる。特に、「協議会の意義の理解」は、小分類としても、これに含まれるすべての個別指標において、効果の5つの小分類および多くの指標と正の相関を示しており、相関係数も相対的に大きい。ただし、教職員への効果の「保護者対応の負担の減少」は、全体的に教職員の意識との相関係数が小さい。

教職員が協議会の意義を理解し協議会に対する関心を持つことと、教職員の効果実感との正の関係性が示唆された。

図表 II-36 教職員の意識×教職員への効果

	効果：学校・地域への愛着の高まり	教師という仕事にやりがいを感じる	学校のある地域に愛着を感じる	今の学校を離れても、転勤先でも地域と協働したい	効果：保護者・地域住民への信頼の高まり	保護者や地域の人は、学校の課題や問題点を理解してくれている	保護者や地域の人は、学校にとって有意義な意見・提案をしてくれる	効果：授業力の向上	授業に活用できる地域資源や地域課題を理解している	授業のねらいに応じて、効果的に地域資源等を活用した授業を行うことができる	授業は、学校外にもサポートしてくれる人がいる	地域の人と協力することで、授業の内容の向上につながることがある	地域の人とのふれあいや地域での活動によって、勉強が好きな子どもがいる	効果：生徒指導・生活指導の負担の減少	子どもの生徒指導・生活指導について、学校外にも手当てしてくれる人がいる	地域の人と協力することで、子どもの問題行動の解決につながっている	効果：保護者対応の負担の減少	保護者や地域住民の学校への批判的言情報は少ない	保護者や地域住民対応の負担は大きくない	
意識：「地域とともにある学校」という認識	0.3967	0.2753	0.3339	0.3759	0.4071	0.3358	0.4180	0.3457	0.2695	0.2296	0.2820	0.3026	0.2975	0.3430	0.2754	0.3078	0.3134	0.2548	0.2550	0.1862
保護者や地域住民が学校運営に関わることは、必要なことだ	0.3376	0.2330	0.2706	0.3335	0.3507	0.2833	0.3665	0.3095	0.2481	0.2354	0.2530	0.2486	0.2546	0.3050	0.2608	0.2695	0.2674	0.1969	0.1965	0.1446
地域の人が開くと、学校運営が混乱してしまう（反転項目修正）	0.3050	0.2088	0.2732	0.2757	0.3479	0.2966	0.3473	0.2884	0.2196	0.1709	0.2193	0.2546	0.2863	0.3125	0.2401	0.2929	0.2847	0.2387	0.2378	0.1755
より良い学校づくりのためには、地域の人にも学校の様子や取組を知ってもらう必要がある	0.2792	0.1995	0.2280	0.2670	0.2302	0.1836	0.2430	0.1914	0.1485	0.1203	0.1789	0.1923	0.1239	0.1541	0.1198	0.1254	0.1560	0.1417	0.1443	0.1011
意識：協議会の意義の理解	0.4803	0.2958	0.4174	0.4756	0.4960	0.4213	0.4974	0.4975	0.4024	0.4023	0.3921	0.4177	0.3798	0.4327	0.3801	0.3822	0.3699	0.2752	0.2787	0.1979
協議会での協議・決定内容の情報については、定期的に確認している	0.2963	0.2015	0.2473	0.2866	0.3298	0.2749	0.3359	0.3755	0.3144	0.2973	0.2938	0.3243	0.2786	0.3486	0.3138	0.2986	0.3017	0.1858	0.2019	0.1201
協議会での協議・決定事項に関心がある	0.3906	0.2345	0.3359	0.3951	0.3480	0.2671	0.3784	0.3917	0.3298	0.3410	0.3035	0.3173	0.2824	0.3191	0.2964	0.2816	0.2581	0.2214	0.2260	0.1574
学校での活動について、協議会委員に相談したいと思うことがある	0.2985	0.1518	0.2856	0.2980	0.3372	0.3051	0.3185	0.4039	0.3278	0.3503	0.2892	0.3283	0.3201	0.2931	0.2414	0.2669	0.2564	0.1527	0.1606	0.1039
協議会で決定されたことやその活動は、学校にとって意味のあることだ	0.4089	0.2698	0.3569	0.3893	0.4893	0.4187	0.4870	0.3695	0.2491	0.2436	0.3373	0.3285	0.3147	0.3757	0.3114	0.3264	0.3458	0.2493	0.2446	0.1870
協議会での協議によって、何か役割が与えられたら果したい	0.5084	0.3210	0.4240	0.5135	0.4643	0.4018	0.4576	0.4002	0.3380	0.3233	0.3196	0.3362	0.2897	0.3686	0.3343	0.3305	0.2986	0.2854	0.2724	0.2217

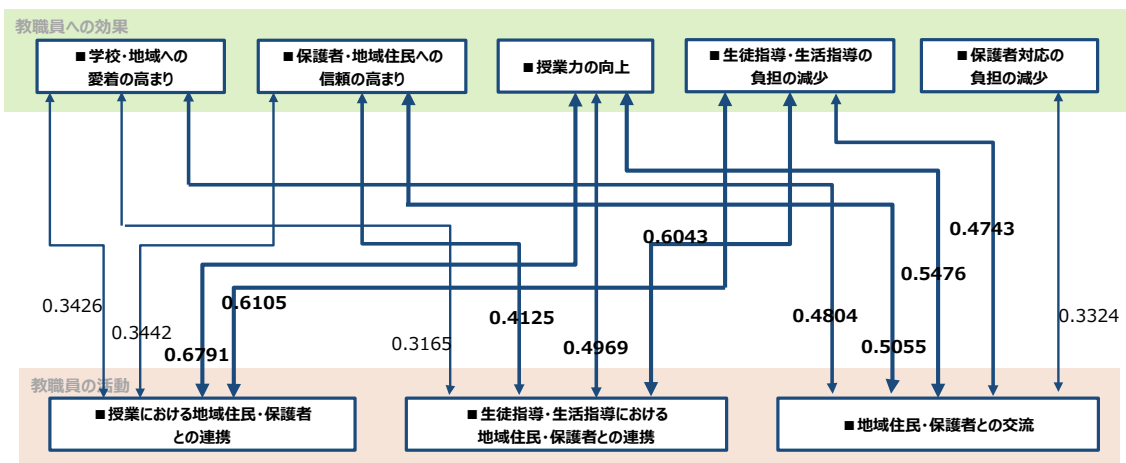
③ 教職員の活動×教職員への効果

図表 II-37 は、「教職員の活動」の3小分類と、「教職員への効果」の5小分類との相関関係の分析を行い、相関係数を図示したものである。

活動全般的に、効果と強い相関が確認できた。

教職員の活動が活発な学校ほど、教職員の効果実感も高いという関係性が示唆された。

図表 II-37 教職員の活動×教職員への効果（相関関係の分析）



図表 II-38 は、教職員の活動に含まれる指標と、教職員への効果に含まれる指標との相関係数を見たものである。

教職員の活動と教職員への効果とは、全体として正の相関を示すことが分かる。活動「授業における地域住民・保護者との連携」は効果「授業力の向上」と、活動「生徒指導・生活指導における地域住民・保護者との連携」は効果「生徒指導・生活指導の負担の減少」と0.5以上の正の相関を示すなど、関連する活動・効果間での関係性が顕著である。

一方で、「地域住民・保護者との交流（活動）」と「授業力の向上（効果）」なども0.5を超える強い相関を示すなど、直接関係する小分類以外でも、教職員の効果とは正の相関を示す。効果「保護者対応の負担の減少」は、活動「地域住民・保護者との交流」とのみ0.25以上の相関を示した。

活動と効果は全体として正の相関を示す。活動と成果実感は密接な関係性にある。

図表 II-38 教職員の活動×教職員への効果

	効果：学校・地域への褒賞の高まり	教師という仕事にやりがいを感じる	学校のある地域に愛着を感じる	今の学校を離れても、転勤先でも地域と協働したい	効果：保護者・地域住民への褒賞の高まり	保護者や地域の人は、学校の課題や問題を理解してくれている	保護者や地域の人は、学校に対して有難さを感じ、授業をしてくれる	効果：授業力の向上	授業に活用できる地域資源や地域課題を理解している	授業のねらいに応じて、効果的に地域資源等を活用した授業を行うことができる	授業は、学校外にも広がっている	地域の人と協力することで、授業の内容の向上につながりつつある	地域の人とのふれあいや活動によって、勉強が好きな子どもが増えている	効果：生徒指導・生活指導の負担の減少	子どもの生徒指導・生活指導について、学校外にも手伝わっている人がいる	地域の子どもの話を聞いてくれたり、アドバイスしたりすることが、生徒指導の負担軽減につながっている	効果：保護者対応の負担の減少	保護者や地域住民の学校への批判・苦情は少ない	保護者や地域住民の負担は大きくない	
活動：授業における地域住民・保護者との連携	0.3426	0.2241	0.2636	0.3603	0.3442	0.2999	0.3369	0.6791	0.5195	0.5712	0.5407	0.6105	0.4695	0.3504	0.3302	0.2978	0.2909	0.2071	0.2084	0.1501
地域との協働だからできる授業がある	0.3123	0.1821	0.2373	0.3508	0.3234	0.2853	0.3130	0.5022	0.3655	0.4022	0.3849	0.4833	0.3742	0.2975	0.2538	0.2530	0.2722	0.1555	0.1763	0.0932
授業で、保護者や地域住民に授業支援やゲストティーチャーをお願いする	0.2692	0.2025	0.2123	0.2554	0.2280	0.2076	0.2140	0.5493	0.4183	0.4543	0.4345	0.5151	0.3709	0.2610	0.2506	0.2267	0.2071	0.1513	0.1509	0.1110
授業づくり、保護者や地域住民が参画・支援することがある	0.2722	0.1641	0.2039	0.3037	0.3122	0.2625	0.3155	0.5922	0.4567	0.4881	0.4876	0.5112	0.4167	0.3487	0.3425	0.2970	0.2758	0.1987	0.1830	0.1609
教室内の授業で、地域の題材や地域の課題を扱う	0.2658	0.1793	0.2077	0.2718	0.2623	0.2266	0.2587	0.5499	0.4345	0.4998	0.4358	0.4678	0.3590	0.2273	0.2159	0.1868	0.1935	0.1631	0.1681	0.1144
活動：生徒指導・生活指導における地域住民・保護者との連携	0.3165	0.2029	0.2810	0.3006	0.4125	0.3718	0.3908	0.4969	0.3838	0.4265	0.3766	0.3863	0.4155	0.6043	0.5396	0.5351	0.5100	0.2238	0.1994	0.1878
子どもの生徒指導・生活指導において、必要があれば地域住民と協力してフォローする	0.2483	0.1459	0.2149	0.2527	0.3429	0.2955	0.3389	0.4121	0.3080	0.3608	0.3294	0.3323	0.3230	0.5317	0.4997	0.4647	0.4300	0.1791	0.1568	0.1531
地域住民から得られた情報で、早期に子どもの悩みに向き合えたことがある	0.3091	0.2115	0.2801	0.2765	0.3835	0.3593	0.3491	0.4628	0.3679	0.3906	0.3340	0.3482	0.4091	0.5321	0.4500	0.4773	0.4680	0.2150	0.1944	0.1776
活動：地域住民・保護者との交流	0.4804	0.3044	0.4353	0.4511	0.5055	0.4765	0.4579	0.5476	0.4391	0.4725	0.4456	0.4229	0.4058	0.4743	0.4412	0.4159	0.3874	0.3324	0.3496	0.2262
保護者や地域住民とは、気軽に会話できる	0.4805	0.3450	0.4446	0.4071	0.4195	0.3882	0.3872	0.4440	0.3559	0.3805	0.3689	0.3567	0.3102	0.3751	0.3486	0.3157	0.3191	0.3000	0.3161	0.2035
学校での活動について、保護者や地域住民に相談する	0.3491	0.1859	0.3084	0.3662	0.4422	0.4228	0.3943	0.4883	0.3916	0.4235	0.3908	0.3651	0.3781	0.4310	0.4013	0.3894	0.3411	0.2699	0.2833	0.1842

(3) 教職員の勤続年数による分析(参考)

勤続年数と「教職員の意識」「教職員の活動」「教職員への効果」との関係性をみたところ、「教職員としての勤続年数」と意識の「協議会の意義の理解」、「教職員としての勤続年数」と活動の「地域住民・保護者との交流」に関しては、正の相関がみられた。

勤続年数と教職員への効果とは、特筆すべき関係性は見られなかった。

図表 II-39 勤続年数×教職員の意識

	意識：「地域とともにある学校」という認識	保護者や地域住民が学校運営に関わることは、必要なことだ	地域の人に関わると、学校運営が混乱してしまう(反転項目修正)	より良い学校づくりのためには、地域の人にも学校の様子や取組を知ってもらう必要がある	意識：協議会の意義の理解	協議会での協議・決定内容の情報については、定期的に確認している	協議会での協議・決定事項に関心がある	学校での活動について、協議会委員に相談したいと思うことがある	協議会で決定されたことやその活動は、学校にとって意味のあることだ	協議会での協議によって、何か役割が与えられたら果したい
教職員としての勤続年数	0.0976	-0.0264	0.1469	0.0991	0.3287	0.2985	0.2852	0.3349	0.1392	0.1915
現在の学校での勤続年数	0.0282	0.0049	0.0425	0.0126	0.0427	0.0691	-0.0222	0.0510	0.0322	0.0301

図表 II-40 勤続年数×教職員の活動

	活動：授業における地域住民・保護者との連携	地域との協働だからできる授業がある	保護者や地域住民に授業支援やゲストティーチャーをお願いする	授業づくり、保護者や地域住民が参画・支援することがある	教室内の授業で、地域の題材や地域の課題を扱う	活動：生徒指導・生活指導における地域住民・保護者との連携	子どもの生徒指導・生活指導において、必要があれば地域住民と協力してフォローする	地域住民から得られた情報で、早期に子どもの悩みに向き合えたことがある	活動：地域住民・保護者との交流	保護者や地域住民とは、気軽に会話できる	学校での活動について、保護者や地域住民に相談する
教職員としての勤続年数	0.1185	0.0454	0.1485	0.1078	0.0711	0.1825	0.1422	0.1784	0.2688	0.2431	0.2124
現在の学校での勤続年数	-0.0329	-0.0418	-0.0175	-0.0191	-0.0330	0.0026	-0.0466	0.0514	0.0805	0.1338	0.0115

図表 II-41 勤続年数×教職員への効果

	効果：学校・地域への愛着の高まり	教師という仕事にやりがいを感じる	学校のある地域に愛着を感じる	今の学校を離れても、転勤先でも地域と協働したい	効果：保護者・地域住民への信頼の高まり	保護者や地域の人は、学校の課題や問題点を理解してくれている	保護者や地域の人は、学校にとって有意義な意見・提案をしてくれる	効果：授業力の向上	授業に活用できる地域資源や地域課題を理解している	授業のねらいに応じて、効果的に地域資源等を活用した授業を行うことができる	授業は、学校外にもサポートしてくれる人がいる	地域の人と協力することで、授業の内容の向上につながったことがある	地域の人とのふれあいや地域での活動によって、勉強が好きな子どもがいる
教職員としての勤続年数	0.1963	0.1589	0.2057	0.1275	0.1460	0.1381	0.1310	0.1928	0.1440	0.1612	0.1243	0.1884	0.1564
現在の学校での勤続年数	0.0436	0.0506	0.0593	0.0004	0.0129	0.0321	-0.0093	0.0577	0.0227	0.0366	0.0225	0.0680	0.0787

	効果：生徒指導・生活指導の負担の減少	子どもの生徒指導・生活指導について、学校外にも手伝ってくれる人がいる	地域の人や子どもを聞いてくれたり、アドバイスをしてくれたりすることが、生活指導の負担軽減につながる	地域の人と協力することで、子どもの問題行動の解決につながる	効果：保護者対応の負担の減少	保護者や地域の住民の学校への批判・苦情は少ない	保護者や地域の住民対応の負担は大きい
教職員としての勤続年数	0.1488	0.1641	0.1139	0.1104	0.1714	0.1758	0.1246
現在の学校での勤続年数	-0.0241	0.0035	-0.0377	-0.0308	-0.0119	0.0123	-0.0333

2-3. 分析結果のまとめ

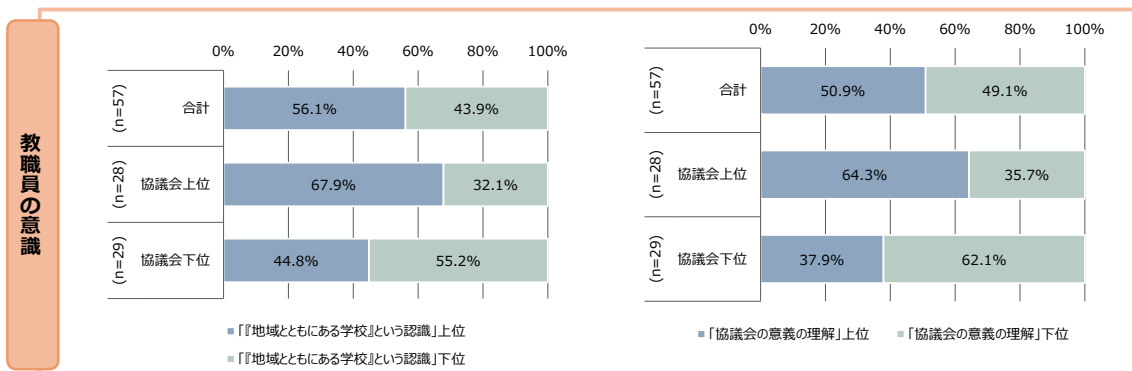
CS の機能充実による教職員への効果等分析の結果について、明確に傾向が読み取れ、かつ今後の CS 導入推進におけるバックデータとして活用可能であると考えられる結果を、以下に改めて示す。

(1) 協議会の運営状況（全体）は教職員の意識・活動・成果実感に影響

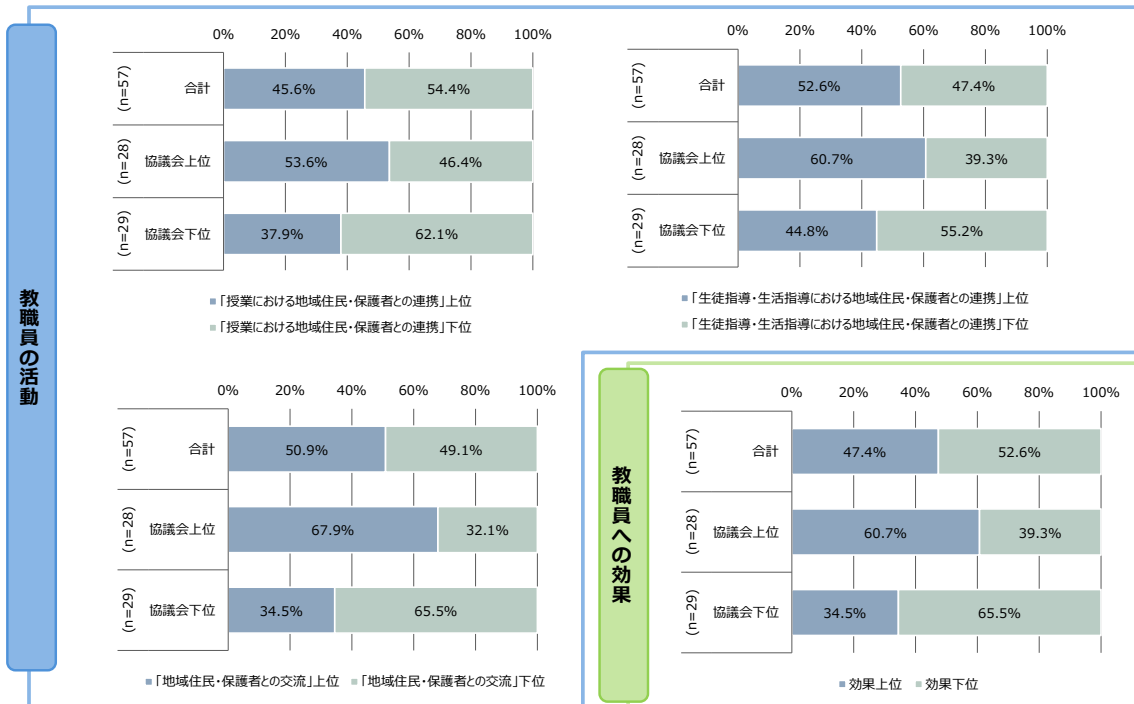
CS ポートフォリオの「協議会の運営」に含まれる指標を一つの統合指標として上位／下位に分け、教職員の意識・活動・成果実感の上位／下位との関係性を分析したところ、「協議会の運営」上位校（協議会上位）ほど、教職員の意識・活動・効果のいずれも上位となっている割合が高いことが分かった。

「協議会の運営」が良好である学校ほど、教職員の意識や活動、成果実感が高いという傾向が読み取れた。

図表 II-42 協議会の運営状況と教職員の意識（再掲）



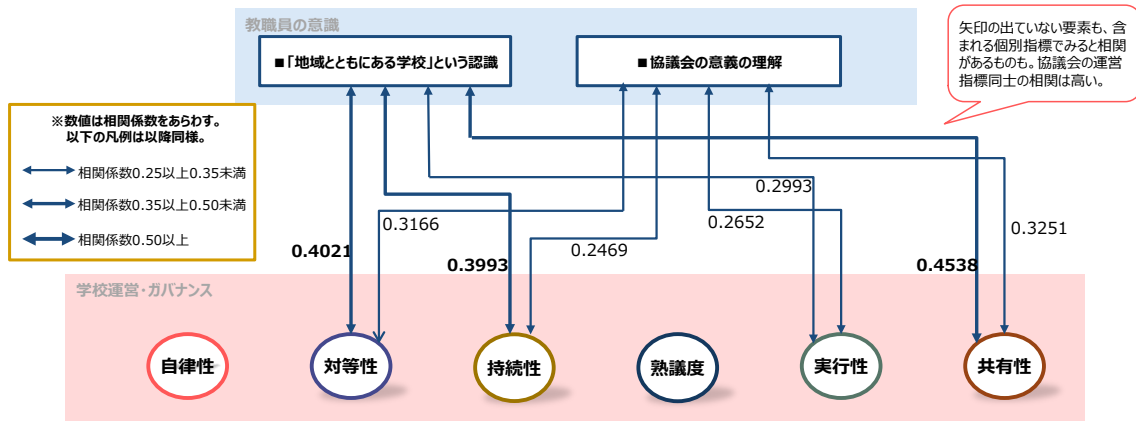
図表 II-43 協議会の運営状況と教職員の活動・成果実感（再掲）



(2) CS ポートフォリオの各要素は相関関係あり

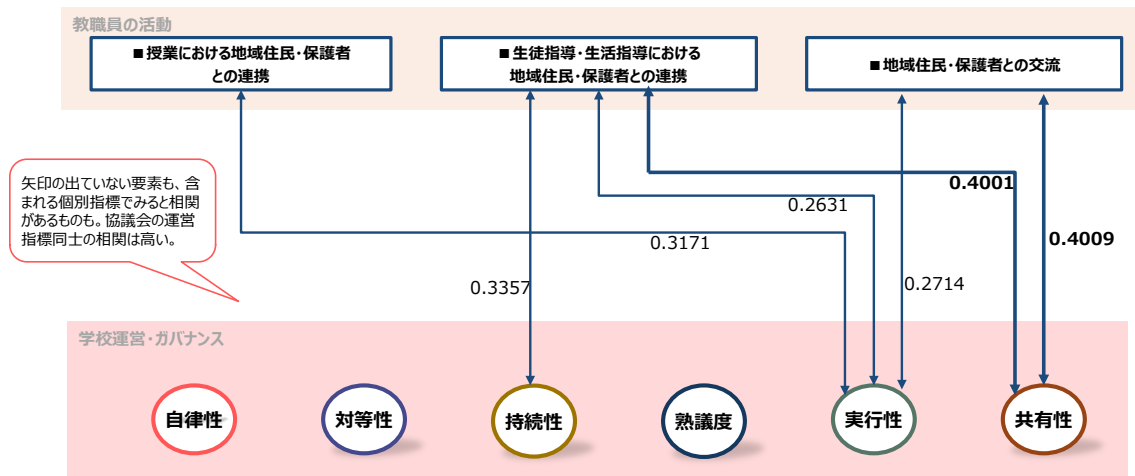
「協議会の運営」と「教職員の意識」に関しては、特に「対等性」「持続性」「実行性」「共有性」において、教職員の意識と相対的に大きな相関が確認できた。これらの要素が充実している協議会のある学校ほど、教職員の意識が高いという関係性が示唆された。

図表 II-44 協議会の運営×教職員の意識（再掲）



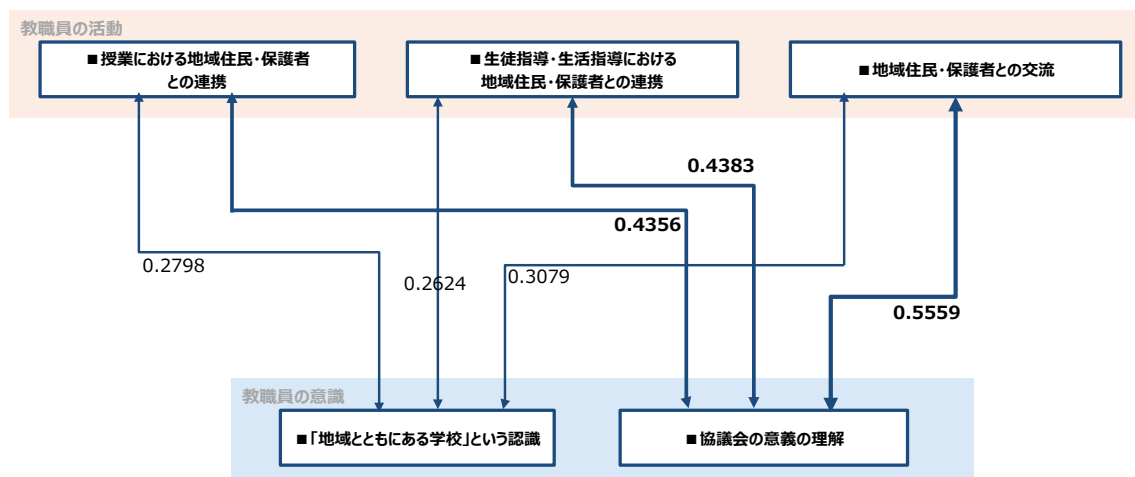
「協議会の運営」と「教職員の活動」に関しては、特に「持続性」「実行性」「共有性」において、教職員の意識と相対的に大きな相関が確認できた。これらの要素が充実している協議会のある学校ほど、教職員の活動が活発という関係性が示唆された。

図表 II-45 協議会の運営×教職員の活動（再掲）



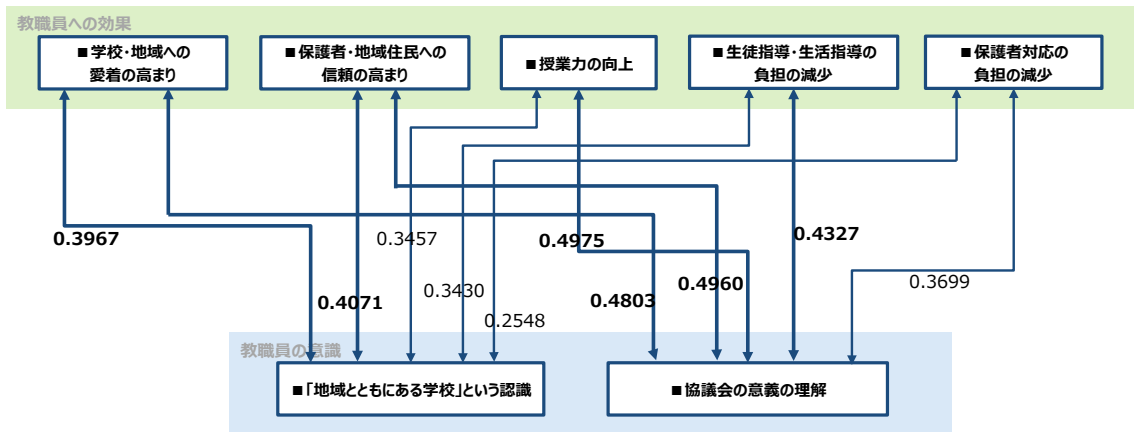
「教職員の意識」と「教職員の活動」に関しては、特に意識「協議会の意義の理解」において、活動と相対的に大きな相関が確認できた。教職員の協議会への理解が高い学校ほど、教職員の活動が活発であるという関係性が示唆された。

図表 II-46 教職員の意識×教職員の活動（再掲）



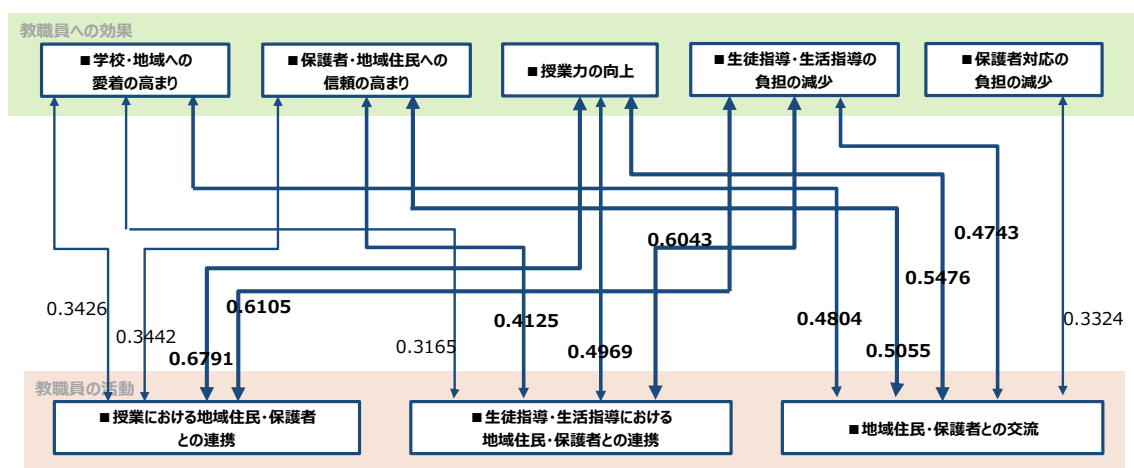
「教職員の意識」と「教職員への効果」に関しては、特に意識「協議会の意義の理解」において、効果と相対的に大きな相関が確認できた。教職員の協議会への理解が高い学校ほど、教職員への効果の発現が大きいという関係性が示唆された。

図表 II-47 教職員の意識×教職員への効果（再掲）



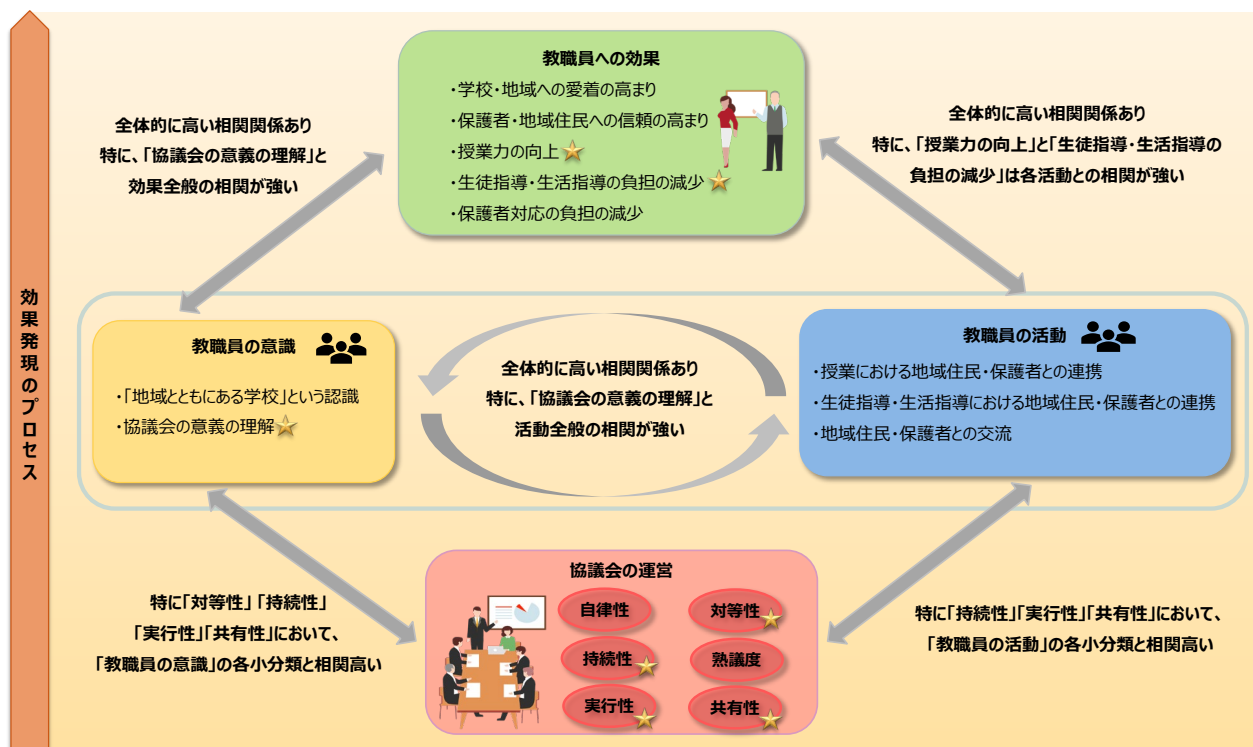
「教職員の活動」と「教職員への効果」に関しては、活動全般的に、効果と強い相関が確認できた。教職員の活動が活発な学校ほど、教職員の効果実感も高いという関係性が示唆された。

図表 II-48 教職員の活動×教職員への効果



以上のことを全体図に示したものが図表 II-49 である。各要素間では下図に示すような相関関係が確認でき、CS の効果発現のプロセスを「協議会の運営」→「教職員の意識・活動」(※意識と活動は相互作用)→「教職員への効果」とする CS ポートフォリオの構造の妥当性を改めて確認することができた。

図表 II-49 分析結果のまとめ



(3) 「授業改善」及び「生徒指導・生活指導の充実」への寄与

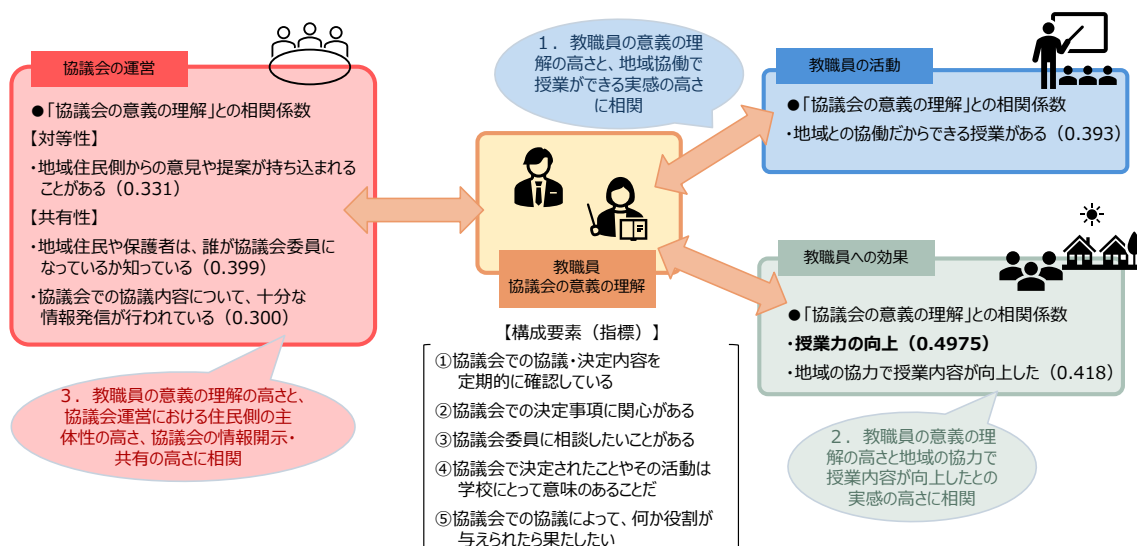
また、CSの機能充実による教職員への効果等検証としては、特に「授業改善への寄与」及び「生徒指導・生活指導の充実」に着目した。学習指導要領（社会に開かれた教育課程）に対応する観点では、地域・社会との協働による教育課程（授業の質）の充実や、生徒指導・生活指導の充実（教職員の負担の減少）への効果にフォーカスすることが妥当と考えるためである。これらに関する分析結果を抜き出して以降に示している。

図表 II-50 に示す通り、教職員の意識の「協議会の意義の理解」が高い教職員は、教職員の活動の「地域との協働だからできる授業がある」及び教職員への効果の「授業力の向上（小分類）」「地域の人と協力することで、授業の内容の向上につながったことがある」も高いという結果が得られた。協議会の意義を理解している教職員は地域との協働で授業内容が向上したと実感する傾向が読み取れる。

また、「協議会の意義の理解」が高い教職員がいる学校では、協議会の運営のうち対等性の「地域住民側からの意見や提案が持ち込まれることがある」、共有性の「地域住民や保護者は、誰が協議会委員になっているか知っている」「協議会での協議内容について、十分な情報発信が行われている」も高いという結果も得られている。協議会への教職員の理解が高い学校では、協議会で対等な議論・開かれた運営がされている傾向が読み取れる。

これらのことから、協議会を対等で開かれた運営にしていくことで、授業改善に関して教職員の成果実感の高いCSに改善していくことができる可能性が示唆された。

図表 II-50 授業改善への寄与



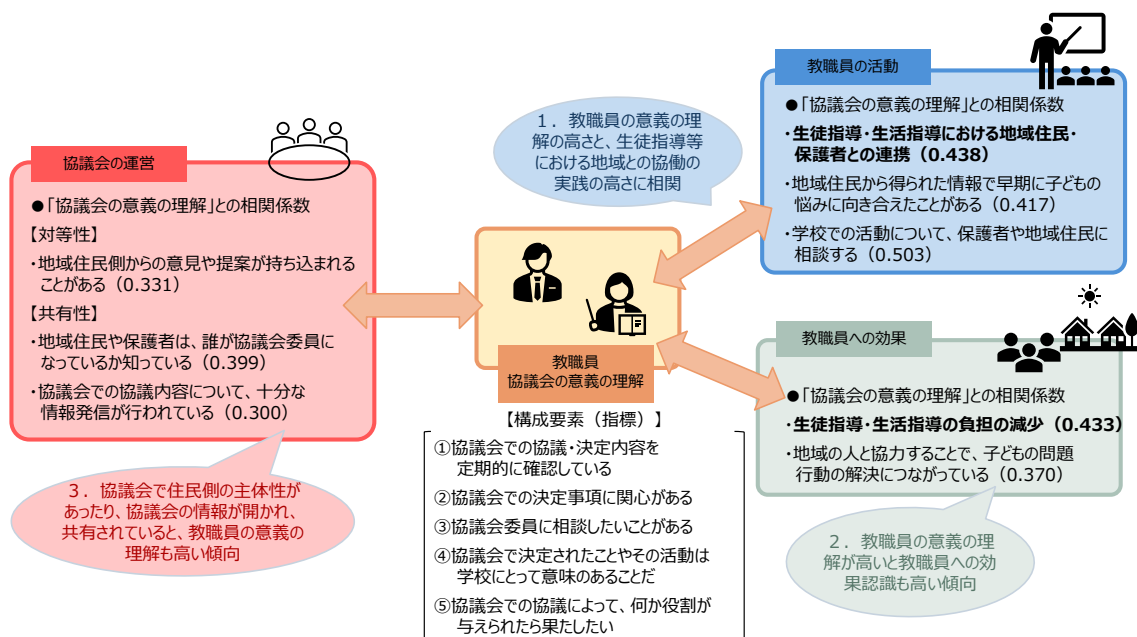
注) 図中の「(数値)」は、教職員の意識「協議会の意義の理解」との相関係数を示す。

図表 II-51 に示す通り、教職員の意識の「協議会の意義の理解」が高い教職員は、教職員の活動の「生徒指導・生活指導における地域住民・保護者との連携（小分類）」「地域住民から得られた情報で、早期に子どもの悩みに向き合えたことがある」「学校での活動について、保護者や地域住民に相談する」及び教職員への効果の「生徒指導・生活指導の負担の減少（小分類）」「地域の人と協力することで、子どもの問題行動の解決につながっている」も高いという結果が得られた。協議会の意義を理解している教職員は生徒指導・生活指導の充実（教職員の負担の減少）を実感する傾向が読み取れる。

また、「協議会の意義の理解」が高い教職員がいる学校では、協議会の運営のうち対等性の「地域住民側からの意見や提案が持ち込まれることがある」、共有性の「地域住民や保護者は、誰が協議会委員になっているか知っている」「協議会での協議内容について、十分な情報発信が行われている」も高いという結果も得られている。協議会への教職員の理解が高い学校では、協議会で対等な議論・開かれた運営がされている傾向が読み取れる。

これらのことから、協議会を対等で開かれた運営にしていくことで、生徒指導・生活指導に関しても教職員の成果実感の高いCSに改善していくことができる可能性が示唆された。

図表 II-51 生徒指導・生活指導の充実



注) 図中の「(数値)」は、教職員の意識「協議会の意義の理解」との相関係数を示す。

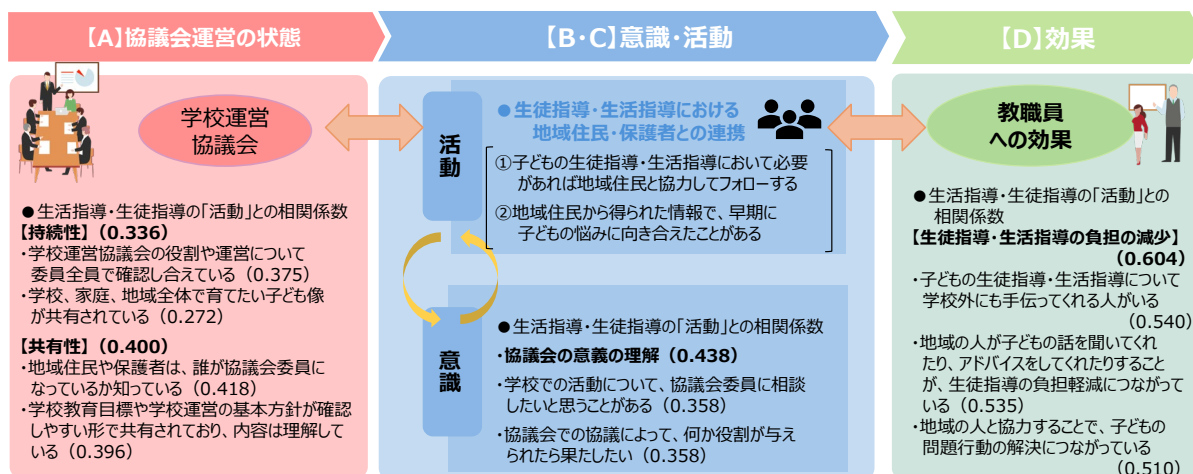
図表 II-52 は、教職員の意識と教職員の活動は相互作用する関係性であり、循環関係であるという考え方から、教職員の負担減に関して「教職員の活動」を起点において関係性を整理したものである。

図表 II-52 に示す通り、教職員の活動の「生徒指導・生活指導における地域住民・保護者との連携」をよく行っている教職員は、教職員の意識の「協議会の意義の理解（小分類）」「学校での活動について、協議会委員に相談したいと思うことがある」「協議会での協議によって、何か役割が与えられたら果たしたい」及び教職員への効果の「生徒指導・生活指導の負担の減少（小分類）」「子どもの生徒指導・生活指導について、学校外にも手伝ってくれる人がいる」「地域の人が子どもの話を聞いてくれたり、アドバイスをしてくれたりすることが、生徒指導の負担軽減につながっている」「地域の人と協力することで、子どもの問題行動の解決につながっている」も高いという結果が得られた。生徒指導・生活指導における地域住民・保護者との連携は、それらの負担の減少と高い相関があることが分かる。

また、教職員が生徒指導・生活指導において地域住民・保護者とよく連携している学校では、協議会の運営のうち持続性の「学校運営協議会の役割や運営について、委員全員で確認し合っている」「学校、家庭、地域全体で育てたい子ども像が共有されている」、共有性の「地域住民や保護者は、誰が協議会委員になっているか知っている」「学校教育目標や学校運営の基本方針が確認しやすい形で共有されており、内容は理解している」も高いという結果も得られている。

これらのことから、協議会で（生徒指導・生活指導を含めて）目標と役割が確認・共有されることで、生徒指導・生活指導に関しても教職員の成果実感の高いCS に改善していくことができる可能性が示唆された。

図表 II-52 教職員の負担減②



(※) 上記の他、実効性 (0.263) のうち、協議された事項の実行にあたり、学校長は期待される役割を果たしている (0.298)

2-4. 分析結果に関するヒアリング調査

(1) 実施概要

教職員への効果等検証において重視したポイント（「授業改善への寄与」と「生徒指導・生活指導の充実」）に関して良好な関係性が確認できた学校3校に対して、ヒアリング調査を実施した。

アンケート分析結果から得られたモデル（＝図表 II-50～図表 II-52 のような関係性）について、このような関係性が確認できる学校において、学校運営協議会の運営や教職員の在り方に関連して、どのような工夫や取組が見られるのかを把握した。

ヒアリング調査項目は以下の通りである。

図表 II-53 ヒアリング調査項目

- ・学校協議会運営方法と教職員の効果実感の関係性について
 - 調査結果から得られた知見を紹介し、現場の実践者としての納得感や違和感について対話
- ・学校運営協議会の運営における工夫
 - 学校運営協議会の協議内容・決定内容等を教職員や地域・保護者に発信・共有する点に関する取組や工夫
- ・教職員と学校運営協議会との接点やつながり方の工夫
 - 教職員と学校協議会との接し方（協議内容等の情報取得の仕方、目標の共有方法）、委員とのコミュニケーション（相談、依頼）など、教職員の効果的な振舞いや学校の環境づくり

(2) 調査結果

A～C校から聴取できた内容について、図表 II-54～図表 II-56 にポイントを抜粋して示した。

3校へのヒアリング調査からは、大きく「①学校運営協議会の協議内容について適時的確に教職員に対してフィードバックすること」「②学校運営協議会に委員や担当職員以外の教職員（学年主任等）が直接参加し、授業や生徒指導での課題や地域住民への期待事項について説明すること」「③協議会委員に対する授業公開・参画促進を進めることで、学校の実態について共有を進めること」の3点が、学校で取り組まれていること・工夫として聴取できた。

このような取組によって、CSの「授業改善への寄与」や「生活指導・生徒指導の充実」に対する成果発現につながりやすくなる可能性が示唆された。

図表 II-54 A校ヒアリングにおけるポイント



A校

協議会では学年主任が各学年の現状、生徒指導担当が前年度に起きた問題や抱えている課題を**直接参加・報告**している。その中で、例えば、不登校生徒の家庭訪問での悩みを話したところ、委員でもある民生委員の協力がその場で得られるなど、**直接交流・相談することが成果実感につながっている**ように思う。

会議の場だけではなく、終わった後の雑談の時間も、**コミュニケーションを取りやすい関係性を作る**うえで重視している。

学校における**地域との連携の在り方について、協議会会長が中心となって年間計画に落とし込んでいる**。学校は要望を伝える形である。またこの年間計画（コミュニティカレンダー）は、地域学校協働活動に参加する人に限らず、**学校区の全世帯に配布**している。

図表 II-55 B校ヒアリングにおけるポイント



B校

協議会委員でもある**地域学校協働活動推進員が地域の声と学年主任の声をつなげ**、教員と一緒に**学校地域連携カリキュラムを作成**しています。また、協議会での議論の内容によって、**担当教員がオブザーバー的に参加し、問題意識や意向を伝える**ようにしています。

協議会に参加している校長が知り得たことは、**できるだけリアルタイムで教職員に共有**することを心掛けている。全教員が揃う**週に1回の会議**で資料を配布し、協議会の検討内容を共有している。

図表 II-56 C校ヒアリングにおけるポイント



C校

地域の方に「**授業を開く**」ことが子どもの変容・育ち・課題を認識してもらうために効果的であり、教員の授業改善の意識も高まるため、**両者の意識をすり合わせる上で重要**だと考えている。

協議会で話し合われたことは**議事録として教員にも配布**。ただ、忙しくて中身まではなかなか見られないと思うので、協議会に参加している校長から、**ミニ職員会議（1週間に1回開催）で要点を伝える**ようにしている。

2-5. 基礎的調査の再分析（参考）

（1）実施概要

令和2年度に実施した「コミュニティ・スクールの運営・意識・取組等に関する基礎的調査」（以下「基礎的調査」という。）の結果を用いた再分析において、教職員への効果等検証を補足する結果が得られたため紹介する。

基礎的調査とは、全国の教育委員会（悉皆）及び学校（抽出）を対象に、学校運営協議会の運営に係る基礎的な情報（法律における学校運営協議会規定事項に関する状況／コミュニティ・スクールの運営に係る意識・取組）を把握することを目的とした調査である。

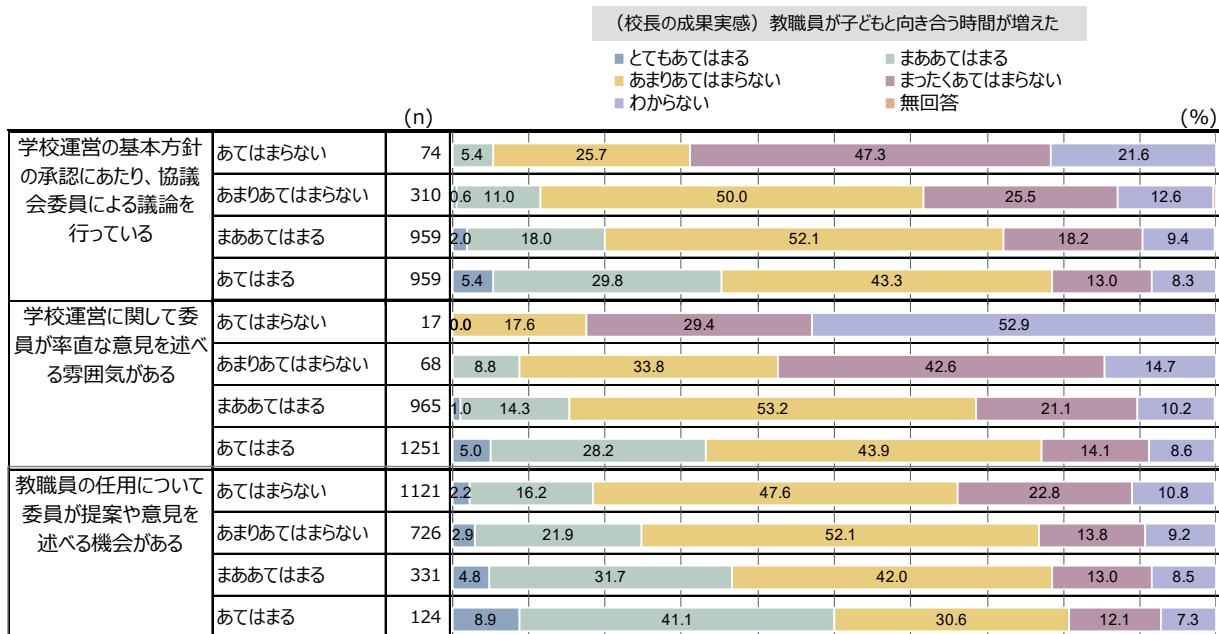
令和2年度調査では、CSポートフォリオの指標を検証することを目的に、A領域「協議会の運営」指標を用い、各校の学校運営協議会の運営状況についても把握を行っている。これを用い、自律性（特に法定3権限に関する指標）と校長のCSに対する成果実感との関係性について分析を行った。具体的には、「自律性」の中でも法定3権限に関連する3指標をクロス軸として、CSの成果実感に関する回答とのクロス分析を行っている。

（2）調査結果

図表 II-57 は、協議会の運営指標のうちCSの法定3権限に係る指標と、CSに対する校長の成果実感のうち「教職員が子どもと向き合う時間が増えた」との関係性を見たものである。

グラフをみると、法定3権限を備えている（「あてはまる」「まああてはまる」と肯定的な回答をしている）学校ほど、校長の成果実感の「教職員が子どもと向き合う時間が増えた」についても肯定的に回答される傾向がみられた。

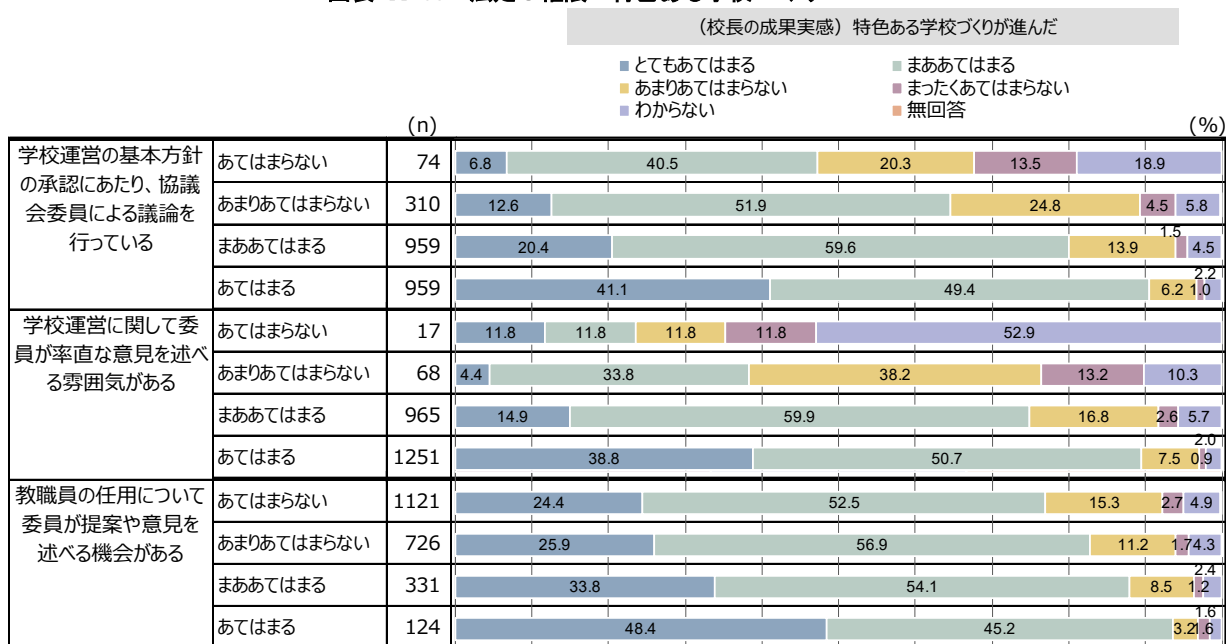
図表 II-57 法定3権限×教職員の働き方改革



図表 II-58 は、協議会の運営指標のうち CS の法定 3 権限に係る指標と、CS に対する校長の成果実感のうち「特色ある学校づくりが進んだ」との関係性を見たものである。

グラフをみると、法定 3 権限を備えている（「あてはまる」「まああてはまる」と肯定的な回答をしている）学校ほど、校長の成果実感の「特色ある学校づくりが進んだ」についても肯定的に回答される傾向がみられた。

図表 II-58 法定 3 権限×特色ある学校づくり



図表 II-59 は、協議会の運営指標のうち CS の法定 3 権限に係る指標と、CS に対する校長の成果実感のうち「地域と連携した取組が組織的に行えるようになった」との関係性を見たものである。

グラフをみると、法定 3 権限を備えている（「あてはまる」「まああてはまる」と肯定的な回答をしている）学校ほど、校長の成果実感の「地域と連携した取組が組織的に行えるようになった」についても肯定的に回答される傾向がみられた。

図表 11-59 法定3権限×地域と連携した取組

(校長の成果実感) 地域と連携した取組が組織的に行えるようになった

- とてもあてはまる
- まああてはまる
- あまりあてはまらない
- まったくあてはまらない
- わからない
- 無回答

		(n)	(%)				
学校運営の基本方針の承認にあたり、協議会委員による議論を行っている	あてはまらない	74	10.8	43.2	12.2	16.2	17.6
	あまりあてはまらない	310	12.3	54.8	21.0	5.2	6.8
	まああてはまる	959	17.4	56.6	18.0	2.8	5.0
	あてはまる	959	34.4	46.9	12.2	2.5	3.9
学校運営に関して委員が率直な意見を述べる雰囲気がある	あてはまらない	17	5.9	17.6	11.8	17.6	47.1
	あまりあてはまらない	68	2.9	50.0	25.0	14.7	7.4
	まああてはまる	965	12.8	57.2	19.7	3.9	6.3
	あてはまる	1251	33.3	48.4	12.4	2.2	3.6
教職員の任用について委員が提案や意見を述べる機会がある	あてはまらない	1121	20.8	50.0	18.7	4.5	5.9
	あまりあてはまらない	726	23.1	53.2	15.3	3.3	5.0
	まああてはまる	331	28.7	55.9	10.0	1.2	4.2
	あてはまる	124	37.9	50.8	8.1	0.8	2.4

協議会の運営…「自律性」指標より抜粋（法定3権限に関する指標）

III. CS ポートフォリオ簡易版の作成

1 実施概要

1-1. 実施方針

令和2～3年度「学校と地域の新たな協働体制の構築のための実証研究」委託事業においては、コミュニティ・スクールの現状及び効果を客観的に把握するためのツールであるCSポートフォリオを開発した。

CSポートフォリオを活用した対話からは、以下のような成果が確認できた。

図表 III-1 CSポートフォリオの成果

- ◆管理職・教職員両者の認識のズレが明らかになり、その後の協議会運営の改善につながった。
- ◆CSの目標の再確認、子どもへの問いかけ方法（協働活動の仕方）の見直しにつながった。
- ◆授業・学校・地域での教育目標の整合性、目標の乱立、目標の抽象性などに関する気づきが得られた。

また、教育委員会単位で複数校に導入することで、学校間・学校種間の特徴に関する気づき、好事例校の発見・波及など、教育委員会のリソースの有効活用、支援を受ける側の納得感の上昇につながるといった示唆が得られた。

一方で、CSポートフォリオの作成のためには、CSに関係する5つの主体（協議会委員、教職員、地域学校協働活動参加者、児童・生徒、保護者）に対しアンケートを実施しなければならず、調査実施の負荷が大きいことが課題であった。CSを導入したばかりの学校、CSポートフォリオを初めて使ってみる学校には実施障壁が高いツールとなっていた。

また、CSポートフォリオを活用した研修実施を経て、学校運営のガバナンスに活かせる領域・指標には偏りがあることも分かってきた。言い換えると、必ずしもすべての領域・指標が（満遍なく）議論・改善に活用されている訳ではないともいえる。

そこで本事業においては、CSポートフォリオに期待される成果（学校運営の状態を見える化し、ガバナンスの改善を促すこと）は維持しつつ、調査の実施に係る負荷を軽減することで、学校現場により普及しやすいツールに更新することに取り組んだ。

1-2. 簡易版の指標選択に関する考え方

令和2年度～令和3年度において実施したポートフォリオ調査における各主体へのアンケートの実施負荷や回収率の問題について、図表 III-2 に整理した。また、令和3年度調査で実施した学校及び教育委員会への研修の際に、EDPM (Evidence & Dialogue-based Policy Management=振り返りやその後の活動の改善) に活用された各主体・領域も整理している。

図表 III-2 簡易版の指標選択に関する考え方

調査対象	EDPM への活用状況	ポートフォリオ調査の負荷	簡易版対象
協議会委員	<ul style="list-style-type: none"> ◎本調査対象に対する結果のみでも気づきが多い ➢ 指標・指標構成自体に対する高評価 ➢ CS としての具体的な改善行動の対象となりやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ◎会議開催と合わせて実施することで調査負荷小さく、悉皆に近い回収可能 ➢ 大きな問題なし 	必須
教職員	<ul style="list-style-type: none"> ◎学校・教委研修とも関心の高さ、改善点の気づき多い ➢ 教員への効果を対象として良いという気づき ➢ 教育課程内への効果をCSの対象とする気づき 	<ul style="list-style-type: none"> ◎通常業務の指示系統で調査負荷小さくまた悉皆に近い回収可能 ➢ 大きな問題なし 	必須
児童・生徒	<ul style="list-style-type: none"> ◎学校・教委の一番の関心は子どもの状態・変化 ➢ 子どもの状態、特に非認知能力関係への関心高 ➢ 本指標から学校目標等の目標設定の見直しへ 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業時間を活用して悉皆の回収可能 ○タブレット等を活用すれば調査負荷軽減できるか 	優先度高
保護者	<ul style="list-style-type: none"> △他の領域との相関も見出しづらく、議論の対象に乗りにくい 	<ul style="list-style-type: none"> △児童・生徒を通しての実施となるケースが多く、依頼の正確性に難あり 	優先度低
地域の大人	<ul style="list-style-type: none"> △対象の母集団が見えないため、議論の対象に乗りにくい 	<ul style="list-style-type: none"> △対象の母集団の特定が困難、ネットでのアンケート回収が困難など問題多い 	優先度低

図表 III-2 の整理及び簡易版作成に対する当初の問題意識を踏まえると、簡易版の調査対象は協議会委員、教職員、および児童・生徒に対象を絞っていく形が望ましいと整理できる。

この方向は、CS が従来から学校運営の「ガバナンス」を意図した制度であること、また、学習指導要領 (社会に開かれた教育課程) に対応する観点では、多様な主体への効果以上に、教育課程 (授業の質の向上) や、教職員の負荷軽減への効果にフォーカスすることが妥当と考えるためである。

以上を踏まえ、簡易版の指標選択については下記を基本方針とした。

図表 III-3 CSポートフォリオ簡易版作成の基本方針

<ul style="list-style-type: none"> ・CS ポートフォリオを構成する5つの主体のうち、協議会、教職員の2主体を調査対象とする。 ⇒児童・生徒のアンケートは実施有無選択可とし、地域・保護者の調査は無しとする。 ・教職員へのアンケート項目は、「授業改善」「生徒指導負担減」に係る指標に集約する。

図表 III-4 簡易版の指標案（当初案）

<p>■協議会委員アンケート（27⇒27 指標）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的に6領域、計27指標を維持。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒教職員への効果との関係性は、自律性・熟議度は重要度は低いが、指標構成全体に対する現場の納得度が高いため、現状を維持 <p>■教職員アンケート（31⇒19 指標）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の意識：2小分類のうち「協議会の意義の理解」の領域のみ残す（8⇒5 指標） <ul style="list-style-type: none"> ⇒「地域とともにある学校」という認識は、他の教職員への効果との相関が比較的低い（全体的に肯定的回答が高い傾向にあることも影響） ・教職員の活動：3小分類のうち「授業」と「生徒指導・生活指導」の領域のみ残す（8⇒6 指標） <ul style="list-style-type: none"> ⇒「地域住民・保護者との交流」は効果領域との相関が比較的低いため削除 ・教職員の効果：5小分類のうち「授業」と「生徒指導・生活指導」の領域のみ残す（15⇒8 指標） <ul style="list-style-type: none"> ⇒「学校・地域への愛着の高まり」「保護者・地域住民への信頼の高まり」「保護者対応の負担の減少」は削除 <p>■児童・生徒アンケート</p> <p>※任意調査として位置づけ</p>

図表 III-5 簡易版指標案（協議会の運営）

完全版の指標	簡易版の指標
A. 協議会の運営（27指標）	A. 協議会の運営（27指標）
自律性	自律性
協 2 学校運営の基本方針の承認にあたり、協議会委員による議論を行う	協 2 学校運営の基本方針の承認にあたり、協議会委員による議論を行う
協 3 学校運営に関して率直な意見を述べる機会がある	協 3 学校運営に関して率直な意見を述べる機会がある
協 4 教職員の任用について提案や意見を述べる機会がある	協 4 教職員の任用について提案や意見を述べる機会がある
協 5 教職員は、協議会からの意見を重視し、それをふまえた学校運営を行っている	協 5 教職員は、協議会からの意見を重視し、それをふまえた学校運営を行っている
協 6 協議会やその構成メンバーにも、よりよい学校づくりをすすめる自覚がある	協 6 協議会やその構成メンバーにも、よりよい学校づくりをすすめる自覚がある
対等性	対等性
協 7 地域住民側からの意見や提案が持ち込まれることがある	協 7 地域住民側からの意見や提案が持ち込まれることがある
協 8 子どもの意見を反映させる機会や仕組みがある	協 8 子どもの意見を反映させる機会や仕組みがある
協 9 議論は、特定の人の意見に左右されることはない	協 9 議論は、特定の人の意見に左右されることはない
協 10 協議会内は、忌憚なく意見を出し合える雰囲気がある	協 10 協議会内は、忌憚なく意見を出し合える雰囲気がある
持続性	持続性
協 11 学校運営協議会の役割や運営について、委員全員で確認し合っている	協 11 学校運営協議会の役割や運営について、委員全員で確認し合っている
協 12 学校、家庭、地域全体で育てたい子ども像が共有されている	協 12 学校、家庭、地域全体で育てたい子ども像が共有されている
協 13 校長等、教職員の異動に関わらず、継続して議論ができる体制がある	協 13 校長等、教職員の異動に関わらず、継続して議論ができる体制がある
協 14 学校運営協議会の運営方針・方法について、振り返り・見直しを行う機会がある	協 14 学校運営協議会の運営方針・方法について、振り返り・見直しを行う機会がある
熟議度	熟議度
協 15 協議会で議論すべき課題の選定、議論の企画段階から関わることがある	協 15 協議会で議論すべき課題の選定、議論の企画段階から関わることがある
協 16 学校側の提案事項を承認するだけでなく、より良い学校運営のために建設的に議論することがある	協 16 学校側の提案事項を承認するだけでなく、より良い学校運営のために建設的に議論することがある
協 17 当初の議案が、議論によって変更・改善されることがある	協 17 当初の議案が、議論によって変更・改善されることがある
協 18 協議会で決定して、実施した取組に対して、振り返りや内省を行う時間がある	協 18 協議会で決定して、実施した取組に対して、振り返りや内省を行う時間がある
協 19 学校評価などの各種の評価結果を活かした改善について、議論が行われている	協 19 学校評価などの各種の評価結果を活かした改善について、議論が行われている
実行性	実行性
協 20 学校長の主導で、協議会の内容が有意義になったと感じることがある	協 20 学校長の主導で、協議会の内容が有意義になったと感じることがある
協 21 協議された事項の実行にあたり、学校長は期待される役割を果たしている	協 21 協議された事項の実行にあたり、学校長は期待される役割を果たしている
協 22 議論の結果、各主体（学校・保護者・地域の大人等）が実行すべきこと・役割分担が明確になっている	協 22 議論の結果、各主体（学校・保護者・地域の大人等）が実行すべきこと・役割分担が明確になっている
協 23 協議会で議論した活動に自ら参加したり、活動の一部を担ったりすることがある	協 23 協議会で議論した活動に自ら参加したり、活動の一部を担ったりすることがある
協 24 協議された事項の実行にあたり、教職員は期待される役割を果たしている	協 24 協議された事項の実行にあたり、教職員は期待される役割を果たしている
共有性	共有性
協 25 地域住民や保護者は、誰が協議会委員になっているか知っている	協 25 地域住民や保護者は、誰が協議会委員になっているか知っている
協 26 学校教育目標や学校運営の基本方針が確認しやすい形で共有されており、内容は理解している	協 26 学校教育目標や学校運営の基本方針が確認しやすい形で共有されており、内容は理解している
協 27 学校の問題や悩みは、協議会委員の中で共有されている	協 27 学校の問題や悩みは、協議会委員の中で共有されている
協 28 協議会での協議内容について、十分な情報発信が行われている	協 28 協議会での協議内容について、十分な情報発信が行われている

図表 III-6 簡易版指標案（教職員の意識・活動）

完全版の指標		簡易版の指標	
教職員の意識（8指標）		教職員の意識（5指標）	
「地域とともにある学校」という認識 教 2 保護者や地域住民が学校運営に関わることは、必要なことだ 教 3 地域の人が関わると、学校運営が混乱してしまう（反転項目） 教 4 より良い学校づくりのためには、地域の人も学校の様子や取組を知ってもらう必要がある		協議会の意義の理解 教 5 協議会での協議・決定内容の情報については、定期的に確認している 教 6 協議会での協議・決定事項に関心がある 教 7 学校での活動について、協議会委員に相談したいと思うことがある 教 8 協議会で決定されたことやその活動は、学校にとって意味のあることだ 教 9 協議会での協議によって、何か役割が与えられたら果したい	
教職員の活動（8指標）		教職員の活動（6指標）	
授業における地域住民・保護者との連携 教 10 地域との協働からできる授業がある 教 11 授業で、保護者や地域住民に授業支援やゲストティーチャーをお願いする 教 12 授業づくりに、保護者や地域住民が参画・支援することがある 教 13 教室内の授業で、地域の題材や地域の課題を扱う 生徒指導・生活指導における地域住民・保護者との連携 教 14 子どもの生徒指導・生活指導において、必要があれば地域住民と協力してフォローする 教 15 地域住民から得られた情報で、早期に子どもの悩みに向き合えたことがある 地域住民・保護者との交流 教 16 保護者や地域住民とは、気軽に会話できる 教 17 学校での活動について、保護者や地域住民に相談する		協議会の意義の理解 教 5 協議会での協議・決定内容の情報については、定期的に確認している 教 6 協議会での協議・決定事項に関心がある 教 7 学校での活動について、協議会委員に相談したいと思うことがある 教 8 協議会で決定されたことやその活動は、学校にとって意味のあることだ 教 9 協議会での協議によって、何か役割が与えられたら果したい	
授業における地域住民・保護者との連携 教 10 地域との協働からできる授業がある 教 11 授業で、保護者や地域住民に授業支援やゲストティーチャーをお願いする 教 12 授業づくりに、保護者や地域住民が参画・支援することがある 教 13 教室内の授業で、地域の題材や地域の課題を扱う 生徒指導・生活指導における地域住民・保護者との連携 教 14 子どもの生徒指導・生活指導において、必要があれば地域住民と協力してフォローする 教 15 地域住民から得られた情報で、早期に子どもの悩みに向き合えたことがある		協議会の意義の理解 教 5 協議会での協議・決定内容の情報については、定期的に確認している 教 6 協議会での協議・決定事項に関心がある 教 7 学校での活動について、協議会委員に相談したいと思うことがある 教 8 協議会で決定されたことやその活動は、学校にとって意味のあることだ 教 9 協議会での協議によって、何か役割が与えられたら果したい	

図表 III-7 簡易版指標案（教職員への効果）

完全版の指標		簡易版の指標	
教職員への効果（15指標）		教職員への効果（8指標）	
学校・地域への愛着の高まり 教 18 教師という仕事にやりがいを感じる 教 19 学校のある地域に愛着を感じる 教 20 今の学校を離れても、転勤先でも地域と協働したい 保護者・地域住民への信頼の高まり 教 21 保護者や地域の人は、学校の課題や問題点を理解してくれている 教 22 保護者や地域の人は、学校にとって有意義な意見・提案をしてくれる 授業力の向上 教 23 授業に活用できる地域資源や地域課題を理解している 教 24 授業のねらいに応じて、効果的に地域資源等を活用した授業を行うことができる 教 25 授業は、学校外にもサポートしてくれる人がある 教 26 地域の人と協力することで、授業の内容の向上につながったことがある 教 27 地域の人とのふれあいや地域での活動によって、勉強が好きになった子どもがいる 生徒指導・生活指導の負担の減少 教 28 子どもの生徒指導・生活指導について、学校外にも手伝ってくれる人がある 教 29 地域の人から子どもの話を聞いてくれたり、アドバイスしてくれたりすることが、生活指導の負担軽減につながっている 教 30 地域の人と協力することで、子どもの問題行動の解決につながっている 保護者対応の負担の減少 教 31 保護者や地域住民の学校への批判・苦情は少ない 教 32 保護者や地域住民対応の負担は大きい		協議会の意義の理解 教 5 協議会での協議・決定内容の情報については、定期的に確認している 教 6 協議会での協議・決定事項に関心がある 教 7 学校での活動について、協議会委員に相談したいと思うことがある 教 8 協議会で決定されたことやその活動は、学校にとって意味のあることだ 教 9 協議会での協議によって、何か役割が与えられたら果したい	
学校・地域への愛着の高まり 教 18 教師という仕事にやりがいを感じる 教 19 学校のある地域に愛着を感じる 教 20 今の学校を離れても、転勤先でも地域と協働したい 保護者・地域住民への信頼の高まり 教 21 保護者や地域の人は、学校の課題や問題点を理解してくれている 教 22 保護者や地域の人は、学校にとって有意義な意見・提案をしてくれる 授業力の向上 教 23 授業に活用できる地域資源や地域課題を理解している 教 24 授業のねらいに応じて、効果的に地域資源等を活用した授業を行うことができる 教 25 授業は、学校外にもサポートしてくれる人がある 教 26 地域の人と協力することで、授業の内容の向上につながったことがある 教 27 地域の人とのふれあいや地域での活動によって、勉強が好きになった子どもがいる 生徒指導・生活指導の負担の減少 教 28 子どもの生徒指導・生活指導について、学校外にも手伝ってくれる人がある 教 29 地域の人から子どもの話を聞いてくれたり、アドバイスしてくれたりすることが、生活指導の負担軽減につながっている 教 30 地域の人と協力することで、子どもの問題行動の解決につながっている		協議会の意義の理解 教 5 協議会での協議・決定内容の情報については、定期的に確認している 教 6 協議会での協議・決定事項に関心がある 教 7 学校での活動について、協議会委員に相談したいと思うことがある 教 8 協議会で決定されたことやその活動は、学校にとって意味のあることだ 教 9 協議会での協議によって、何か役割が与えられたら果したい	

1-3. 有識者委員会からの指摘

「1-2. 簡易版の指標選択に関する考え方」で示した基本方針及び指標案に対して、本実証研究の中で設置した有識者委員会からは次のような指摘があった。

図表 III-8 簡易版指標選定に関する有識者からの指摘内容

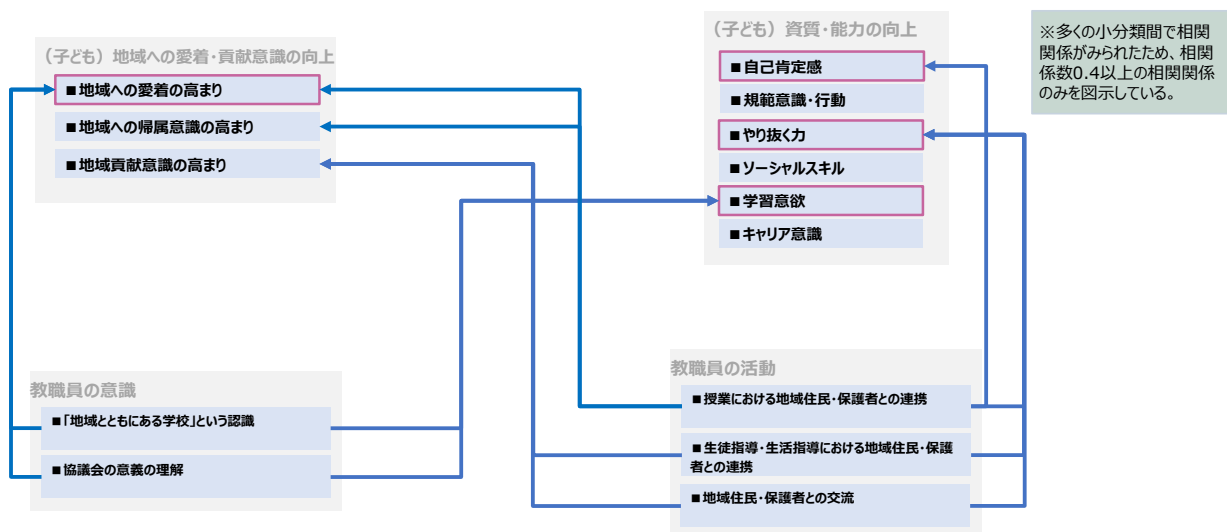
調査対象	委員からの指摘（第2・3回有識者委員会及び委員会後）	指摘を踏まえた考え方
協議会委員	<ul style="list-style-type: none"> ・全て残す方向性に異議なし 	<ul style="list-style-type: none"> ・全小分類・指標を残す
教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校の雰囲気が悪くなった」等、学校全体の改善に係る視点を盛り込んでよいのではないかと ・上記指摘に同意で、意識「地域とともにある学校」という認識あるいは活動「保護者・地域住民との交流」を残してもよいのでは。前者は回答のバラつきが小さそうな点と反転項目がある点が気になるので、後者を残した方が分かりやすく率直な回答が得られるかもしれない ・効果「保護者・地域住民への信頼の高まり」はCSの成果指標として適切で重要と思われる ・教職員の効果について「授業力の向上」と「生徒指導・生活指導の負担軽減」のみが強調されると、CSの目的を狭く解釈される可能性があると懸念する ・CSが教職員のためだけのものと見られないために、地域や保護者との繋がりが見える化された方がよい ・効果「保護者対応の負担の減少」について、CSとなることで大きく事態は変わらないにしても、学校の理解者が増え、どのように変化するかは着目したい ・効果「保護者対応の負担の減少」は関係者が関心を持つ指標だろう 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体の改善に係る指標として、活動「保護者・地域住民との交流」及び効果「保護者・地域住民への信頼の高まり」を残す ・現場感覚、EDPMにおける活用状況という点からは、「保護者対応の負担の減少」を残す
児童・生徒	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会が最終的に目指すのは子どもへの効果であるから、子どもへの効果も入っていた方がよいのではないかと ・学校評価や他の子どもに対する調査との重複感が気になる。すべて復活させるのではなく、必要な小分類の精選を考える必要あり（自己肯定感や学習意欲、地域への愛着はCSに関連が深い） ・協議会委員や教職員に「CSとは何か」を理解してもらうことを優先する考え方もある。児童生徒調査は、国の全国学調や各校で取っているデータも参照しうるため、まずは「簡易版」としては協議会委員と教職員に限定し、数年のち完全版ポートフォリオを使用してもらう方法もある ・「地域貢献意識の高まり」（特に「自分も地域の人の役に立ちたい」）は残してはどうか。探究的な課題解決学習をCSの地域協働活動と一体的に実施している学校が多いと思われる中で、子どもの地域貢献意識は高くなっていくのではないかと。 ・「キャリア意識」指標は諸外国との比較調査でもよく着目される指標であり、残してもよいのではないかと ・必ずしも夢や目標を持っていなければならないわけではないため、「キャリア意識」指標は優先度を下げてもよいのではないかと ・「子どもの享受する機会の変化」の「地域における大人との関わり」「地域における異年齢の関わり」はCSポートフォリオらしい指標であり、残してもよいだろう（EDPMに活用されることが多いためこれらを残してはどうか、という事務局提案に対するコメント） 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもへの効果は任意項目として位置付ける ・教職員の意識・活動との関係性という点からは、「自己肯定感」「やり抜く力」「学習意欲」「地域への愛着の高まり」を残す ・現場感覚、EDPMにおける活用状況という点からは、「地域における大人との関わり」「地域における異年齢の関わり」「地域貢献意識の高まり」を残す
保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・削除の方向性に異議なし 	<ul style="list-style-type: none"> ・すべて削除
地域の大人	<ul style="list-style-type: none"> ・削除の方向性に異議なし 	<ul style="list-style-type: none"> ・すべて削除

「子どもへの効果」指標を残すにあたっては、過年度の分析において、教職員の意識・活動との相関関係が一定程度見られる小分類を残すという基本方針とした。教職員の意識・活

動の改善によって高まり得る項目を位置付けることが、CSの現状把握・成果検証ツールとして意味を成すと考えるためである。（ただし、これ以外にも現場感覚及びEDPMへの活用状況という観点から残す指標もある。）

図表 III-9 は、令和元年度に教職員の意識・活動と子どもへの効果との関係性について分析した結果である。「資質・能力の向上」のうち教職員の意識・活動のいずれかの小分類と0.4以上の相関関係を示す「自己肯定感」「やり抜く力」「学習意欲」と、「地域への愛着・貢献意識の向上」のうち教職員の意識・活動の両方と0.4以上の相関関係を示す「地域への愛着の高まり」を、CSポートフォリオ簡易版に残すこととした。

図表 III-9 「子どもへの効果」の指標精選について



2 CS ポートフォリオ簡易版

2-1. CS ポートフォリオ簡易版の指標構成

「1-2. 簡易版の指標選択に関する考え方」及び「1-3. 有識者委員会からの指摘」を踏まえ、CS ポートフォリオ簡易版の指標を次の通りに整理した。

「協議会の運営」は、簡易版においても6小分類27指標を維持することとした。

図表 III-10 簡易版指標（協議会の運営）

CSポートフォリオ指標一覧（協議会調査）		完全版	簡易版
A. 協議会の運営			
自律性			
協 2	学校運営の基本方針の承認にあたり、協議会委員による議論を行う	●	●
協 3	学校運営に関して率直な意見を述べる機会がある	●	●
協 4	教職員の任用について提案や意見を述べる機会がある	●	●
協 5	教職員は、協議会からの意見を重視し、それをふまえた学校運営を行っている	●	●
協 6	協議会やその構成メンバーにも、よりよい学校づくりをすすめる自覚がある	●	●
対等性			
協 7	地域住民側からの意見や提案が持ち込まれることがある	●	●
協 8	子どもの意見を反映させる機会や仕組みがある	●	●
協 9	議論は、特定の人の意見に左右されることはない	●	●
協 10	協議会内は、忌憚なく意見を出し合える雰囲気がある	●	●
持続性			
協 11	学校運営協議会の役割や運営について、委員全員で確認し合えている	●	●
協 12	学校、家庭、地域全体で育てたい子ども像が共有されている	●	●
協 13	校長等、教職員の異動に関わらず、継続して議論ができる体制がある	●	●
協 14	学校運営協議会の運営方針・方法について、振り返り・見直しを行う機会がある	●	●
熟議度			
協 15	協議会で議論すべき課題の選定、議論の企画段階から関わることもある	●	●
協 16	学校側の提案事項を承認するだけでなく、より良い学校運営のために建設的に議論することがある	●	●
協 17	当初の議案が、議論によって変更・改善されることがある	●	●
協 18	協議会で決定して、実施した取組に対して、振り返りや内省を行う時間がある	●	●
協 19	学校評価などの各種の評価結果を活かした改善について、議論が行われている	●	●
実行性			
協 20	学校長の主導で、協議会の内容が有意義になったと感じることがある	●	●
協 21	協議された事項の実行にあたり、学校長は期待される役割を果たしている	●	●
協 22	議論の結果、各主体（学校・保護者・地域の大人等）が実行すべきこと・役割分担が明確になっている	●	●
協 23	協議会で議論した活動に自ら参加したり、活動の一部を担ったりすることがある	●	●
協 24	協議された事項の実行にあたり、教職員は期待される役割を果たしている	●	●
共有性			
協 25	地域住民や保護者は、誰が協議会委員になっているか知っている	●	●
協 26	学校教育目標や学校運営の基本方針が確認しやすい形で共有されており、内容は理解している	●	●
協 27	学校の問題や悩みは、協議会委員の中で共有されている	●	●
協 28	協議会での協議内容について、十分な情報発信が行われている	●	●

「教職員の意識」は、「協議会の意義の理解」のみを残し、8指標→5指標に削減した。
 「教職員の活動」は、3小分類8指標のままとした。

図表 III-11 簡易版指標（教職員の意識・活動）

CSポートフォリオ指標一覧（教職員調査）		完全版	簡易版
教職員の意識			
「地域とともにある学校」という認識			
教 2	保護者や地域住民が学校運営に関わることは、必要なことだ	●	
教 3	地域の人に関わると、学校運営が混乱してしまう（反転項目）	●	
教 4	より良い学校づくりのためには、地域の人にも学校の様子や取組を知ってもらう必要がある	●	
協議会の意義の理解			
教 5	協議会での協議・決定内容の情報については、定期的に確認している	●	●
教 6	協議会での協議・決定事項に関心がある	●	●
教 7	学校での活動について、協議会委員に相談したいと思うことがある	●	●
教 8	協議会で決定されたことやその活動は、学校にとって意味のあることだ	●	●
教 9	協議会での協議によって、何か役割が与えられたら果したい	●	●
教職員の活動			
授業における地域住民・保護者との連携			
教 10	地域との協働だからできる授業がある	●	●
教 11	授業で、保護者や地域住民に授業支援やゲストティーチャーをお願いする	●	●
教 12	授業づくりに、保護者や地域住民が参画・支援することがある	●	●
教 13	教室内の授業で、地域の題材や地域の課題を扱う	●	●
生徒指導・生活指導における地域住民・保護者との連携			
教 14	子どもの生徒指導・生活指導において、必要があれば地域住民と協力してフォローする	●	●
教 15	地域住民から得られた情報で、早期に子どもの悩みに向き合えたことがある	●	●
地域住民・保護者との交流			
教 16	保護者や地域住民とは、気軽に会話できる	●	●
教 17	学校での活動について、保護者や地域住民に相談する	●	●

「教職員への効果」は、「保護者・地域住民への信頼の高まり」「授業力の向上」「生徒指導・生活指導の負担の減少」「保護者対応の負担の減少」を残し、15 指標→12 指標に削減することとした。

図表 III-12 簡易版指標（教職員への効果）

CSポートフォリオ指標一覧（教職員調査）		完全版	簡易版
教職員への効果			
学校・地域への愛着の高まり			
教 18	教師という仕事にやりがいを感じる	●	
教 19	学校のある地域に愛着を感じる	●	
教 20	今の学校を離れても、転勤先でも地域と協働したい	●	
保護者・地域住民への信頼の高まり			
教 21	保護者や地域の人は、学校の課題や問題点を理解してくれている	●	●
教 22	保護者や地域の人は、学校にとって有意義な意見・提案してくれる	●	●
授業力の向上			
教 23	授業に活用できる地域資源や地域課題を理解している	●	●
教 24	授業のねらいに応じて、効果的に地域資源等を活用した授業を行うことができる	●	●
教 25	授業は、学校外にもサポートしてくれる人がいる	●	●
教 26	地域の人と協力することで、授業の内容の向上につながったことがある	●	●
教 27	地域の人とのふれあいや地域での活動によって、勉強が好きになった子どもがいる	●	●
生徒指導・生活指導の負担の減少			
教 28	子どもの生徒指導・生活指導について、学校外にも手伝ってくれる人がいる	●	●
教 29	地域の人が子どもの話を聞いてくれたり、アドバイスをしてくれたりすることが、生活指導の負担軽減につながっている	●	●
教 30	地域の人と協力することで、子どもの問題行動の解決につながっている	●	●
保護者対応の負担の減少			
教 31	保護者や地域住民の学校への批判・苦情は少ない	●	●
教 32	保護者や地域住民対応の負担は大きくない	●	●

「子どもが享受する機会の変化」は、「地域における大人との関わり」「地域における異年齢の関わり」を残し、13指標→7指標に削減することとした。

「学校・教職員・地域との関係性」は、すべてに指標を割愛することとした。

図表 III-13 簡易版指標（子どもの機会・関係性）

CSポートフォリオ指標一覧（児童生徒調査）		完全版	簡易版
子どもが享受する機会の変化			
学校での地域との関わり			
子 3	授業の中で、住んでいる地域のことについて学ぶ	●	
子 4	授業や学校行事の中で、地域の人と一緒に活動する	●	
地域における大人との関わり			
子 5	学校の中で、先生以外の大人を見かける	●	●
子 6	地域の人に褒めてもらう	●	●
子 7	地域のお祭りなど地域の行事やイベントに参加する	●	●
子 8	地域の人と一緒に、地域の行事の企画や準備に取り組む	●	●
子 9	学校や家の近所で、地域の人のお手伝いをする	●	●
地域における異年齢の関わり			
子 10	地域のほかの学校の子ともと交流する	●	●
子 11	地域の、違う学年の人と交流する	●	●
保護者との関わり			
子 12	自分の親が、授業参観や学校行事で学校に来る	●	
子 13	自分の親が、家で勉強を教えてくれる	●	
子 14	自分の親と一緒に、地域の文化や風習に触れたり、学んだりする	●	
子 15	自分の親が、学校での話を聞いてくれる	●	
学校・教職員・地域との関係性			
教職員への関心・信頼の向上			
子 16	自分のよいところを認めてくれる先生がいる	●	
子 17	何でも話したり、相談したりしたい先生がいる	●	
学校への愛着・誇りの高まり			
子 18	学校生活は楽しい	●	
子 19	自分の学校はすばらしい学校だ	●	
地域の大人への関心・信頼の向上			
子 20	地域の大人は、自分を見守ってくれている	●	
子 21	地域の人と、もっと関わりたい	●	

子どもの「資質・能力の向上」は、「自己肯定感」「やり抜く力」「学習意欲」を残し、21指標→9指標に削減することとした。

図表 III-14 簡易版指標（子どもの資質・能力）

CSポートフォリオ指標一覧（児童生徒調査）		完全版	簡易版
資質・能力の向上			
自己肯定感			
子 22	今の自分を気に入っている	●	●
子 23	自分はやればできる人間だと思う	●	●
子 24	学校の勉強は、よく分かる	●	●
規範意識・行動			
子 25	みんなで決めたことは守るべきだと思う	●	
子 26	先生に注意されたことはきちんと守る	●	
子 27	友達から誘われても、やってはいけないことはやらない	●	
子 28	友だちがいじめをしていたら注意する	●	
子 29	人を傷つけることをわざと言う（反転項目）	●	
子 30	人が困っているときは進んで助けている	●	
やり抜く力			
子 31	学校や地域でふれあう大人の活動や様子をみて、自分も頑張ろうと思うことがある	●	●
子 32	難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している	●	●
子 33	やると決めたことは、粘り強く、最後まであきらめずにやり通す	●	●
子 34	困ったことがあっても、どうにかできると思う	●	●
ソーシャルスキル			
子 35	近所や知り合いの人にあいさつする	●	
子 36	先生や友達と話している時に、最後まで聞くことができる	●	
子 37	他の人と異なる意見でも、自分の意見を言える	●	
子 38	誰とでも協力をしてグループ活動をする	●	
学習意欲			
子 39	学校で習ったことや地域の人に教えてもらったことについて、もっと詳しく知りたいし、調べたい	●	●
子 40	新しいことをつぎつぎ学びたい	●	●
キャリア意識			
子 41	将来の夢や目標を持っている	●	
子 42	親や先生の意見を聞くだけでなく、自分で自分が何をしたいのか考えることができる	●	

子どもの「地域への愛着・貢献意識の向上」は、「地域への愛着の高まり」「地域貢献意識の高まり」を残し、8指標→6指標に削減することとした。

図表 III-15 簡易版指標（子どもの地域への愛着・貢献意識）

CSポートフォリオ指標一覧（児童生徒調査）		完全版	簡易版
地域への愛着・貢献意識の向上			
地域への愛着の高まり			
子 43	地域の歴史や行事、地域で起きた問題に興味がある	●	●
子 44	地域の中での活動や、地域の人と交流することは楽しい	●	●
子 45	いま住んでいる地域が好きである	●	●
子 46	将来も今住んでいる地域に住み続けたい	●	●
地域への帰属意識の高まり			
子 47	自分は今住んでいる地域の一員だと感じる	●	
子 48	この地域で起こっている問題は、自分にも関係がある	●	
地域貢献意識の高まり			
子 49	自分も地域の人役に立ちたい	●	●
子 50	地域のために自分には何ができるか考えることがある	●	●

以上をまとめると、CSポートフォリオ簡易版として選出した指標は以下の通りである。CSポートフォリオ完全版の177指標に対し、半数以下の74指標となった。

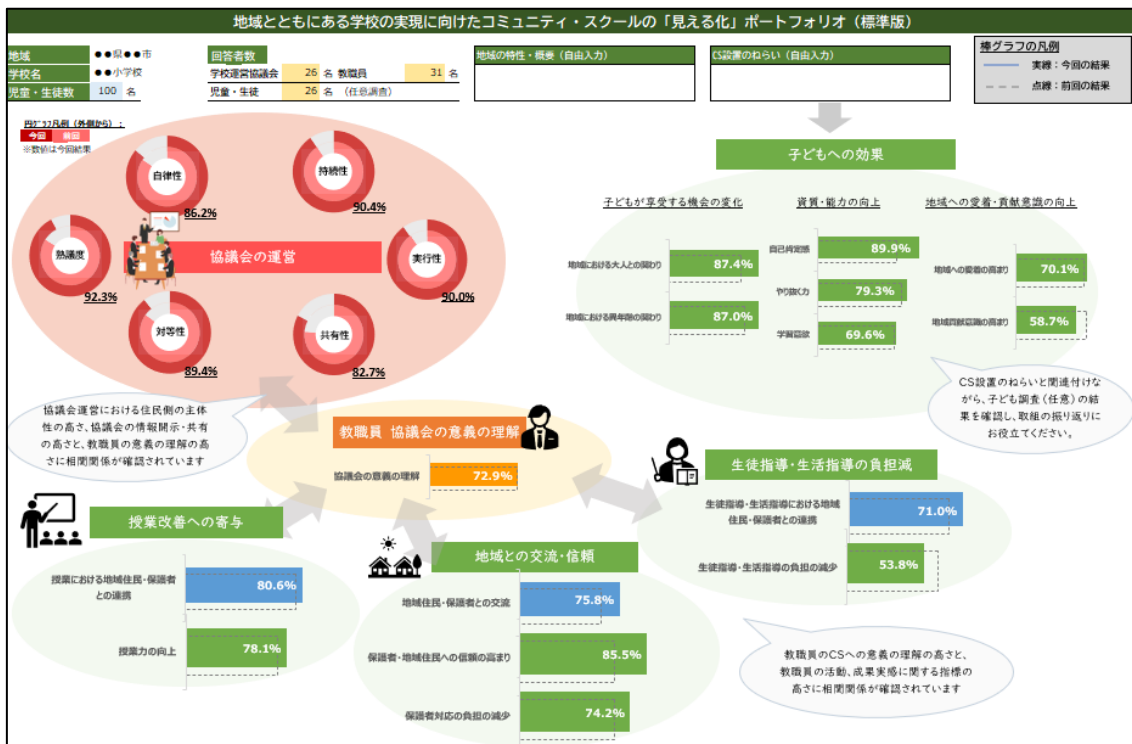
図表 III-16 CSポートフォリオ簡易版指標数

調査対象	小分類	指標数
協議会委員	自律性	5
	対等性	4
	持続性	4
	熟議度	5
	実行性	5
	共有性	4
教職員	協議会の意義の理解（意識）	5
	授業における地域住民・保護者との連携（活動）	4
	生徒指導・生活指導における地域住民・保護者との連携（活動）	2
	地域住民・保護者との交流（活動）	2
	保護者・地域住民への信頼の高まり（効果）	2
	授業力の向上（効果）	5
	生徒指導・生活指導の負担の減少（効果）	3
	保護者対応の負担の減少（効果）	2
児童・生徒	地域における大人との関わり（機会）	5
	地域における異年齢の関わり（機会）	2
	自己肯定感（効果）	3
	やり抜く力（効果）	4
	学習意欲（効果）	2
	地域への愛着の高まり（効果）	4
	地域貢献意識の高まり（効果）	2
計		74

2-2. 結果集計・還元用ファイル

CSポートフォリオ簡易版（＝結果集計・還元用ファイル）を以下のように作成した。なお後述するが、負荷を軽減したタイプとして作成した「CSポートフォリオ簡易版」については、最終的には「CSポートフォリオ（標準版）」という名称に変更した。

図表 III-17 CSポートフォリオ簡易版（総括表）



図表 III-18 GSポートフォリオ簡易版（詳細表）

協議会の運営【A領域】		自校の結果		自校の結果の推移		推移のグラフ	メモ・備考欄 (結果を見ての感想・考察等)	
		今年 割合(%)	前年比 差(pt)	前々年 割合(%)	前年 割合(%)			今年 割合(%)
自律性		割合(%)	差(pt)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	自律性 割合(%)の推移 	
協 2	学校運営の基本方針の承認にあり、協議会委員による議論を行う	100.0%	5.5pt	94.5%	94.5%	100.0%		
協 3	学校運営に関して率直な意見を述べる機会がある	100.0%	4.7pt	95.3%	95.3%	100.0%		
協 4	教職員の任用について提案や意見を述べられる機会がある	46.2%	1.3pt	44.9%	44.9%	46.2%		
協 5	教職員は、協議会からの意見を重視し、それをふまえた学校運営を行っている	84.6%	-6.1pt	90.7%	90.7%	84.6%		
協 6	協議会やその構成メンバーにも、よりよい学校づくりをすすめる自覚がある	100.0%	1.5pt	98.5%	98.5%	100.0%		
対等性		89.4%	4.4pt	85.0%	85.0%	89.4%		対等性 割合(%)の推移
協 7	地域住民側からの意見や提案が持ち込まれることがある	80.8%	-1.4pt	82.2%	82.2%	80.8%		
協 8	子どもの意見を反映させる機会や仕組みがある	92.3%	18.0pt	74.3%	74.3%	92.3%		
協 9	議論は、特定の人の意見に左右されることはない	92.3%	4.0pt	88.3%	88.3%	92.3%		
協 10	協議会内は、忌憚なく意見を出し合える雰囲気がある	90.4%	-0.1pt	90.5%	90.5%	90.4%		持続性 割合(%)の推移
協 11	学校運営協議会の役割や運営について、委員全員で確認し合っている	76.9%	-13.5pt	90.4%	90.4%	76.9%		
協 12	学校、家庭、地域全体で育てたい子ども像が共有されている	92.3%	1.3pt	91.0%	91.0%	92.3%		
協 13	校長等、教職員の異動に関わらず、継続して議論ができる体制がある	100.0%	7.3pt	92.7%	92.7%	100.0%		
協 14	学校運営協議会の運営方針・方法について、振り返り・見直しを行う機会がある	92.3%	4.3pt	88.0%	88.0%	92.3%		熟練度 割合(%)の推移
協 15	協議会で議論すべき課題の選定、議論の企画段階から関与することができる	84.6%	11.4pt	73.2%	73.2%	84.6%		
協 16	学校の提案事項を承認するだけでなく、より良い学校運営のために建設的に議論することができる	92.3%	-1.6pt	93.9%	93.9%	92.3%		
協 17	当初の提案が、議論によって変更・改善されることもある	100.0%	20.7pt	79.3%	79.3%	100.0%		
協 18	協議会で決定して、実際に取組に対して、振り返りや内省を行う時間がある	92.3%	6.9pt	85.4%	85.4%	92.3%		実行性 割合(%)の推移
協 19	学校評価などの各種の評価結果を活かした改善について、議論が行われている	92.3%	3.1pt	89.2%	89.2%	92.3%		
協 20	学校長の主導で、協議会の内容が有意義になったと感じることがある	73.1%	-12.5pt	86.0%	86.0%	73.1%		
協 21	協議会での議論の進捗が、協議会委員に期待される役割を果たしている	92.3%	-3.6pt	95.9%	95.9%	92.3%		
協 22	協議会の結果、各主体（学校・保護者・地域の大人等）が実行すべきこと・役割分担が明確になっている	84.6%	-1.1pt	85.7%	85.7%	84.6%	共有性 割合(%)の推移 	
協 23	協議会で議論した活動に自ら参加したり、活動の一部を担ったりすることがある	100.0%	7.9pt	92.1%	92.1%	100.0%		
協 24	協議会での議論の進捗が、協議会委員に期待される役割を果たしている	100.0%	7.3pt	92.7%	92.7%	100.0%		
協 25	地域住民や保護者は、誰が協議会委員になっているか知っている	76.9%	25.9pt	51.0%	51.0%	76.9%		
協 26	学校教員自身や学校運営の基本方針が議論しやすい形で共有されており、内容は理解している	100.0%	9.9pt	92.1%	92.1%	100.0%	協議会の原義の理解 割合(%)の推移 	
協 27	学校の関係や協力は、協議会委員の中で共有されている	69.2%	-12.7pt	81.9%	81.9%	69.2%		
協 28	協議会での協議内容について、十分な情報発信が行われている	84.6%	3.6pt	81.0%	81.0%	84.6%		
協 29	協議会での協議内容について、十分な情報発信が行われている	84.6%	3.6pt	81.0%	81.0%	84.6%		

教職員の意識【B領域】		自校の結果		自校の結果の推移		推移のグラフ	メモ・備考欄 (結果を見ての感想・考察等)
		今年 割合(%)	前年比 差(pt)	前々年 割合(%)	前年 割合(%)		
協議会の原義の理解		割合(%)	差(pt)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	協議会の原義の理解 割合(%)の推移
教 1	協議会での協議・決定内容の情報は、定期的に確認している	80.6%	7.8pt	72.8%	72.8%	80.6%	
教 2	協議会での協議・決定事項に関心がある	71.0%	-7.2pt	78.1%	78.1%	71.0%	
教 3	協議会での活動について、協議会委員に相談したいと思うことがある	61.3%	20.2pt	41.1%	41.1%	61.3%	
教 4	協議会での活動は、学校にとって意味のあることだ	61.3%	20.2pt	41.1%	41.1%	61.3%	
教 5	協議会での協議によって、何か役割が与えられたら嬉しい	90.3%	12.6pt	77.7%	77.7%	90.3%	
教 6	協議会での協議によって、何か役割が与えられたら嬉しい	90.3%	12.6pt	77.7%	77.7%	90.3%	

IV. CS の運営に関するチェックシートの作成

1 実施方針

CS ポートフォリオ簡易版の作成に関連し、「アンケートの実施・集計の手間をかけず、学校運営協議会その場で簡単にチェックできるような入門編ツールも必要」との考えから、CS ポートフォリオ簡易版よりさらに負荷を軽減させたごく簡易なツールとして、学校運営協議会の場ですぐに活用できるチェックシートも準備した。

有識者委員からの指摘も踏まえ、CS の運営に関するチェックシートの指標として図表 III-4（緑列）の指標を選出した。

図表 IV-1 CSの運営に関するチェックシートの作成の基本方針

<ul style="list-style-type: none"> ・CS ポートフォリオを構成する5つの主体のうち、協議会委員のみを対象とする。 ・27の指標から、さらに15程度の指標に絞り、1枚紙で簡単にチェックできるものにする。 <p>⇒学校運営に特に寄与することが分かっている指標、あるいは関係者から重要性が指摘されている指標を精選する。</p>
--

図表 IV-2 CSの運営に関するチェックシートの指標案

CSポートフォリオ指標一覧（協議会調査）		完全版	簡易版	チェックシート
A. 協議会の運営				
自律性				
協 2	学校運営の基本方針の承認に当たり、協議会委員による議論を行う	●	●	●
協 3	学校運営に関して率直な意見を述べる機会がある	●	●	●
協 4	教職員の任用について提案や意見を述べる機会がある	●	●	●
協 5	教職員は、協議会からの意見を重視し、それをふまえた学校運営を行っている	●	●	●
協 6	協議会やその構成メンバーにも、よりよい学校づくりをすすめる自覚がある	●	●	
対等性				
協 7	地域住民側からの意見や提案が持ち込まれることがある	●	●	●
協 8	子どもの意見を反映させる機会や仕組みがある	●	●	●
協 9	議論は、特定の人の意見に左右されることはない	●	●	
協 10	協議会内は、忌憚なく意見を出し合える雰囲気がある	●	●	●
持続性				
協 11	学校運営協議会の役割や運営について、委員全員で確認し合っている	●	●	
協 12	学校、家庭、地域全体で育てたい子ども像が共有されている	●	●	●
協 13	校長等、教職員の異動に関わらず、継続して議論ができる体制がある	●	●	●
協 14	学校運営協議会の運営方針・方法について、振り返り・見直しを行う機会がある	●	●	
熟議度				
協 15	協議会で議論すべき課題の選定、議論の企画段階から関わることがある	●	●	●
協 16	学校側の提案事項を承認するだけでなく、より良い学校運営のために建設的に議論することがある	●	●	●
協 17	当初の議案が、議論によって変更・改善されることがある	●	●	
協 18	協議会で決定して、実施した取組に対して、振り返りや内省を行う時間がある	●	●	●
協 19	学校評価などの各種の評価結果を活かした改善について、議論が行われている	●	●	
実行性				
協 20	学校長の主導で、協議会の内容が有意義になったと感じることがある	●	●	
協 21	協議された事項の実行に当たり、学校長は期待される役割を果たしている	●	●	●
協 22	議論の結果、各主体（学校・保護者・地域の大人等）が実行すべきこと・役割分担が明確になっている	●	●	●
協 23	協議会で議論した活動に自ら参加したり、活動の一部を担ったりすることがある	●	●	
協 24	協議された事項の実行に当たり、教職員は期待される役割を果たしている	●	●	
共有性				
協 25	地域住民や保護者は、誰が協議会委員になっているか知っている	●	●	
協 26	学校教育目標や学校運営の基本方針が確認しやすい形で共有されており、内容は理解している	●	●	
協 27	学校の問題や悩みは、協議会委員の中で共有されている	●	●	●
協 28	協議会での協議内容について、十分な情報発信が行われている	●	●	●

V. 手引きの作成・更新

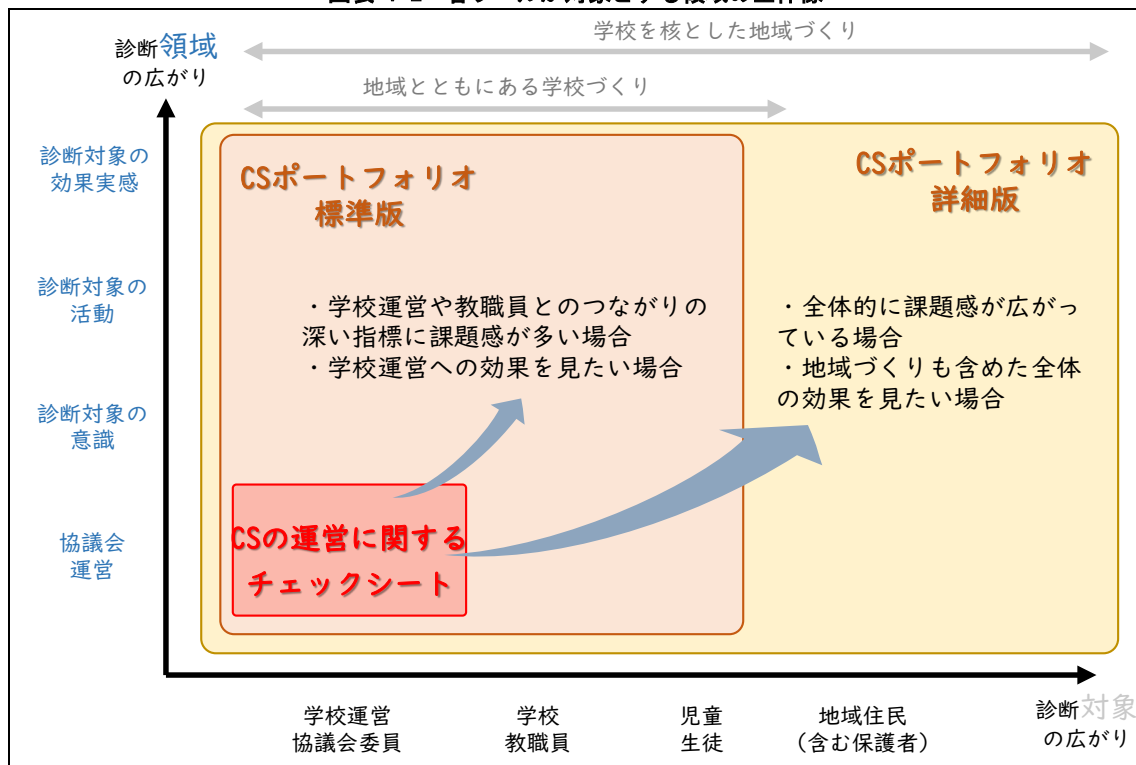
1 実施概要

「III. CS ポートフォリオ簡易版の作成」及び「IV. CS の運営に関するチェックシートの作成」の通り、CS ポートフォリオとして完全版・簡易版の2種類ができたことに加え、付随するツールとしてチェックシートができたことを踏まえ、全体像及び用途を以下のように整理した。なお、この再整理に際しそれぞれの名称を以下のように変更した。

図表 V-1 各ツールの名称

名称	変更前名称	意図
CS ポートフォリオ (標準版)	CS ポートフォリオ簡易版	<ul style="list-style-type: none"> CS の学校運営のガバナンス面、社会に開かれた教育課程への対応という点を意識した効果や実態が相応の調査負荷で取れる 今後 CS ポートフォリオを普及・展開していくにあたっては、こちらのタイプを「標準版」として位置づけた方が良いという判断
CS ポートフォリオ (詳細版)	CS ポートフォリオ (完全版)	<ul style="list-style-type: none"> CS に関する効果や実態が幅広く取れるものの、調査対象の不安定性や調査実施の負荷が大きい より詳しく診断をしたい学校・地域向けの「詳細版」として位置づけた方が良いという判断
CS の運営に関するチェックシート	—	<ul style="list-style-type: none"> CS ポートフォリオというツールとは別物の、簡易な「チェックシート」として位置づけ

図表 V-2 各ツールが対象とする領域の全体像



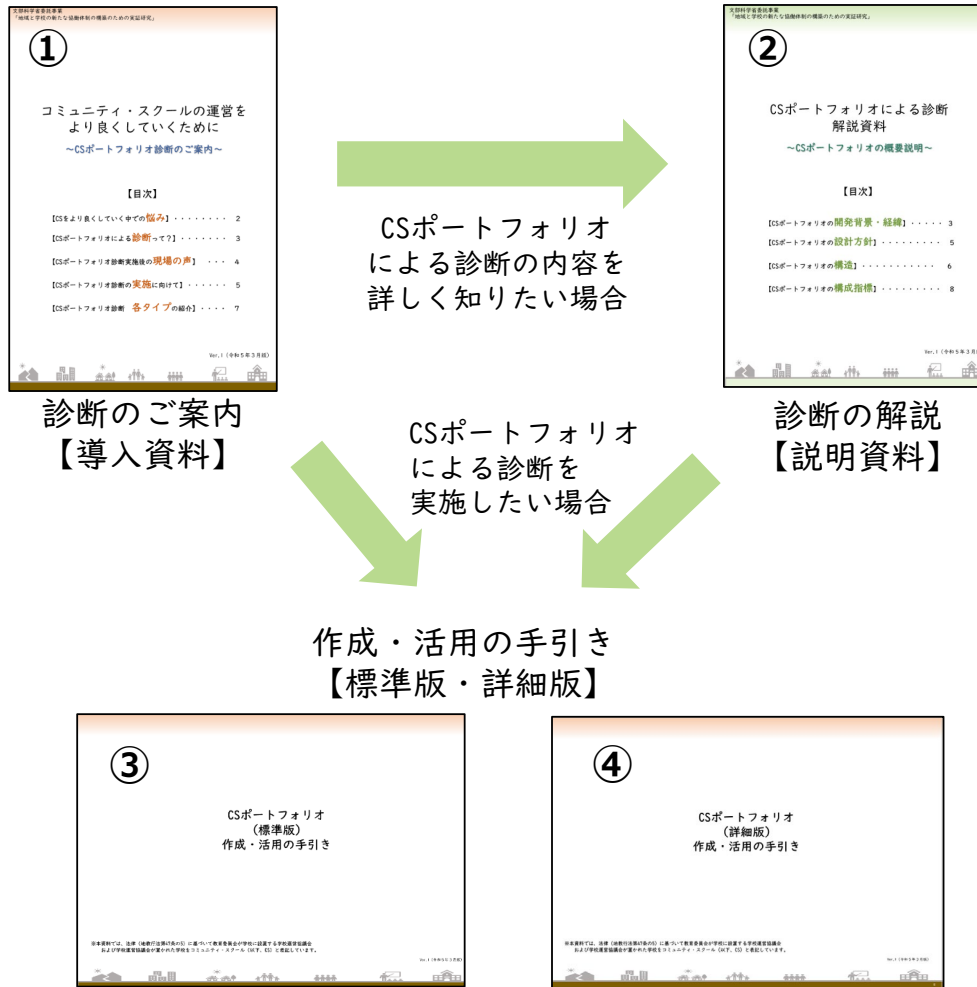
●CS の運営に関するチェックシート	：協議会の運営状況のみを対象とするエントリータイプ
●CS ポートフォリオ（標準版）	：主に学校運営の状態、学校運営への効果を診るタイプ
●CS ポートフォリオ（詳細版）	：学校運営から地域の状態・効果まで幅広く診るタイプ

加えて、これらの導入のための説明資料とする手引きを新たに作成するとともに、従来作成していた手引き類を再度整理した。なお、いずれのファイルも文部科学省「学校と地域でつくる学びの未来」ウェブサイトの「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）」のページよりダウンロード可能となる。（<https://manabi-mirai.mext.go.jp/torikumi/chiiki-gakko/cs.html>）

図表 V-3 手引きの種類

名称	概要	備考
①コミュニティ・スクールの運営をより良くしていくために～CS ポートフォリオ診断のご案内～	<ul style="list-style-type: none"> ・「CS の運営に関するチェックシート」「CS ポートフォリオ（標準版）」「CS ポートフォリオ（詳細版）」全体の導入資料 ・「CS ポートフォリオ診断とは何か？どんな気づきが得られるのか」「問題意識や実施負荷に合うポートフォリオをどう選んだらよいのか？」といった CS ポートフォリオ診断実施前の検討に係る案内資料 	本年度新規作成
②CS ポートフォリオによる診断解説資料	<ul style="list-style-type: none"> ・CS ポートフォリオによる診断の内容を詳しく知りたい場合に、その開発経緯や設計方針、CS ポートフォリオの構造や指標について概要説明を行う資料 	過年度作成資料を活用し本年度新規作成
③CS ポートフォリオ作成・活用の手引き_標準版	<ul style="list-style-type: none"> ・「CS ポートフォリオ（標準版）」を使用しようとする学校や教育委員会に対し、CS ポートフォリオ（標準版）作成までの調査手順やデータの取扱い方について説明をする資料 ・CS ポートフォリオ（標準版）の読み取り方や、これを活用したワーク例（研修等で実施することを想定）を紹介している 	過年度作成資料を活用し本年度新規作成
④CS ポートフォリオ作成・活用の手引き_詳細版	<ul style="list-style-type: none"> ・「CS ポートフォリオ（詳細版）」を使用しようとする学校や教育委員会に対し、CS ポートフォリオ（詳細版）作成までの調査手順やデータの取扱い方について説明をする資料 ・CS ポートフォリオ（詳細版）の読み取り方や、これを活用したワーク例（研修等で実施することを想定）を紹介している 	過年度作成資料を再整理・調整

図表 V-4 手引きの関係性

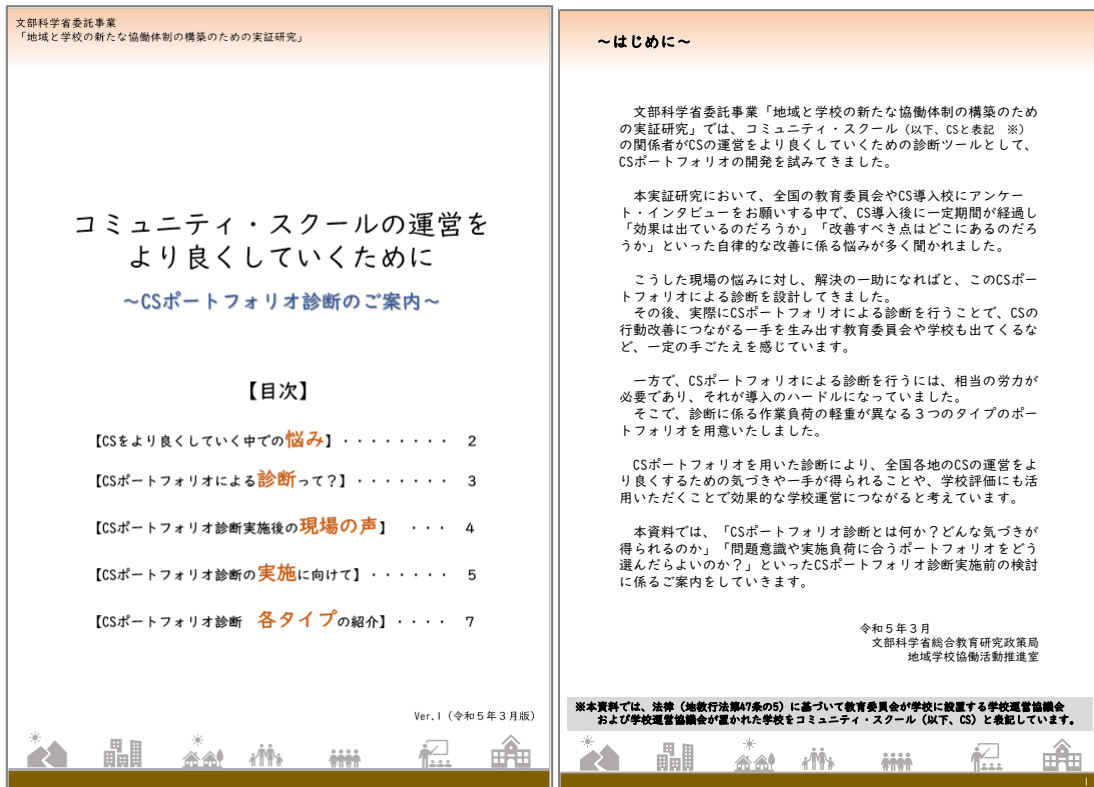


2 手引きの更新内容

本項では、「CSの運営に関するチェックシート」「CSポートフォリオ（標準版）」「CSポートフォリオ（詳細版）」全体の導入資料として本年度新規に作成した「コミュニティ・スクールの運営をより良くしていくために ～CSポートフォリオ診断のご案内～」について、その概要を紹介する。

「はじめに」では、本実証研究におけるCSポートフォリオ開発の目的及び経緯について掲載している。

図表 V-5 表紙及びはじめに



3～5ページでは、CSポートフォリオ開発にあたって参考にした関係者の問題意識や、「CSポートフォリオとは何なのか?」という疑問に対する「健康診断」を例に出した説明を記載しているほか、「CSポートフォリオを活用することで何ができるのか? (どんなメリットがあるのか)」について、実際に活用した関係者の声を紹介している。

図表 V-6 CSポートフォリオでどんなことができる?

【CSをより良くしていく中での悩み】

■CSの運営における悩み

全国の公立学校でのCS導入率は42.9% (令和4年度) まで広がってきていますが、CS導入後の教育委員会や学校では、このような悩みが良く聞かれます。

CS導入校 校長

・CSを導入したものの、学校運営協議会の運営は手探り。はたして効果的に運営できているのだろうか?

・協議会での議論を学校運営に活かすにはどんな工夫ができるだろうか?

CS導入 教育委員会

・CSの導入目的に対して、現在のCSの運営はきちんと効果を発揮できているのか?

・各CSの状況に応じた個別最適な支援をどのように展開していけばよいのか?

【そんな時に CSポートフォリオ による診断】

CS導入後にこのような悩みを抱えたときに、自校(所管校)のCSの状態を自己診断し、より良いCSにしていくために気付きを得るツールとしてCSポートフォリオを開発しました。

「ポートフォリオ」と聞くと、児童・生徒の学習経過や成果を整理・評価する際に用いられたりしますが、CSポートフォリオも同様です。CSの協議や活動の状態や、そこから得られているであろう成果について、関係者が振り返りをしやすいように一覧的に整理するものです。

次頁以降では、CS導入校の校長やCS導入教育委員会等の協力をいただいて作成したCSポートフォリオを使った診断の内容をご紹介します。

【CSポートフォリオによる診断って?】

CSポートフォリオによる診断をイメージするために、まず、私たち人間の健康診断をイメージしてみましょう。

【健康診断】

労働者の場合は年1回の健康診断が義務付けられていますが、健康診断では事前に日々の習慣をチェックしたうえで健診機関を訪問し、様々なデータを計測し、その計測結果が数値で示されます。その結果を持って、医師の問診を受け、自身の習慣や認識(具合が悪いところの自己認識等)とすり合わせて、維持・改善すべきポイントを見出そうとします。

【CSポートフォリオによる診断】

CSポートフォリオによる診断のコンセプトは健康診断と同様です。まず、CS関係者に対するアンケートで、CSに係る様々な意識や状態をチェックし、その計測結果をポートフォリオとして数値で示します。その結果を持って、学校運営協議会等で熟議・対話を行い、関係者の課題感等とすり合わせて、維持・改善すべきポイントを効果的に見出すものです。

CSポートフォリオによる診断のポイントは「CSの良し悪しを評価するものではなく、状態や課題、成果実感等の関係者の認識を確認し、維持・改善のホットスポットを抽出するものである」ということです。

※身体に個人差と同様に、学校や教育委員会にも地域差(固有性)があります。関係者の認識が数値化・図示されることで「自分たちの理想に対して、どこを改善したいか」を主体的に考えやすくなり、CSの熟議・対話をより建設的に進められる効果が期待できます。

【CSポートフォリオ診断実施後の現場の声】

< A 教育委員会のケース >

- ★状況：人口10万人の市で、設置校全校にCSを導入
- ★悩み：CS導入の狙いである「授業力向上」や「生徒指導の充実」への寄与が得られているのか分からないまま数年経過。
- ★目的：CS導入の効果を確認しようとCSポートフォリオ診断を実施

診断の結果、一部の学校では期待した傾向がみられました。

各校の校長にヒアリングをしてみると右のような取り組みが寄与しているのではとの声がありました。

☀️そこで、期待どおりの傾向がみられていなかった学校に対して、CS運営上の具体的な工夫点として、これらの取組を助言することができました。

- ◎学校運営協議会の協議結果をすぐに教員へ周知・還元している。
- ◎学校運営協議会に担当教員以外(学年主任等)も適宜参加し、課題の説明や協議を直接行っている。
- ◎協議会委員に対し、授業を積極的に公開(見学促進)し、生徒の実態を知ってもらうようにしている。

< B 小学校(学校運営協議会)のケース >

- ★状況：中心市街地にある全校生徒400名の中規模小学校。
- ★悩み：CS導入3年が経過するが、教員の協力・関心がなかなか得られず、協議会の雰囲気も低調。今後の運営方法を模索中。
- ★目的：自校のCSの状態を見えるためにCSポートフォリオ診断を実施

診断結果を見ると、他地域の傾向に比べ、教職員の「協議会に対する意識」が低く、その理由を探るため、関係者に聞いてみたところ、

教頭 (CS担当)

教員の負担になると思い、あえて情報提供していなかったんです。

教員

協議会の情報が欲しかったがもらえておらず、協議会のことが良く分からずいました。

と、これまでお互いに応えていた配慮が、逆にCSの効果を発現しにくくしているのではという気づきがありました。

☀️認識の相違が確認できたことで、今後は教頭から「協議結果をすぐに教員へ周知・還元しよう!」となり、一つの主体的な改善が図られました。

6～8ページでは、CSポートフォリオを活用しようとする際に、3種類のうちのどのタイプを選ぶと良いかを検討する材料となる情報を記載している。

図表 V-7 3タイプの紹介

【CSポートフォリオによる診断の実施に向けて】

【ニーズにあわせて3タイプから選択できます】

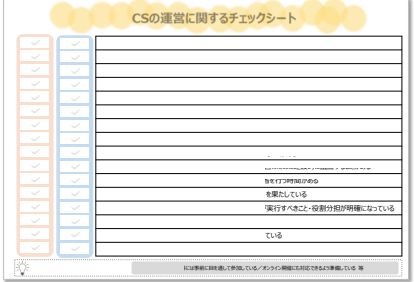
CSポートフォリオによる診断を行うには、関係者に対するアンケートを実施する必要があり、一定の手間がかかります。
そこで、かける手間の大きさに応じて3つのタイプを用意しています。
(かける手間と診断で把握できることは比例関係にあります。)
各教育委員会、各校の診断ニーズにあわせ、以下の3タイプ（チェックシートと2種類のポートフォリオ）から選択していただくことができます。

	CSの運営に関する チェックシート	CSポートフォリオ (標準版)	CSポートフォリオ (詳細版)
主な用途	議会委員の気づきや行動変容のきっかけを探る「お試し版」	主に委員と教職員の視点から学校運営の改善点を探る	CSに関わる各主体の状態や成果実感を測定し、改善点を探る
調査対象	1主体	3主体	5主体
委員	○	○	○
教職員	-	○	○
児童・生徒	-	△ (選択)	○
地域	-	-	○
保護者	-	-	○
調査項目	協議会運営の状態に関する重要指標	学校運営・ガバナンスに係る指標	CSに期待される成果や状態に係る指標
協議会運営の状態	△ (一部指標抽出)	○	○
関係者の意識・活動及び成果実感	-	△ (教職員のみ) (一部指標抽出)	○
児童・生徒の認識・状態	-	△ 一部指標抽出	○
指標数	計15指標	計74指標	計177指標

【CSポートフォリオによる診断の実施に向けて】

⇒ **【CSの運営に関するチェックシート】を使うなら**

最も負荷が小さく、お試して使ってみたいケースに最適なチェックシートです。
まず、文部科学省のウェブサイトへアクセスします。
(URLを表示：<https://manabi-mirai.mext.go.jp/upload/060katsuyou.pdf>)
こちらからチェックシートをダウンロードすることができますので、協議会委員に配布したり、ワークショップのように共同でチェックします。

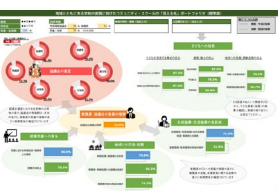


試してみても、より詳細に診断してみたいと思ったら、CSポートフォリオ（標準版）または（詳細版）を使ってみてください。

【CSポートフォリオ診断各タイプの紹介】

⇒ **【CSポートフォリオ（標準版）】を使うなら**


CSポートフォリオの標準版です。文部科学省のウェブサイトから実施の手引きをダウンロードできますので、手引きに沿って実施してください。



(URLを表示：<https://manabi-mirai.mext.go.jp/upload/050katsuyou.pdf>)

⇒ **【CSポートフォリオ（詳細版）】を使うなら**

CSポートフォリオの詳細版です。こちらも文部科学省のウェブサイトから実施の手引きをダウンロードできますので、手引きに沿って実施してください。



(URLを表示：<https://manabi-mirai.mext.go.jp/upload/060katsuyou.pdf>)

VI. 委員会の設置・運営

教職員への効果検証等やCSポートフォリオ簡易版の作成にあたり、その方針や内容について議論するため、過年度の有識者委員を中心とした委員会を設置し、議論を行った。

1-1. 有識者委員の人選

有識者委員として、下記の4名を選出した。

図表 VI-1 有識者委員

所属	氏名・人数	備考
国立教育政策研究所 総括研究官	志々田 まなみ氏	CSに関する多数の研究実績あり、実践現場に関する知見も深い
日本大学文理学部 教育学科 教授	佐藤 晴雄氏	社会教育学専門、CSに関する多数の研究実績あり（過年度有識者委員会委員長）
高梁市教育委員会 社会教育課	安田 隆人氏	前職で校長を務めた寄島小学校にて、教職員への効果を意識したCS運営を行う（過年度有識者委員会委員）
一般社団法人ライフ&ワーク 代表理事	妹尾 昌俊氏	教職員の働き方改革や学校経営に関して一般的な知見を有する

1-2. 各回の議題

会議は全3回実施し、各回の議題は以下の通りである（委員会における具体的な議論・指摘内容等は「II. 教職員への効果等分析」及び「III. CSポートフォリオ簡易版の作成」の各章の中で記載）。

なお、会議は文部科学省会議室において行ったが、オンラインによる参加も可能とするハイブリッド形式とした。

図表 VI-2 各回の議題

回数	日時	議題
第1回	2022年9月7日（水） 14:00～16:00	(1)過年度及び本年度の実証研究について (2)教職員向けアンケートの再分析結果 (3)今後のコミュニティ・スクールの推進方策について
第2回	2022年12月2日（金） 15:00～17:00	(1)教職員アンケートの再分析結果 (2)CSポートフォリオ簡易版の作成方針について (3)学校インタビュー調査の実施方針について
第3回	2022年2月14日（火） 15:00～17:00	(1)教職員アンケートの再分析結果まとめ（報告） (2)CSポートフォリオ更新の全体像について (3)CSポートフォリオの手引き（案）について

VII. 実証研究のまとめ

1-1. 実証研究より得られた成果

本年度の実証研究からは、以下のような成果を得ることが出来た

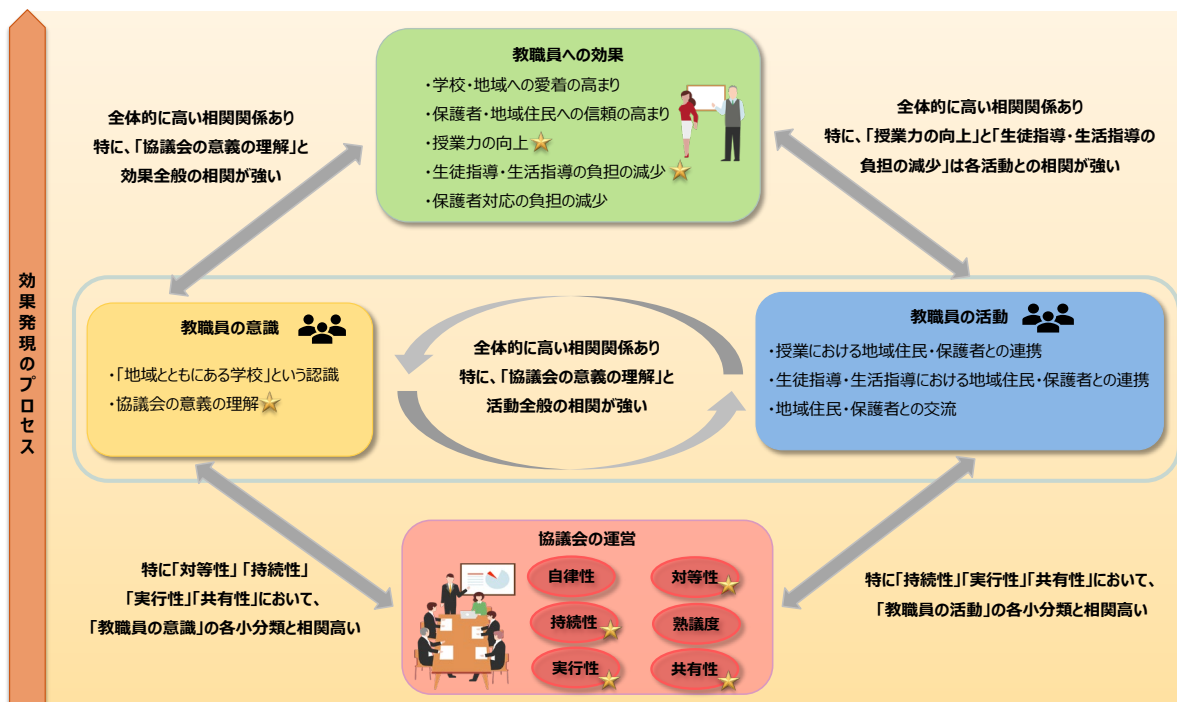
(1) CS ポートフォリオの構造の妥当性の確認

教職員への効果等分析からは、CS ポートフォリオの「協議会の運営」は「教職員の意識」及び「教職員の活動」との相関関係があり、特に「対等性」「持続性」「実行性」「共有性」は「教職員の意識」と、「持続性」「実行性」「共有性」は「教職員の活動」との相関関係が大きいことが分かった。協議会の運営（特に上に示した要素）を充実させていくことが、教職員の意識や活動にプラスの影響を与えうることが示唆された。

また、「教職員の意識」と「教職員の活動」の間には高い相関関係があり、さらに「教職員の意識」及び「教職員の活動」と「教職員への効果」との間にも、それぞれ高い相関関係があることが分かった。教職員の意識・活動・成果実感は密接に関係しており、意識や活動を充実させていくことで成果実感を高め得ることも示唆されたと言える。

これらの関係性を1つの関係図に整理したものが以下である。各要素はつながり合っており、協議会の運営状態をより良くしていく取組が、最終的には教職員の成果実感につながるという関係性を描くことができる。CS ポートフォリオの構造は、下図の左側に矢印で示すような効果発現のプロセスを仮説としていたが、この構造の妥当性が検証できたといえる。

図表 VII-1 分析結果のまとめ（再掲）

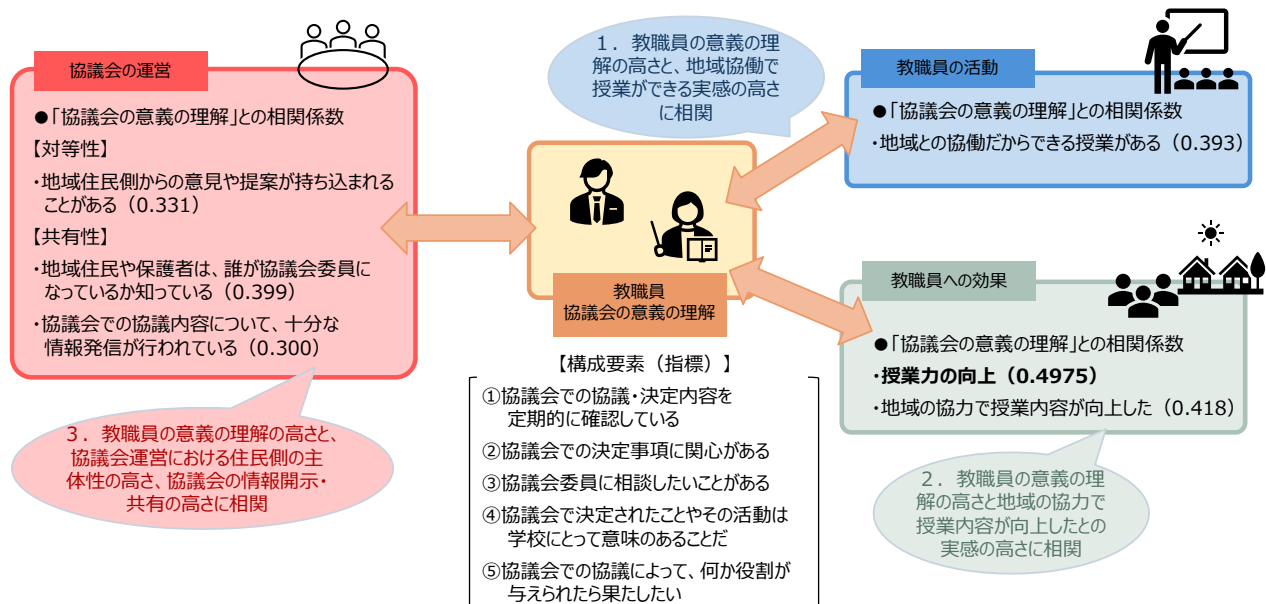


(2) CSの「授業改善」及び「教職員の負担減」への寄与

教職員への効果等検証としては、特に「授業改善への寄与」及び「生徒指導・生活指導の充実」に着目して結果の読み取りを行った。CSが従来から学校運営の「ガバナンス」を意図した制度であることや、学習指導要領（社会に開かれた教育課程）に対応する観点では、多様な主体への効果以上に、教育課程（授業の質の向上）や、教職員の負荷軽減への効果にフォーカスすることが妥当と考えたためである。

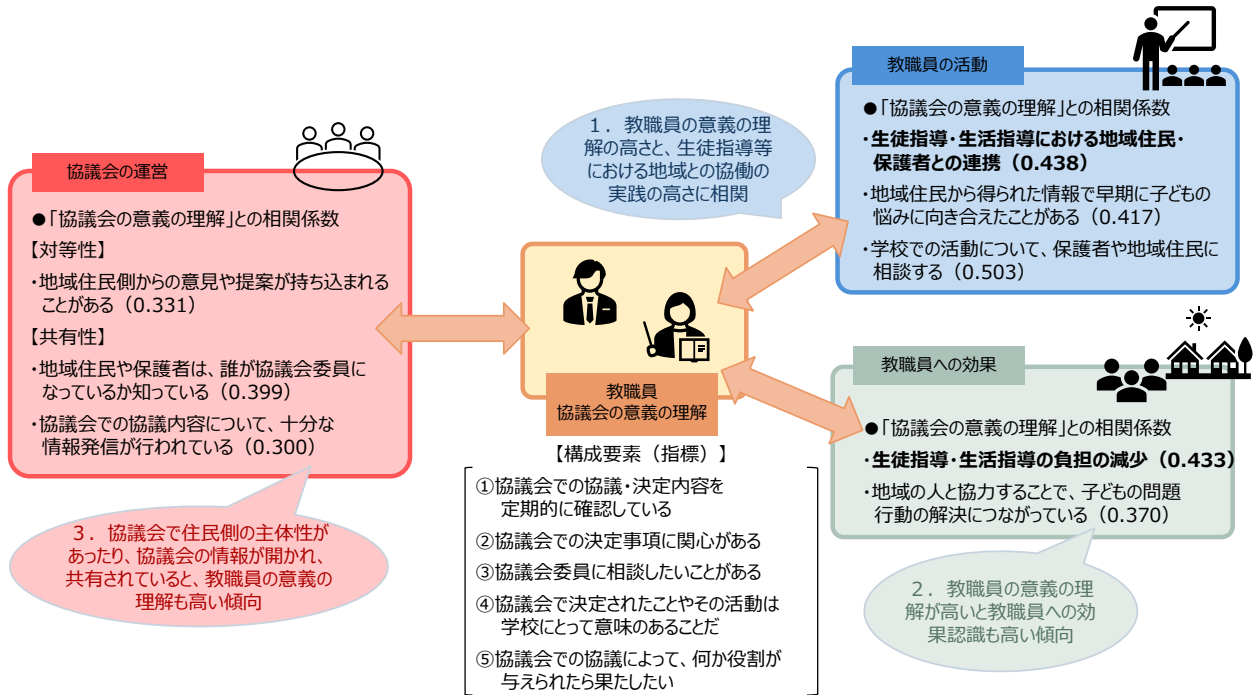
これらに着目した分析から導き出された関係性が次の図である。「授業力の向上」や「生徒指導・生活指導の充実」に関する成果実感が高い教職員は、意識として「協議会の意義の理解」も高いことが分かった。そして、教職員の「協議会の意義の理解」が進む学校では、協議会で対等な議論・開かれた運営がされている傾向が読み取れる（「対等性」「共有性」が高い）。これらのことから、協議会を対等で開かれた運営にしていくことで、授業改善や教職員の負担減に関して、教職員の成果実感の高いCSに改善していくことができる可能性が示唆されたといえる。

図表 VII-2 授業改善への寄与（再掲）



注) 図中の「(数値)」は、教職員の意識「協議会の意義の理解」との相関係数を示す。

図表 VII-3 生徒指導・生活指導の充実（再掲）



注) 図中の「(数値)」は、教職員の意識「協議会の意義の理解」との相関係数を示す。

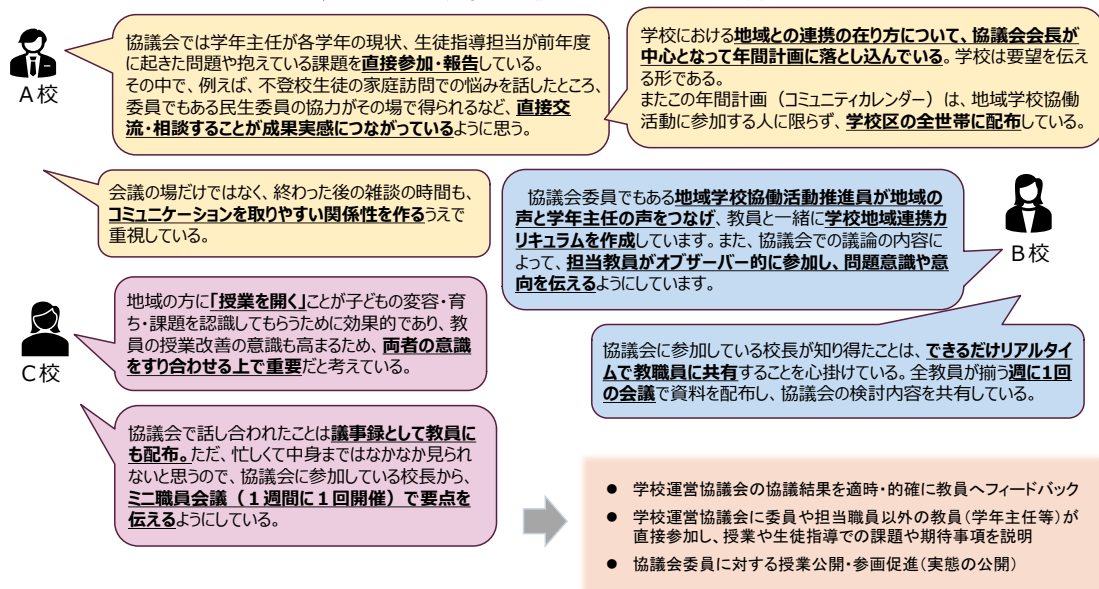
(3) 成果発現校における取組・工夫の聴取

(2) で記したような関係性が見られた(=「授業改善への寄与」と「生徒指導・生活指導の充実」に関して教職員の成果実感が高かった)学校に対しヒアリングを行ったところ、下記のような取組や工夫が行われていることが分かった。

共通していた事項として、大きく「①学校運営協議会の協議内容について適時的確に教職員に対してフィードバックすること」「②学校運営協議会に委員や担当職員以外の教職員(学年主任等)が直接参加し、授業や生徒指導での課題や地域住民への期待事項について説明すること」「③協議会委員に対する授業公開・参画促進を進めることで、学校の実態について共有を進めること」の大きく3点が聴取できた。

このような取組・工夫によって、CSの「授業改善への寄与」や「生徒指導・生活指導の充実」に関する成果発現につながりやすくなる可能性が示唆された。

図表 VII-4 効果発現校の取組・工夫(再掲)



(4) CSポートフォリオ（標準版）の作成

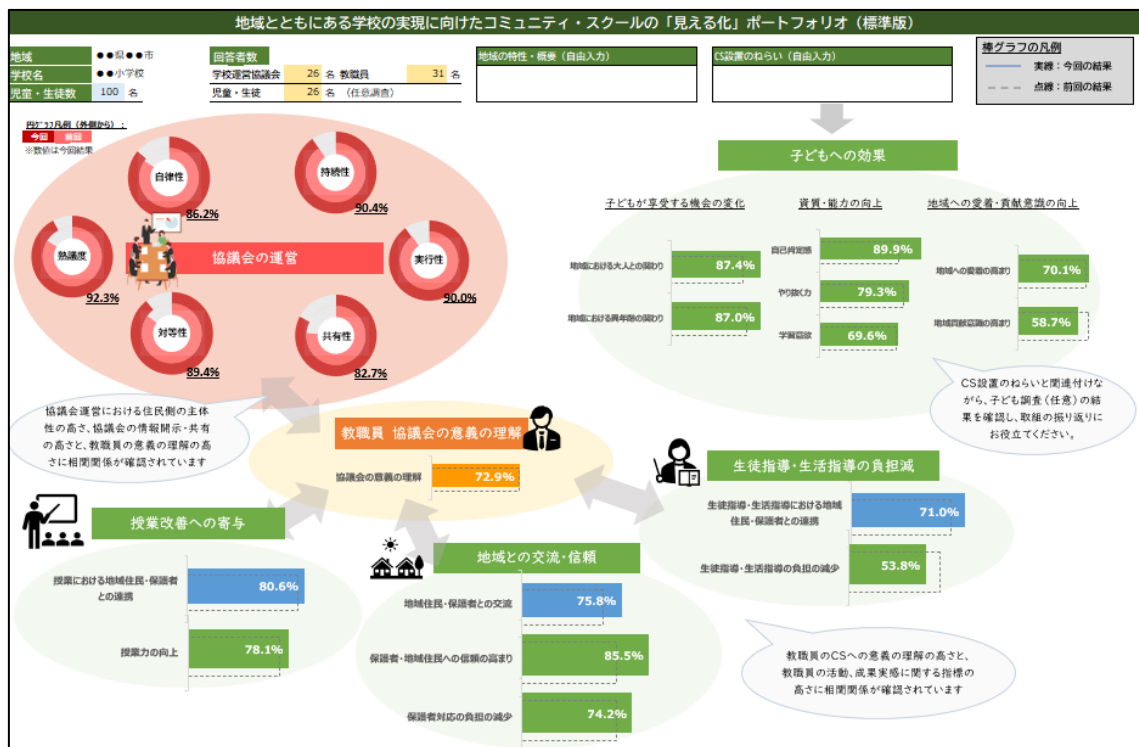
教職員への効果等分析の結果も踏まえながら、より調査の負荷を軽減したタイプとして「CSポートフォリオ（標準版）」を作成した。CSが従来から学校運営の「ガバナンス」を意図した制度であることや、学習指導要領（社会に開かれた教育課程）に対応する観点から、教育課程（授業の質の向上）や、生徒指導・生活指導の充実への効果にフォーカスしたものである。

これらの効果が相応の調査負荷で取れることから、今後CSポートフォリオを普及・展開していくにあたっては、こちらのツールをスタンダードとして広げていくことが妥当であるとの判断のもと、これを「CSポートフォリオ（標準版）」と呼ぶこととした。

調査対象が5→3主体（うち、児童・生徒への調査は任意）となり、調査項目数も半数以下に減少したことで調査負荷が軽減しているため、活用のハードルが低くなり、より多くの学校・地域において活用されることを期待したい。

なお、従来から作成していたものは「CSポートフォリオ（詳細版）」として、地域住民や保護者も含めたより詳細な実態と効果を把握したい場合に使用するツールとして位置づけた。

図表 VII-5 CSポートフォリオ（標準版）総括表イメージ（再掲）



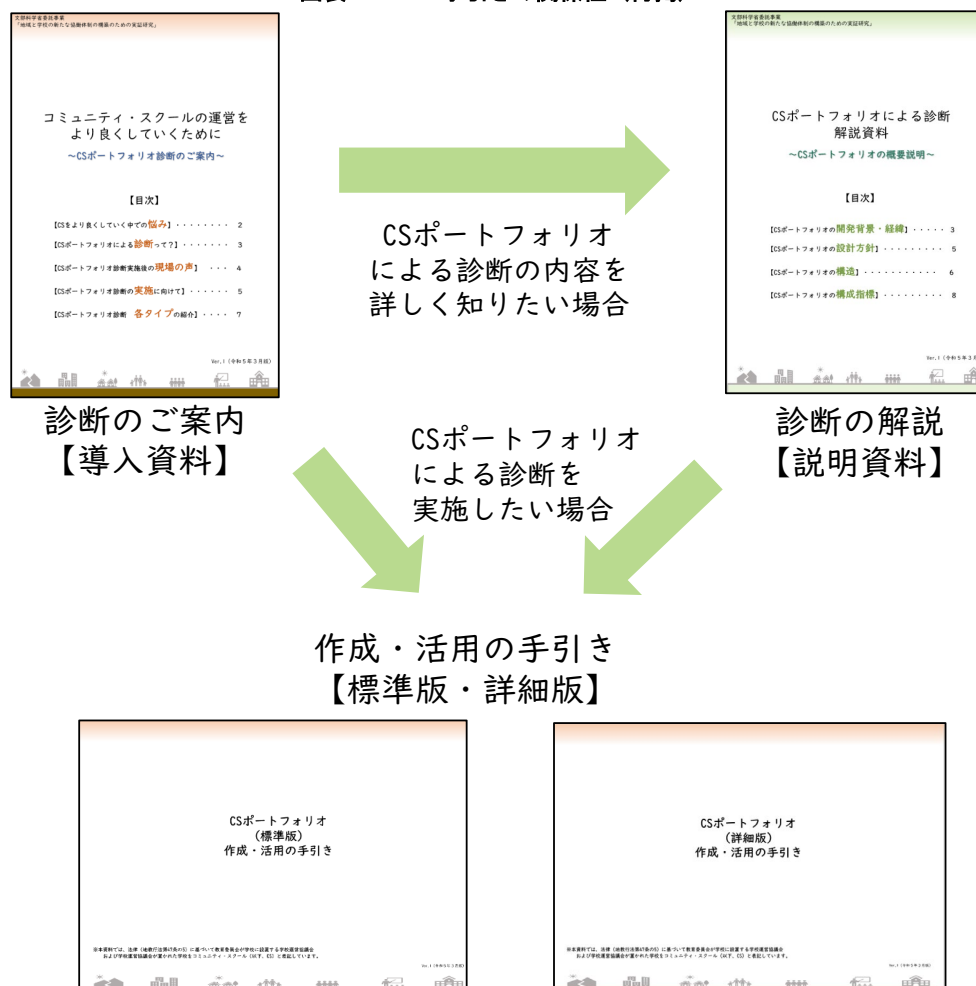
(5) 手引きの更新

「CS の運営に関するチェックシート」「CS ポートフォリオ (標準版)」「CS ポートフォリオ (詳細版)」の3種類のツールが出来たことを踏まえ、全体の導入・説明資料となる手引きを新たに作成した(「コミュニティ・スクールの運営をより良くしていくために ～CS ポートフォリオ診断のご案内～」)。

また、従来作成していた「CS ポートフォリオ作成の手引き」及び「CS ポートフォリオ活用の手引き」については統合整理するとともに、「標準版」と「詳細版」それぞれに対応する「作成・活用の手引き」を作成した。

これによって、これからCS ポートフォリオを活用しようとする学校や地域にとってはより分かりやすい資料が整った。手引きの内容がより多くの学校・地域に周知されることを期待したい。

図表 VII-6 手引きの関係性 (再掲)



1-2. 今後に向けて

(1) 普及・展開に向けた情報発信

本実証研究においては、数年にわたり CS ポートフォリオの開発及び改善に取り組んできた。本年度は、CS ポートフォリオ作成に係る調査負荷を軽減したタイプとして「CS ポートフォリオ（標準版）」の開発に取り組んだが、令和3年度にも、アンケート調査の負荷軽減のために Google フォーム自動配布ツールを作成するなど、CS ポートフォリオの普及・展開に向けた事業内容に取り組んできた。

しかしながら、依然として CS ポートフォリオの認知度は高くなく、これが多くの学校や地域で活用されるようになるためには、より一層の情報発信が必要であると考えられる。

作成したツールや手引きをホームページ上で公開するだけではなく、都道府県や基礎自治体教育委員会向けに説明会を開催するなど、今後は情報発信に関する取組を充実させることが必要である。

(2) CS ポートフォリオの柔軟な活用

CS ポートフォリオは、CS で期待される多様な効果を網羅することを起点に設計されているため、CS の導入目的・目標が曖昧な状態の学校や教育委員会においては、様々な効果側面や状態を把握できる良さ（これまで気づけていなかった側面を意識できるようになる等）がある一方、ある程度 CS の導入目的・目標が明確になっている学校や教育委員会においては、必要のない指標も含む総花的な指標が多い印象をもたれる可能性がある。

後者の学校・教育委員会においては、CS ポートフォリオが示す効果発現までのプロセスモデルは参考としつつも、各学校・教育委員会が設定している目標に準じた指標のみを抽出したり、独自に設定する指標と融合させたりすることで、独自の CS ポートフォリオによる診断を実施していくことが最も効果的であると考えられる。

CS ポートフォリオ指標に固執するのではなく、これが柔軟かつ効果的に活用されることを期待したい。